

Adobe Illustrator® Plug-ins

バーコード *ROB04*TM
組版 *ROB04*TM

チュートリアル編・改訂 12 版

(C)1994-2017 有限会社ナカエソフトウェア開発 All Rights Reserved.

バーコード ROBO4, 組版 ROBO4 は有限会社ナカエソフトウェア開発の商標です。

Adobe, Illustrator は Adobe Systems Incorporated (アドビ システムズ社) の登録商標です。

Mac OS X, OS X, macOSはApple Inc.の登録商標です。

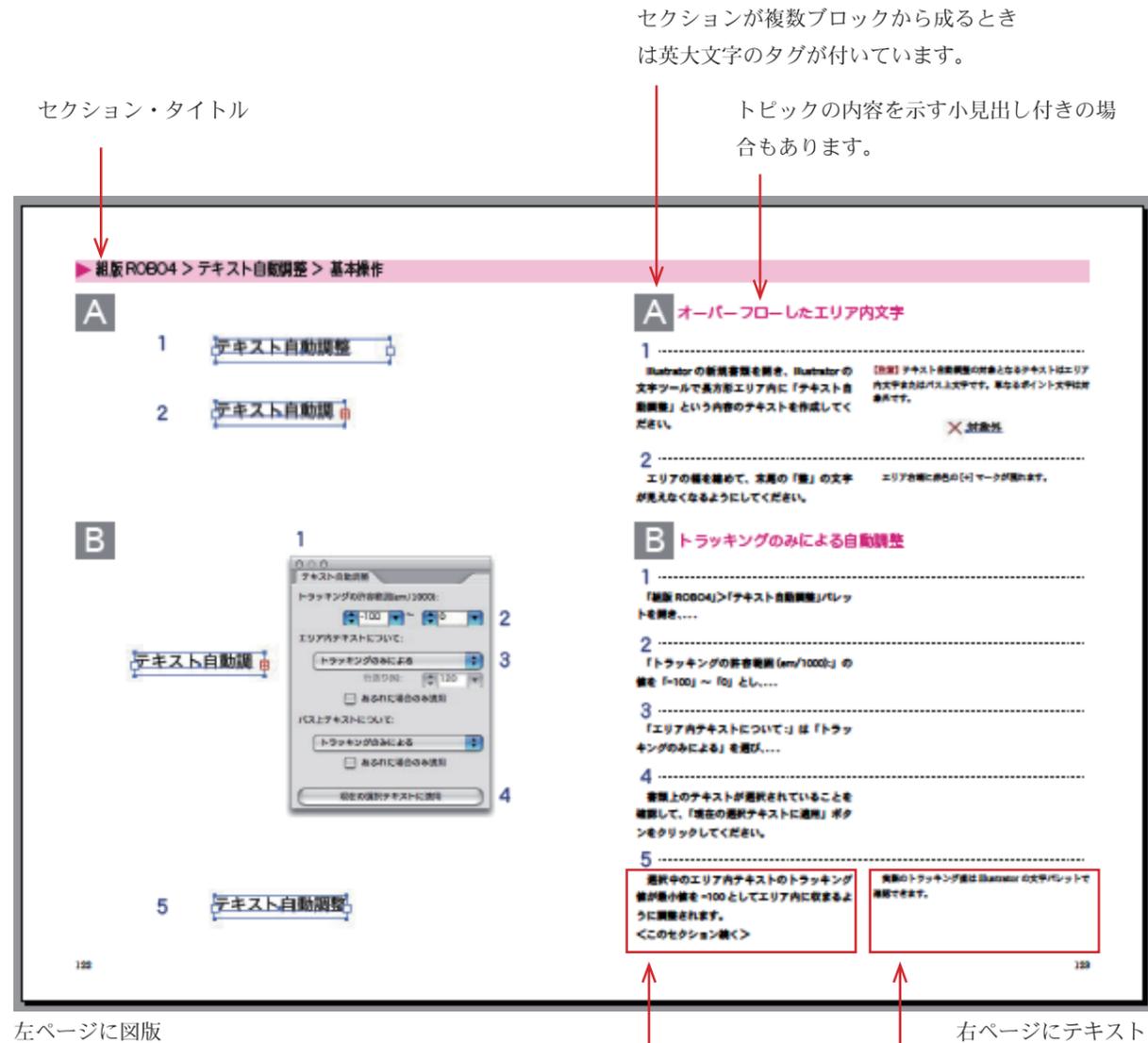
Windows, Excel は Microsoft Corporation の登録商標です。

FileMaker, ファイルメーカーは FileMaker, inc. の登録商標です。

QR コードは株式会社デンソーウェーブの登録商標です。

その他全てのブランド名または製品名はそれらの所有者の商標もしくは登録商標です。

§ このチュートリアル構成と読み方



左ページに図版

右ページにテキスト

各レッスンステップの本文

必要に応じて各ステップの補足や注釈など

セクションが複数ブロックから成るときは英大文字のタグが付いています。

トピックの内容を示す小見出し付きの場合もあります。

セクション・タイトル

このチュートリアルは大きく次の3つの章から構成されています。

第1章 バーコード ROBO4

第2章 組版 ROBO4

第3章 プリセット・メニュー

各章はいくつかのセクションからなり、各セクションはレッスンのステップ形式で、見開き2ページで1組の構成になっています。右ページは操作や説明のためのテキスト、左ページはその図版です。各セクションごとの図版とテキストは必要に応じてレッスンのステップ順を示すアルファベット大文字とアラビア数字を割り付けてあります。これにより図とテキストを対応づけてご覧ください。

右ページは横2段組になっていて、左段は本文、右段には左段本文の補足や注釈、注意事項などが記述されています。

このチュートリアルはバーコード ROBO4（組版 ROBO4 の全機能を含む）パッケージと組版 ROBO4 単体パッケージとで共用しています。したがって、パッケージおよび使用目的の応じて次に示す章またはセクションをお読みください。

● 組版 ROBO4 単体ユーザの方

第2章 組版 ROBO4

（バーコード ROBO4 関連頁を除く）

第3章 プリセット・メニュー

● バーコード ROBO4 ユーザの方

◎ 特定のバーコードの作成だけを行う場合

第1章 バーコード ROBO4

第3章 プリセット・メニュー

※連番でバーコードを出力する場合は 第2章 組版 ROBO4 の「組版 ROBO4 > 連番オブジェクト配列 > 連番バーコード」のセクション

◎ バーコードの作成がメインだが外部データを取り込んでの作成もおこなう場合

第1章 バーコード ROBO4

第2章 組版 ROBO4

（画像配置関連頁を読み飛ばしても結構です）

第3章 プリセット・メニュー

◎ バーコードの作成のみならず組版 ROBO4 の機能もフル活用する場合

全ページ

このチュートリアルでは、バーコード ROBO4 と組版 ROBO4 の使い方について具体的な例をもとに説明します。

まず、バーコード ROBO4 のうち最も代表的なバーコードである JAN13 を取り上げます。ここで JAN13 についての操作パネルでの設定方法を習得すれば、他のバーコードについての基本的な使い方も理解できます。バーコードごとに異なる個別の設定項目については、「ROBO4 リファレンス .pdf」の各バーコードごとのページをご覧ください。

次に、組版 ROBO4 の使い方については各パネルごとに具体例をもとに説明します。

最後にプリセットメニューの定義方法やインポート・エクスポートについても説明します。

※本文の画面ショットは Mac OS X 環境のものですが、Windows 環境でも機能的には同じです。

目次

第1章 バーコード ROBO4—9

- ▶ バーコード ROBO4 > 操作パネルの表示方法—10
- ▶ バーコード ROBO4 > メニュー順の変更—12
- ▶ バーコード ROBO4 > シンボルの作成とライブアップデート—14
- ▶ バーコード ROBO4 > 取り消し（アンドゥ）とやり直し（リドゥ）—20
- ▶ バーコード ROBO4 > 文字のアウトライン化と背景選択—22
- ▶ バーコード ROBO4 > いろいろなスタイルを試みる—24
- ▶ バーコード ROBO4 > 詳細設定について—28
- ▶ バーコード ROBO4 > 黒バー幅の補正（BWR）について—30
- ▶ バーコード ROBO4 > 作成済みバーコードのパネルを開く方法—32

第2章 組版 ROBO4—35

- ▶ 組版 ROBO4 > 各操作パネルの表示方法—36
- ▶ 組版 ROBO4 > 連番オブジェクト配列 > 概要—38
- ▶ 組版 ROBO4 > 連番オブジェクト配列 > 基本操作—40
- ▶ 組版 ROBO4 > 連番オブジェクト配列 > ページ番号も割り振る—52
- ▶ 組版 ROBO4 > 連番オブジェクト配列 > キャラクタ混在例—56
- ▶ 組版 ROBO4 > 連番オブジェクト配列 > 画像配置—59
- ▶ 組版 ROBO4 > 連番オブジェクト配列 > 連番バーコード—60
- ▶ 組版 ROBO4 > 連番オブジェクト配列 > 複合—64
- ▶ 組版 ROBO4 > レコード順次取り込み配列 > 概要—66
- ▶ 組版 ROBO4 > レコード順次取り込み配列 > 基本操作—68
- ▶ 組版 ROBO4 > レコード順次取り込み配列 > 改ページ／ページ番号付け—80
- ▶ 組版 ROBO4 > レコード順次取り込み配列 > 画像配置—88
- ▶ 組版 ROBO4 > レコード順次取り込み配列 > バーコード—92
- ▶ 組版 ROBO4 > レコード順次取り込み配列 > 複合—96

- ▶ 組版 ROBO4 > レコードちらし取り込み > 概要—98
- ▶ 組版 ROBO4 > レコードちらし取り込み > 基本操作—100
- ▶ 組版 ROBO4 > レコード逐一取り込み > 基本操作—112
- ▶ 組版 ROBO4 > レコード逐一取り込み > 画像配置—116
- ▶ 組版 ROBO4 > レコード逐一取り込み > バーコード—118
- ▶ 組版 ROBO4 > テキスト自動調整 > 概要—120
- ▶ 組版 ROBO4 > テキスト自動調整 > 基本操作—122
- ▶ 組版 ROBO4 > テキスト自動調整 > 取り込み処理などとの併用—126
- ▶ 組版 ROBO4 > データベース・ファイルについて—132
- ▶ 組版 ROBO4 > テキスト指定による画像配置—136

第3章 プリセット・メニュー—147

- ▶ プリセット・メニュー > 概要—148
- ▶ プリセット・メニュー > 定義パネル—150
- ▶ プリセット・メニュー > 新規プリセットの登録および削除—152
- ▶ プリセット・メニュー > プリセット内容およびメニュー名の更新—154
- ▶ プリセット・メニュー > インポート（ROBO4 ← ROBO3/4）—156
- ▶ プリセット・メニュー > エクスポート（ROBO4 → ROBO4）—160

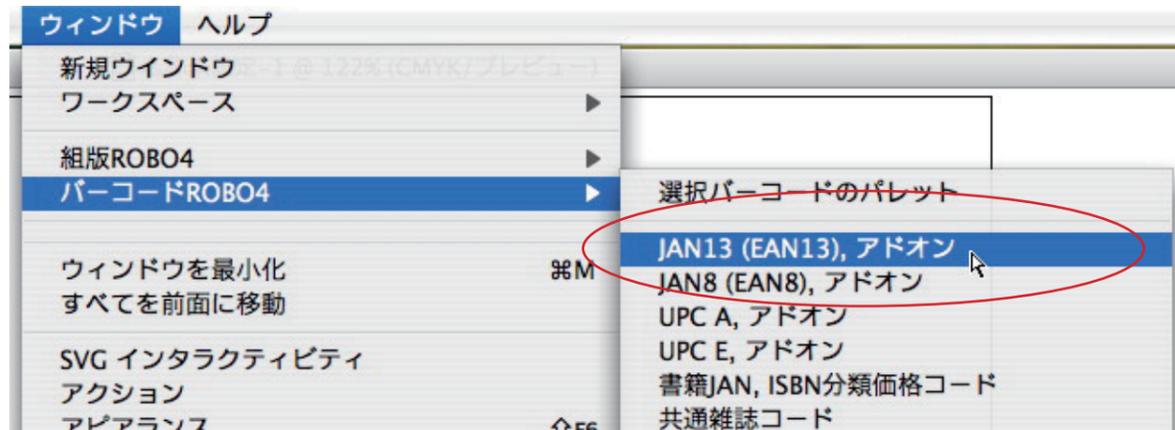
第1章

バーコード ROBO4

▶ バーコード ROBO4 > 操作パネルの表示方法

バーコード ROBO4 のレッスンの前に、各操作パネルの開き方を説明しておきます。

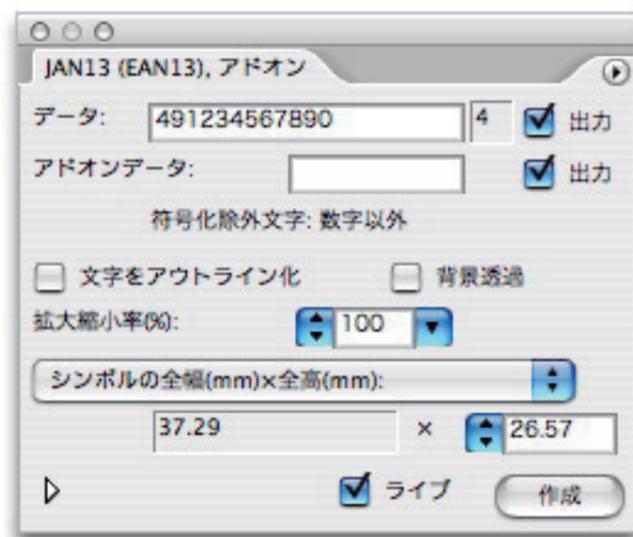
1



1

Illustrator の「ウィンドウ」メニューから「バーコード ROBO4」>「JAN13 (EAN13), アドオン」を選択してください。

2



2

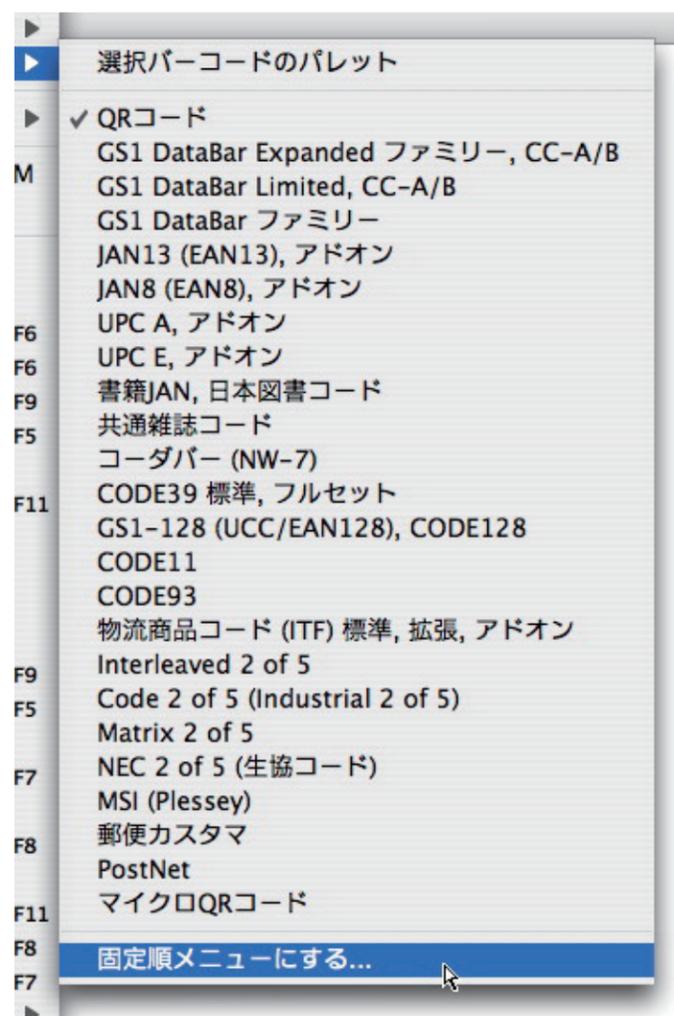
「JAN13 (EAN13), アドオン」パネルが表示されます。他のバーコード種についても同じサブメニューにあり、同様に開くことができます。

バーコード作成パネルを閉じるには、パネルのクローズボタンをクリックするか、Illustrator の「ウィンドウ」>「バーコード ROBO4」サブメニューからチェックマークの付いた項目（現在開いているバーコードのもの）を選択してください。

なお、バーコード作成パネルは一度に1種のみ開かれます。他のバーコードの作成パネルを開くとそれまで開いていたバーコードのものは自動的に閉じられます。

▶ バーコード ROBO4 > メニュー順の変更

1



※ Illustrator CS6 以降用では、「QRコード」アイテムは「QRコード, GS1QRコード」となり、「Data Matrix (ECC 200)」メニューアイテムが追加されます。

バーコード ROBO4 のサブメニューにおけるバーコード種の並びは、固定順かまたは最近使用順かを選択できます。切り替えはサブメニュー最下段の項目でおこないます。

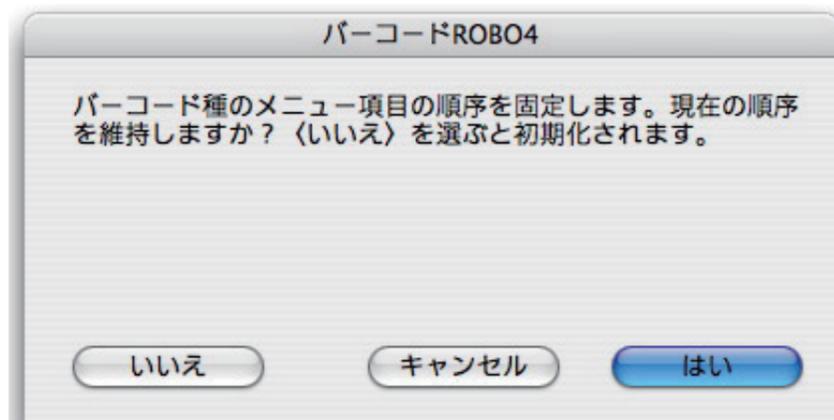
「最近使用順」時には、選んだバーコード種のメニューが最上段へと送られます。

1

「固定順メニューにする...」を選ぶと、...

最下段のメニュー表示は、最近使用順時には「固定順メニューにする...」、固定順時は「最近使用順メニューにする..」に切り替わります。

2

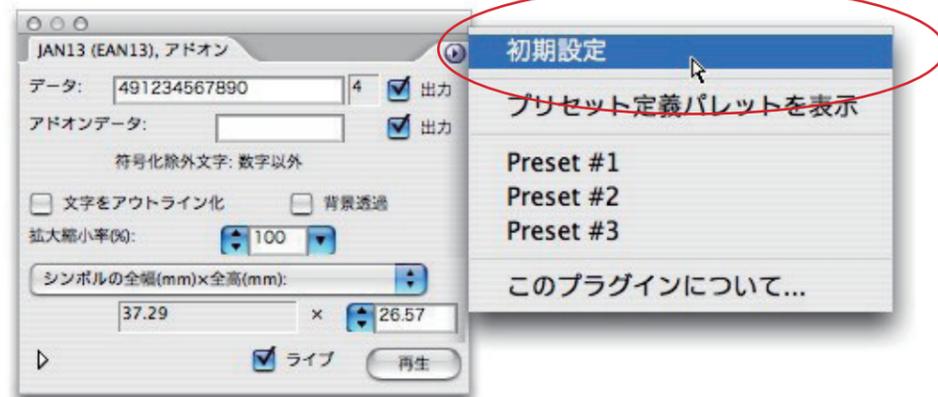
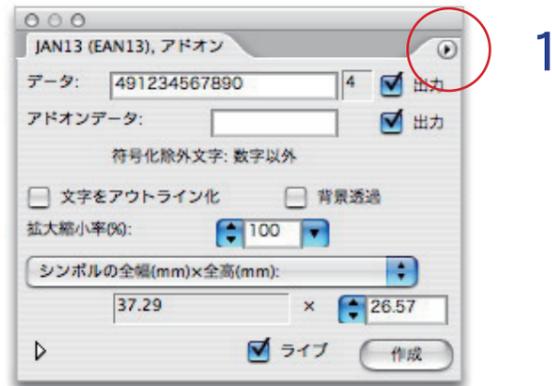


2

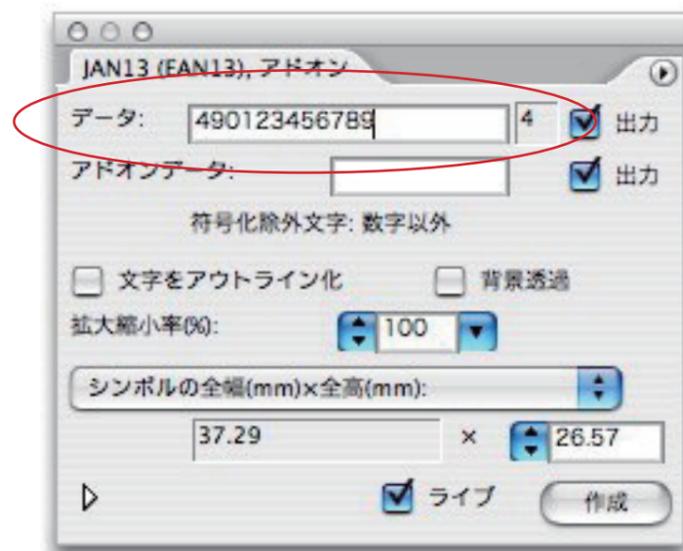
メッセージボックスが現れます。このとき現在のメニュー順でそのまま固定にするか、メニュー順を初期化して固定するかを選択することができます。

▶ バーコード ROBO4 > シンボルの作成とライブアップデート

A



B



では、バーコード ROBO4 を用いてバーコード・シンボルを作成する方法について順を追って説明します。

この章では JAN13 の場合を取り上げますが、他のバーコード種についても基本操作法は同様です。他のバーコードを作成する場合にもこの章の操作手順を一通り理解し、詳細は「ROBO4 リファレンス .pdf」をご覧ください。

A パネルの初期化

1
前セクションに習い「JAN13 (EAN13), アドオン」パネルを開き、パネル右上のポップアップ・メニューをクリックして、...

2
「初期設定」を選んでください。パネルのすべての設定項目が、規定値で初期化されます。
このポップアップ・メニューにはユーザー定義のプリセットを登録できます。

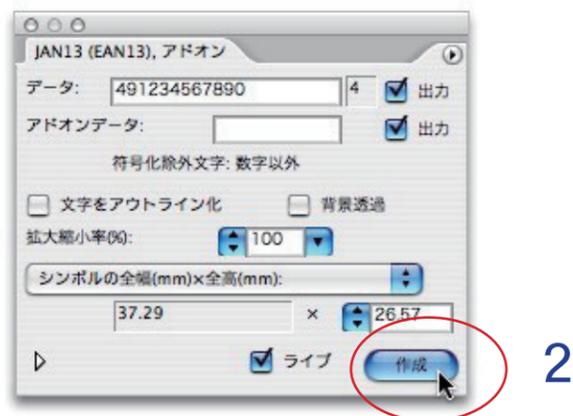
プリセットとは現在のパネル設定値に名前をつけて保存し、適宜呼び出して再利用が簡単にできるようにするものです。バーコード ROBO4 ではこのプリセットをメニュー化したり、他のユーザが作成したプリセットをインポートしたり、逆に他へエクスポートしたりできます。また、旧バーコード ROBO3 のプリセットをインポートすることも可能です。詳しくは「プリセット・メニュー」の章をご覧ください。

B シンボルの作成

1
「データ :」欄に半角で「490123456789」と 12 桁の数字を入力してください。
<このセクション続く>

【注意】 CS5 において、オプション属性「新規オブジェクトをピクセルグリッドに整合」が指定されている書類上ではバーコードを作成しないでください。このオプションは新規書類作成時ダイアログウィンドウの「詳細」設定や「変形」パネルの右肩にあるメニューで指定解除できます。

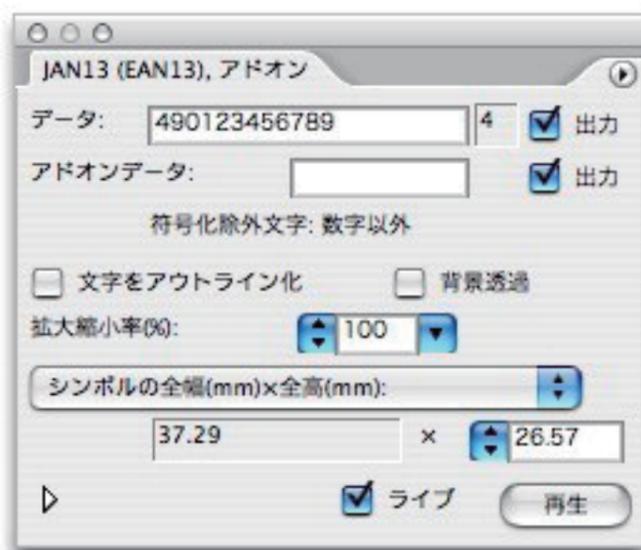
また、CS6 以降においてもバーコード作成後にも Illustrator 「変形」パネルにある「ピクセルグリッドに整合」オプション(チェックボックスによる)を指定しないでください。

B**B**

2

パネル右下の「作成」ボタンをクリックすると、...

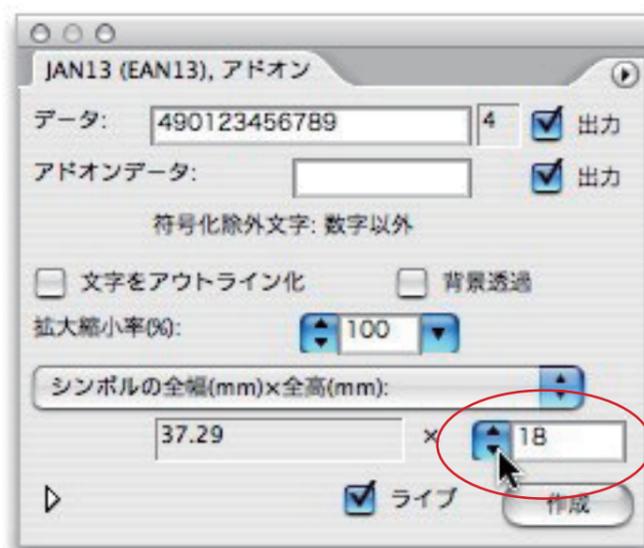
3



3

Illustrator の書類上にバーコード・シンボルが作成されます。このとき、バーコード・シンボルのフレーム（ほとんどのバーコードは余白部を表す）だけが選択状態になります。

作成バーコードが選択状態のときには、「作成」ボタンは「再生」ボタンへとラベル名が変化しています。

C**C**

ライブアップデート（高さを調整する）

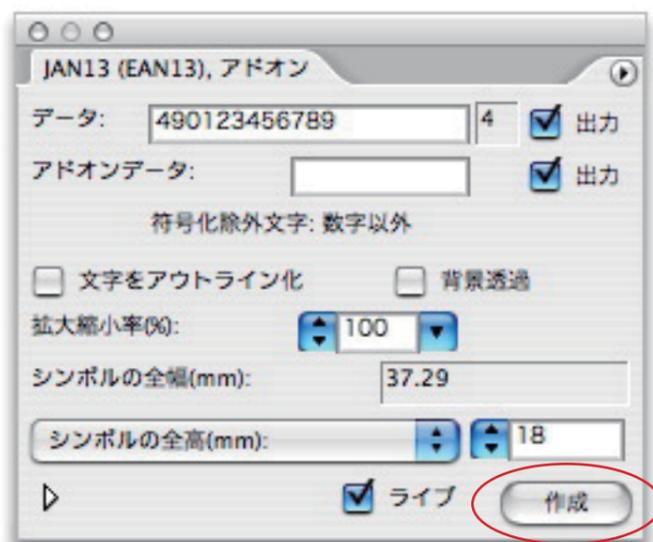
バーコード・シンボルを選択状態のまま、パネルの「シンボルの全高 (mm):」欄の値を「18」に変更してください。「ライブ」がチェック状態の場合は、リアルタイムでバーコード・シンボルが更新されます。

<このセクション続く>

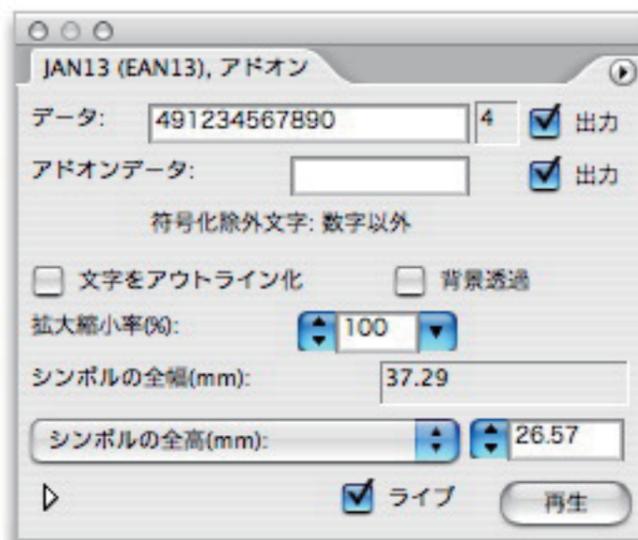
「ライブ」のチェックを外してある場合は、設定値の変更を選択バーコード・シンボルに反映させるために、その都度「再生」ボタンをクリックする必要があります。

D

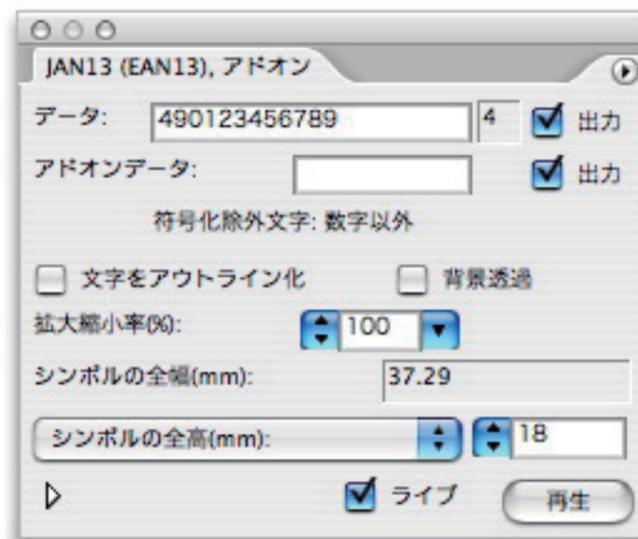
1



2



3



D

ライブアップデート (シンボルとパネルの同期)

1

バーコード・シンボルの選択を解除してください。パネルの「再生」ボタンは再び「作成」ボタンに戻ります。

2

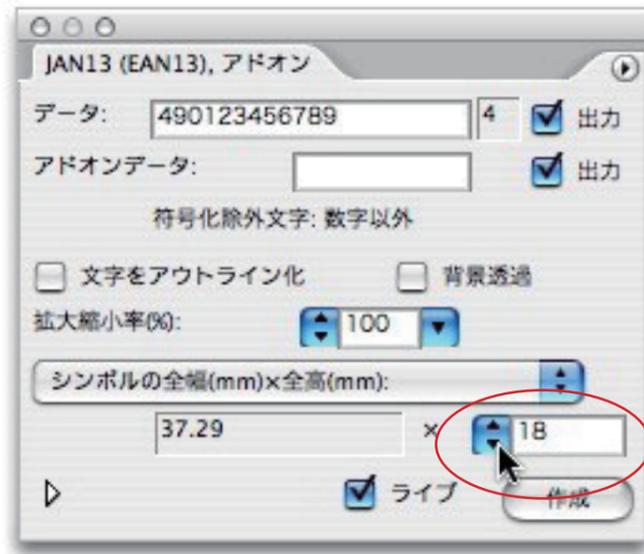
プリセット・メニューの「初期設定」を選んでから、もうひとつバーコード・シンボルを作成してください。

3

再び1のバーコード・シンボルを選択してください。パネルの設定内容も選択中のバーコード・シンボルのものに戻っていることを確認してください。

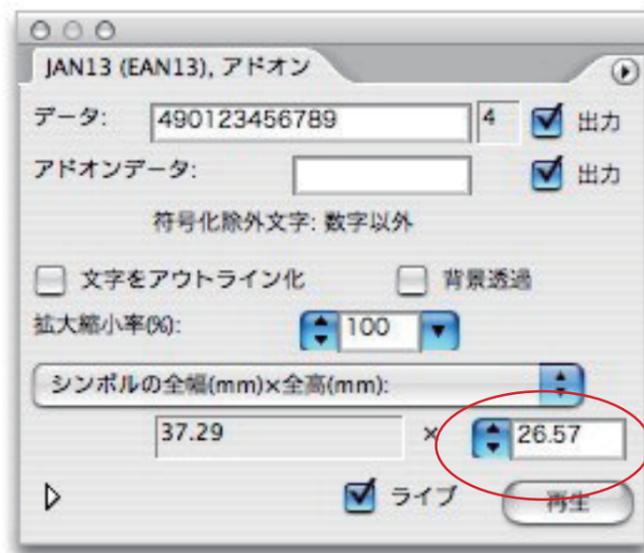
同種のバーコード・シンボルを選択してもパネルの設定値を変えたくない場合には「ライブ」のチェックを外しておいてください。

▶ バーコード ROBO4 > 取り消し (アンドゥ) とやり直し (リドゥ)



取り消し (アンドゥ)

やり直し (リドゥ)

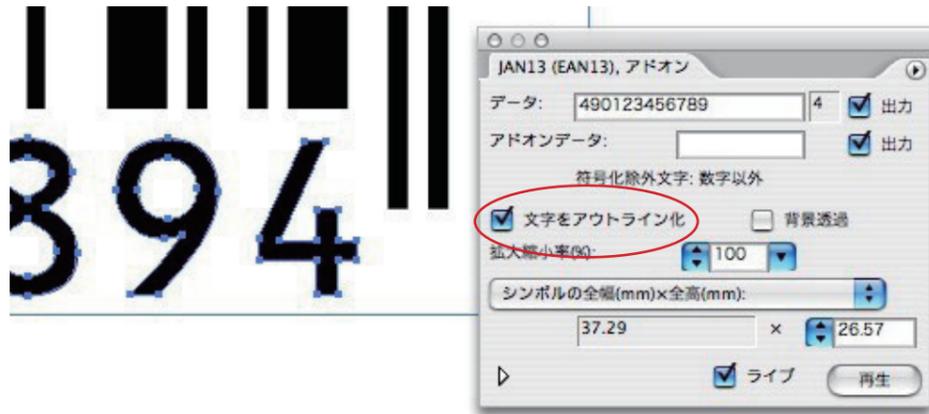


バーコード・シンボルを選択したままで、Illustratorの「編集」>「取り消し」コマンドを実行すると、バーコード・シンボルもパネルの設定値も1つ前の状態に戻ります。また「編集」>「やり直し」コマンドで復元します。

このように「ライブ」がオンのときは、いわゆるアンドゥ／リドゥ・コマンドの実行でパネルの設定値もそれに追従します。

【注意】 バーコード ROBO4 で作成したバーコード・シンボルのグループをいったん解除すれば、たとえ再グループ化したとしても、ライブアップデート機能は不能になります。ただし、グループを解除してもバーコードの読み取り自体には問題は生じません。

A



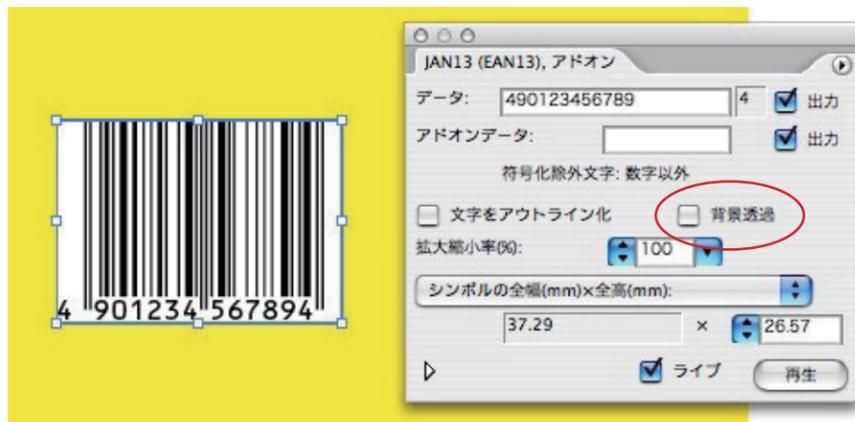
A

文字をアウトライン化する

「文字をアウトライン化」チェックボックスをチェックするとバーコード・シンボルの文字部がアウトライン化され、パスオブジェクトとして出力されます。チェックを外すとテキストオブジェクトとして出力されます。

B

1

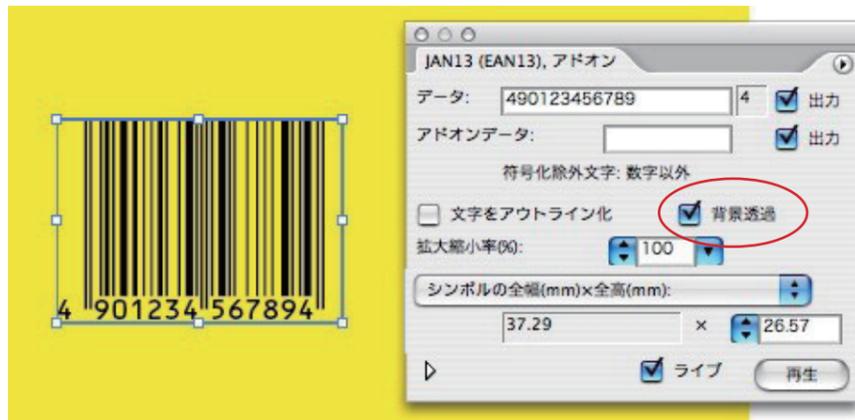


1

シンボルの背景を透明にする

「背景透過」チェックボックスがチェックされていないと、バーコード・シンボルの余白を確保するための長方形領域が白（グレー：0%）で出力されますが、...

2



2

「背景透過」チェックボックスをチェックすると、バーコード・シンボルの余白を確保するための長方形領域が透明（塗り色無し）で出力されます。

一般に、バーコード・シンボルの背景に濃い色を敷くことは読み取りエラーの原因になりますのでご注意ください。詳細については「ROBO4 リファレンス .pdf」の「バーコード ROBO4 > バーコードに関する参考文献など」セクションに挙げた各仕様書等をご覧ください。

▶ バーコード ROBO4 > いろいろなスタイルを試みる

A



本体とアドオン間の空き(mm): 2.97

左右余白(mm): 4 4

上下余白(mm): 0.33 3.38

枠ベアラバーの幅(mm): 1

黒バー幅の補正值(1/1000mm): 0

文字:

フォント: OCRB

サイズ(pt): 9.8 標準

揃え: 中央

垂直位置(mm): 3.05

アドオン垂直位置(mm): -19.81

トラッキング(em/1000): 0

行方向比率(%): 100

左余白部に '>' を付加

A

ベアラバーを付加する

バーコード・シンボルを選択したままで、詳細設定部の「左右余白:」をそれぞれ「4」、ベアラバー指定ポップアップリストを「枠ベアラバーの幅(mm):」とし右隣りにその値として「1」としてください。さらに、「文字:」>「揃え:」を「中央」としてください。

もしバーコード・シンボルの形態が設定値の変更とともに次々と変化して最終的に図のようにならない場合は、「ライブ」チェックボックスのチェックが外れているはずで、その場合は「再生」ボタンをクリックしてから「ライブ」チェックボックスをチェックしてください。

B



JAN13 (EAN13), アドオン

データ: T491234567890 4 出力

アドオンデータ: 出力

符号化除外文字: 数字以外

文字をアウトライン化 背景透過

拡大縮小率(%): 100

シンボルの全幅(mm)×全高(mm): 41.35 × 28.63

ライブ 再生

データバーの高さ(mm): 22.86

B

符号化除外文字を付加する

バーコード・シンボルを選択したままで、「データ:」入力欄の先頭に半角で「T」の文字を挿入してください。JAN13の場合、数字以外のキャラクタはすべて符号化（シンボル化）から除外されますが、可読用文字として表示されます。

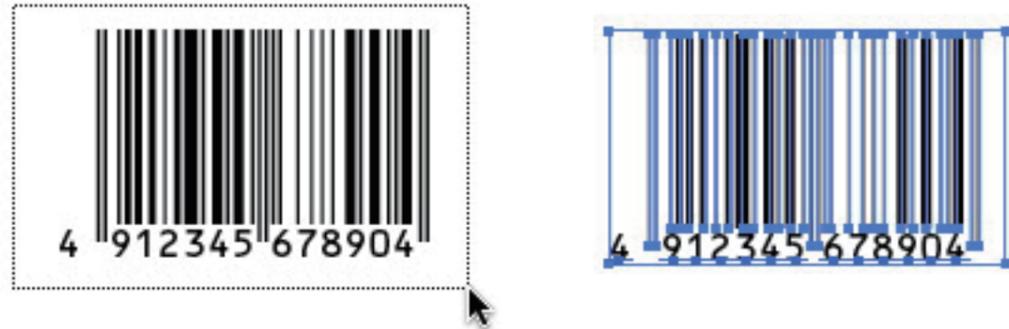
<このセクション続く>

符号化除外文字については、バーコード種によって異なります。個々の内容については「ROBO4 レファレンス .pdf」をご覧ください。

【注意】 JAN13 では符号化除外文字を出力できるのは詳細設定の「文字:>揃え」が標準フォーマット以外の場合に限られます。

C

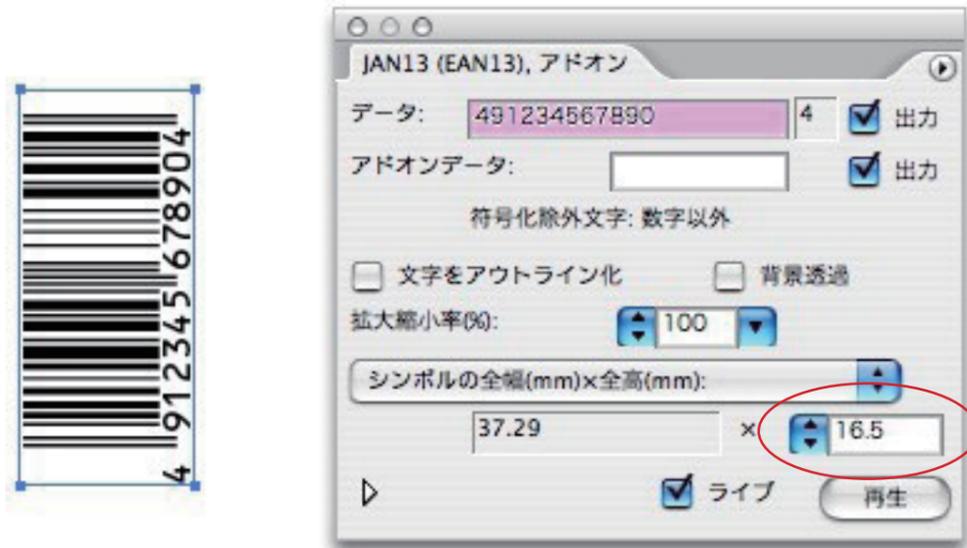
1



2



3



C

角度を変えた状態でライブアップデート

1

つぎに、バーコード・シンボルを 90 度回転させた状態で設置値を変更してみます。

Illustrator の選択ツールでシンボル全体を選択してください。

2

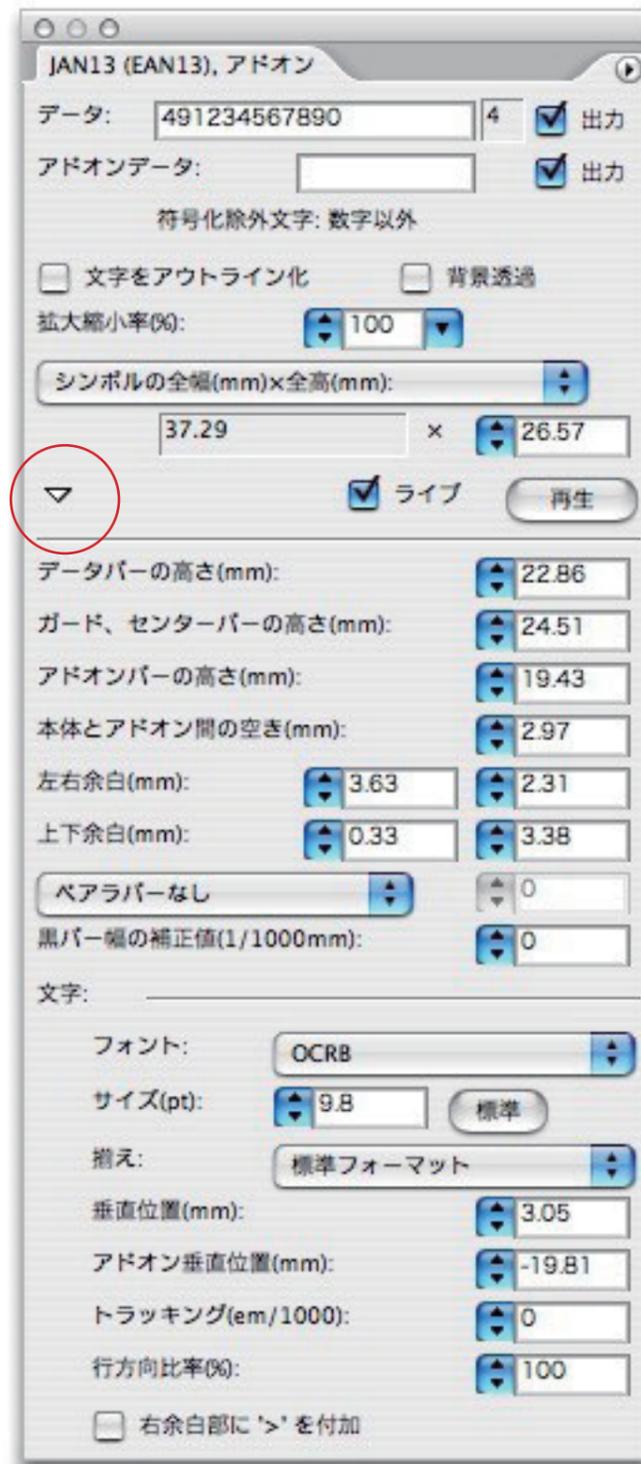
選択したバーコード・シンボルを Illustrator の回転ツールで 90 度回転させてください。

3

バーコード・シンボルを選択したままで、JAN13 パネルの「シンボルの全高 (mm):」を「16.5」としててください。回転した状態のままで設定変更がオブジェクトに反映します。

パネル上の「シンボルの全幅 (mm):」や「シンボルの全高 (mm):」はあくまでもバーコード・シンボルとして正立時の値であることにご注意ください。

▶ バーコード ROBO4 > 詳細設定について



パネル左下にある「三角形アイコン」をクリックすると詳細設定部が展開されます。再度クリックすると詳細設定部は閉じられます。

これらの設定項目については「ROBO4 リファレンス .pdf」の各バーコード種ごとのセクションをご覧ください。

【ヒント】 データバーの高さについては、通常は「シンボルの全高 (mm): /ベアラバーを除く高さ (mm): /バーのみの高さ (mm): (ポップアップ)」の選択とその場合の値を用いて調整した方が簡単です。

ご注意：

CS5 において、オプション属性「新規オブジェクトをピクセルグリッドに整合」が指定されている書類上ではバーコードを作成しないでください。このオプションは新規書類作成時ダイアログウィンドウの「詳細」設定や「変形」パネルの右肩にあるメニューで指定解除できます。

また、CS6 以降においてもバーコード作成後にも Illustrator「変形」パネルにある「ピクセルグリッドに整合」オプション（チェックボックスによる）を指定しないでください。

各パネルの初期設定値は、バーコード規格で定められている基本寸法です。変更する場合はご自身の責任においておこなってください。バーコード一般についてのご注意として、「ROBO4 リファレンス .pdf > バーコード ROBO4 > バーコードを印刷する際の注意」および「バーコードを使用する際の注意」を必ずお読みください。

▶ バーコード ROB04 > 黒バー幅の補正 (BWR*) について



黒バー幅の補正は、印刷の太りに対処するためのものです。特にフレキソ印刷における樹脂板と段ボールの状態など印刷条件によって因圧が変化しやすいものにおいて必要です。オフセット印刷においては補正の必要はありません。

「黒バー幅の補正值(1/1000mm):」はラベル表記の通り 1/1000mm (ミクロン) 単位で入力してください。

図は「-50」ミクロンを設定したものです。

* BWR = Bar Width Reduction

▶ バーコード ROBO4 > 作成済みバーコードのパネルを開く方法

1

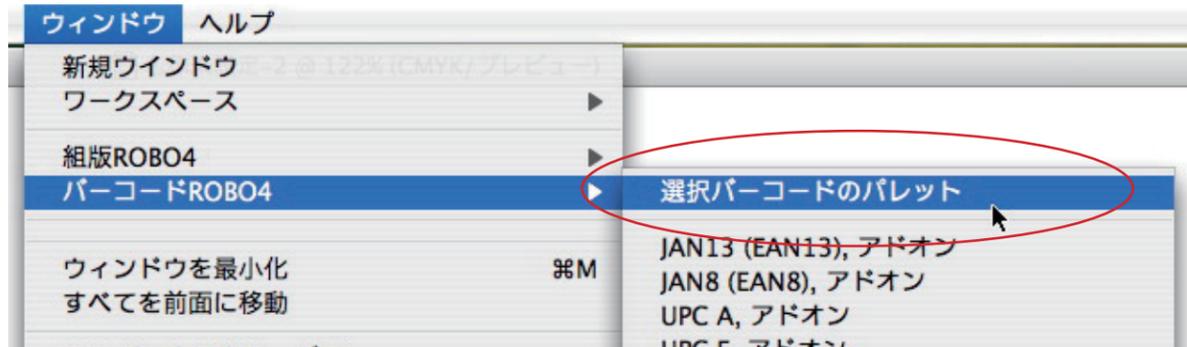


作成済みのバーコード・シンボルから、それを作成したときのパネルを即座に開くことができます。

1

作成済みのバーコード・シンボルをひとつだけ選択して、...

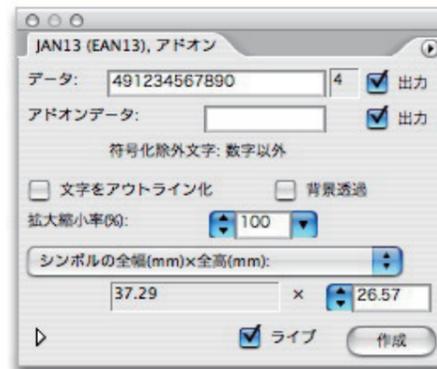
2



2

Illustrator の「ウィンドウ」>「バーコード ROBO4」>「選択バーコードのパネル」メニューを選択すると、...

3



3

そのバーコード・シンボルを作成したときのパネルを即座に開くことができます。

【注意】 バーコード ROBO4 で作成したバーコード・シンボルのグループをいったん解除すれば、たとえ再グループ化したとしても、この操作のみならずライブアップデート機能も不能になります。ただし、グループを解除してもバーコードの読み取り自体には問題は生じません。

以上、JAN13 (EAN13) の場合を例にバーコードを作成する方法を説明しました。

他のバーコードについても基本操作法は同じです。各種バーコードを作成する場合の設定項目については「ROBO4 リファレンス .pdf」の該当ページをご覧ください。

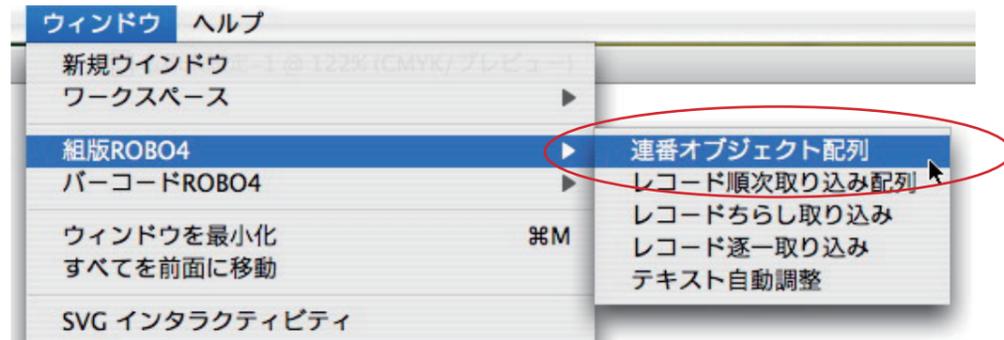
第2章

組版 ROBO4

組版 ROBO4 > 各操作パネルの表示方法

組版 ROBO4 のレッスンの前に、各操作パネルの
開き方を説明しておきます。

1



1

Illustrator の「ウィンドウ」メニューから「組版
ROBO4」>「連番オブジェクト配列」を選択して
ください。

2



2

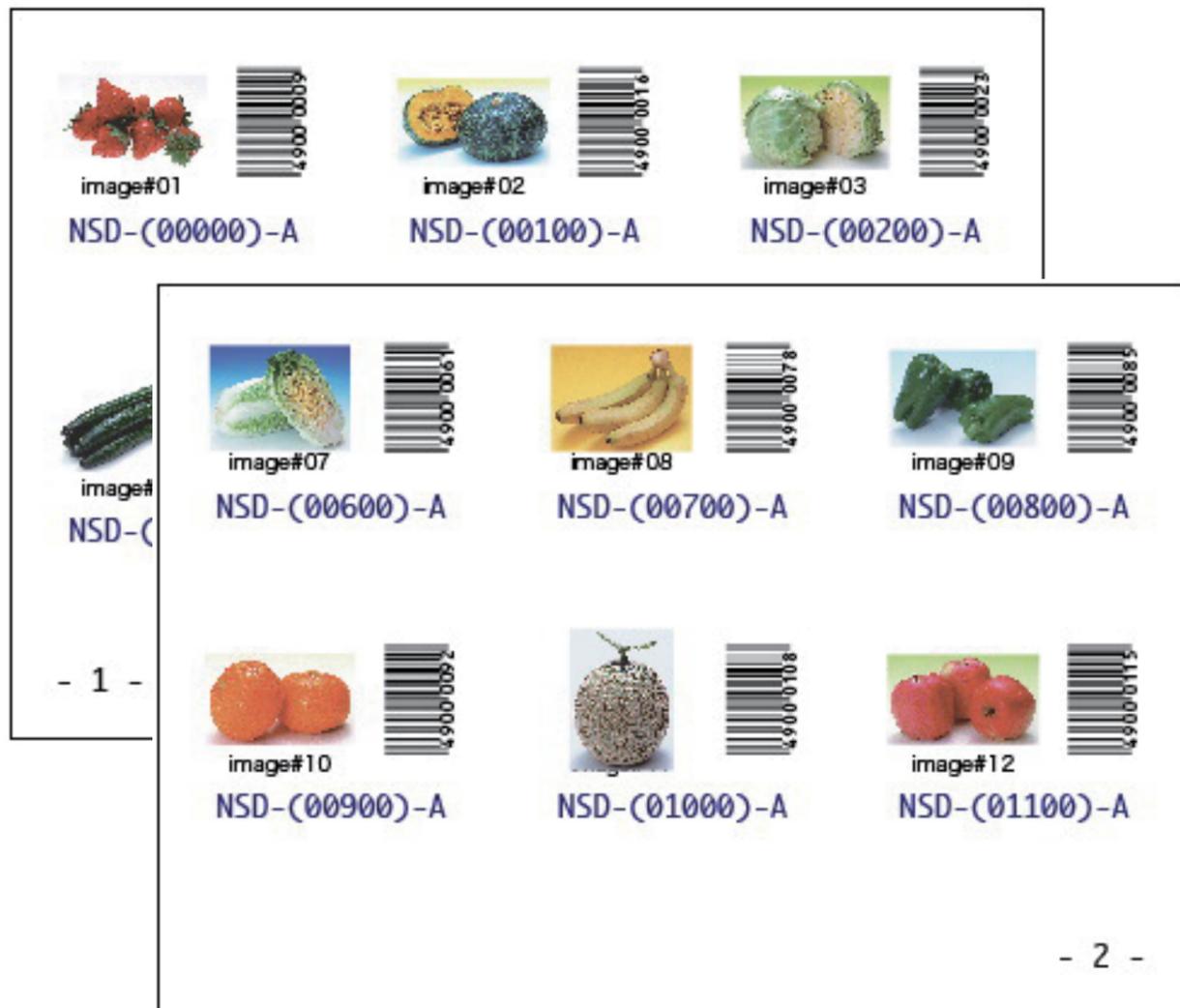
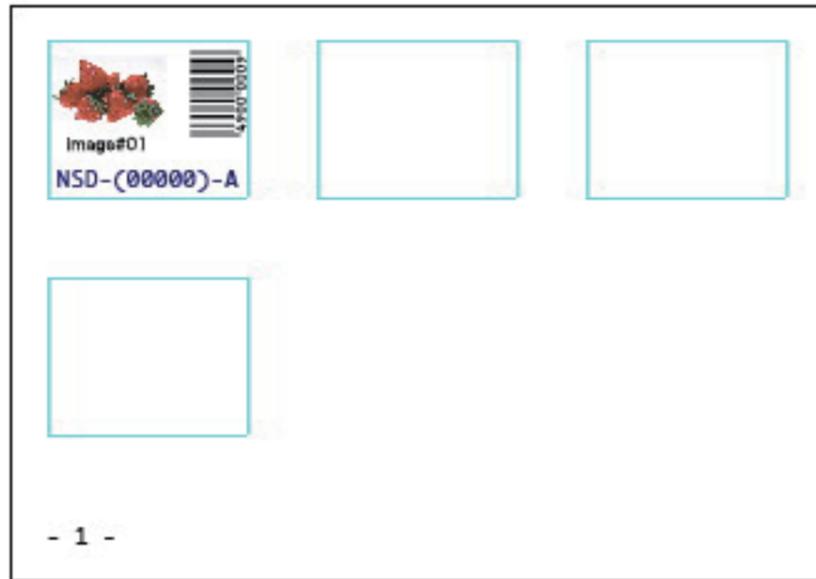
「連番オブジェクト配列」パネルが表示されます。

操作パネルを閉じるには、パネルのクローズボタンをクリックするか、Illustrator の「ウィンドウ」>「組版 ROBO4」サブメニューから目的の項目を選択します。現在開いているパネルのものにはチェックマークが付いています。

他の「組版 ROBO4」関連パネルも同じサブメニューにあり、同様に開くことができます。

なお、テキスト自動調整パネルは他の組版 ROBO4 パネルからも開くことができます。詳細は「テキスト自動調整」のセクションをご覧ください。

組版 ROBO4 > 連番オブジェクト配列 > 概要



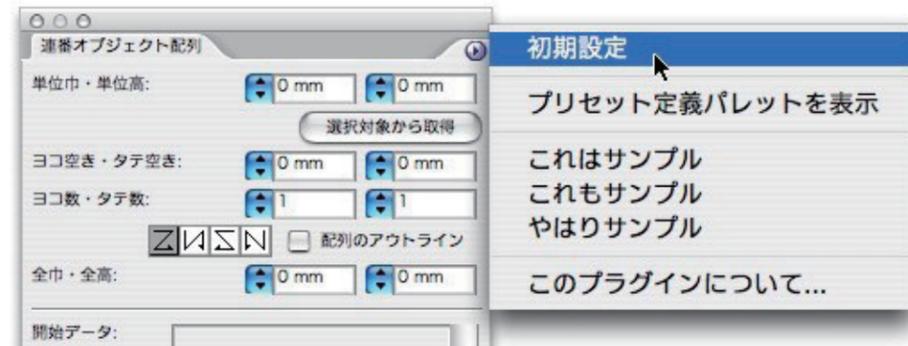
「連番オブジェクト配列」では、Illustrator 書類上のテキストやバーコード ROBO4 で作成されたバーコード・シンボル、さらには画像をも、連番をキーとした連続配列をおこなうことができます。また、複数ファイルを連続出力させることもできます。その際にはファイル名にページ番号を付加（挿入）することもできます。

なお、割り当てテキストがエリア内文字やパス上文字であれば、流し込み処理と並行して「テキスト自動調整」をおこなうことも可能です。詳細は「テキスト自動調整」のセクションをご覧ください。

連番出力は「レコード順次取り込み配列」でも実現可能ですが、「連番オブジェクト配列」は単純に連番をキーとして（データベース・ファイル無しで）自動的にオブジェクトを配列できます。ただし「レコード順次取り込み配列」や「レコードちらし取り込み」の方がより柔軟性は高いです。

【注意】 図のバーコード部の出力にはバーコード ROBO4 が必要です。

A



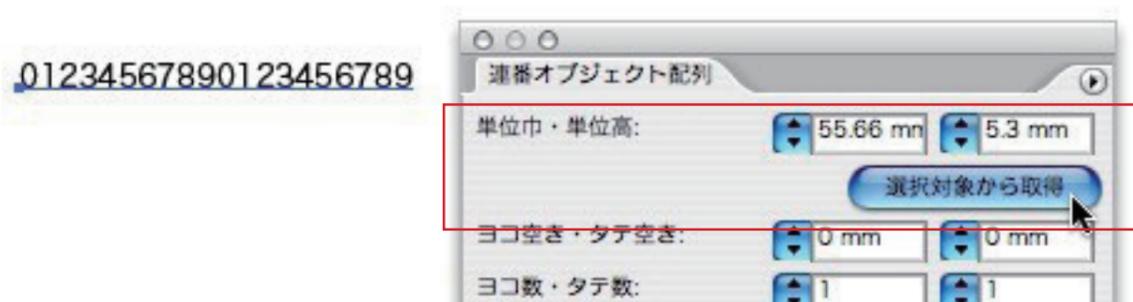
組版 ROBO4 パネルの開き方は「各操作パネルの表示方法」のセクションをご覧ください。

B

1



2



A

パネルの初期化

「連番オブジェクト配列」パネルを開き、パネル右上にあるポップアップ・メニューから「初期設定」を選んでください。

このポップアップ・メニューにはユーザ定義のプリセットを登録できます。

プリセットとは現在のパネル設定値に名前をつけて保存し、適宜呼び出して再利用が簡単にできるようにするものです。バーコード ROBO4 ではこのプリセットをメニュー化したり、他のユーザが作成したプリセットをインポートしたり、逆に他へエクスポートしたりできます。また、旧バーコード ROBO3 のプリセットをインポートすることも可能です。詳しくは「プリセット・メニュー」の章をご覧ください。

B

オブジェクトとその配列状態を決める

1

最も単純な例から始めます。

書類上に Illustrator の文字ツールを用いて半角数字列「01234567890123456789」を配置してください。

2

そのテキストを選択した状態で「連番オブジェクト配列」パネルの「単位巾・単位高」欄を自動入力で埋めるために「選択対象から取得」ボタンをクリックしてください。

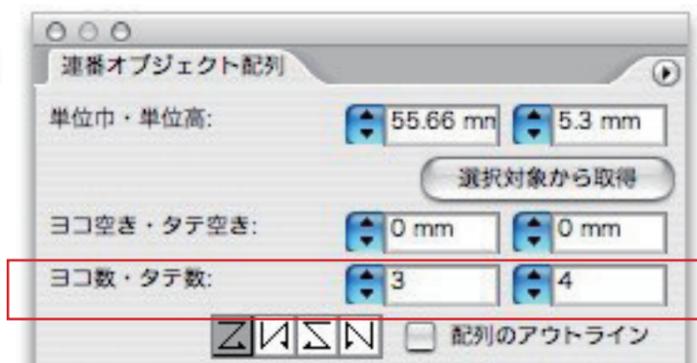
<このセクション続く>

「選択対象から取得」ボタンを押すと、選択対象を囲む最小長方形の幅と高さが入力されます。

【注意】 パネルの設定値の表記単位は Illustrator の環境設定によります。

3

01234567890123456789

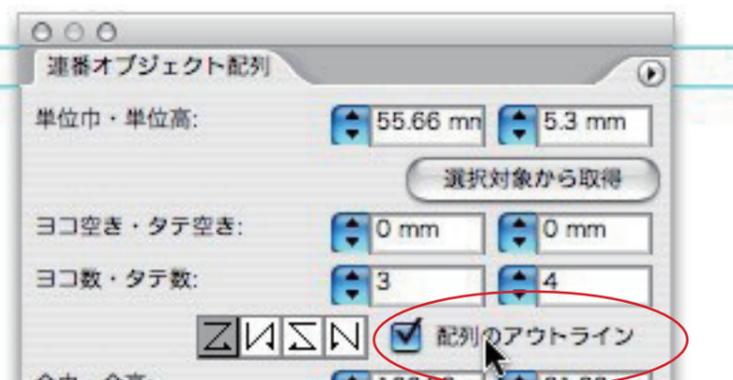


3

「ヨコ数・タテ数」欄にそれぞれ「3」と「4」を入力してください。

4

01234567890123456789



4

「配列のアウトライン」チェックボックスをチェックしてください。書類上に、選択テキストを左上にした横3×縦4の配列のガイドラインが描かれます。

このガイドライン枠1つのサイズは、2で入力した「単位巾・単位高」です。入力値を変えるとこのガイドラインもリアルタイムで変更されます。

5

01234567890123456789



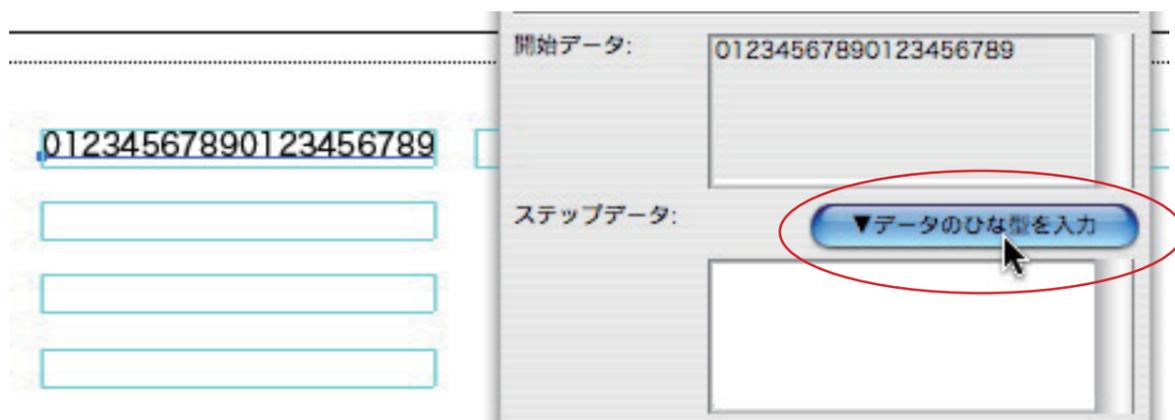
5

配列の間隔を空けるために「ヨコ空き・タテ空き」欄にそれぞれ「6 mm」、「5 mm」を入力してください。
<このセクション続く>

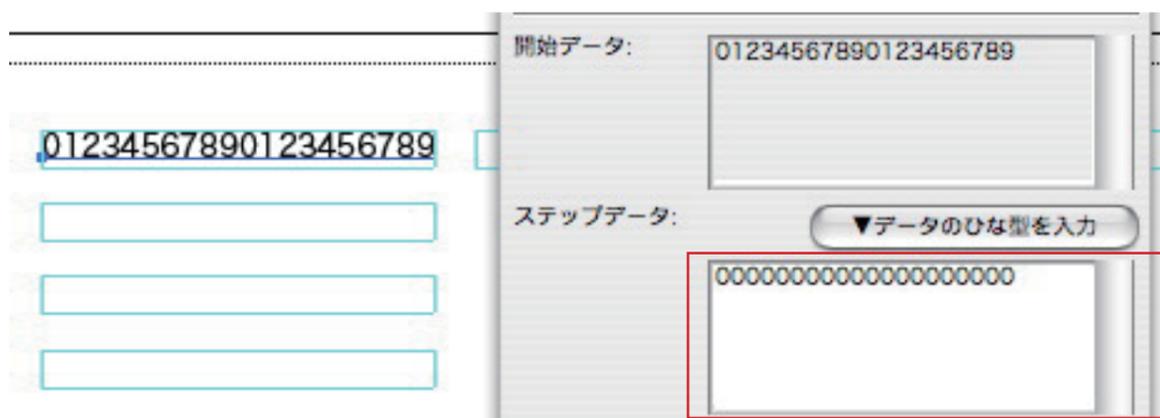
パネルの設定値の表記単位はIllustratorの環境設定によります。

C

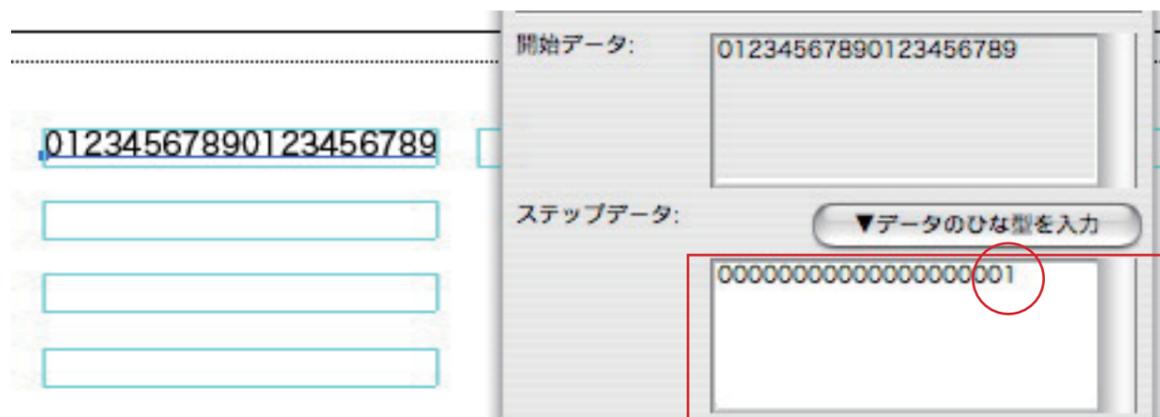
1



2



3



C

連番のステップデータを決める

1

「開始データ」欄に選択中のテキスト内容が表示されていることを確認した上で、「▼データのひな型を入力」ボタンをクリックしてください。

書類上のテキスト・オブジェクトを選択中には「開始データ」欄にそのテキスト内容が表示されます。

2

「ステップデータ」欄にテキスト内容の半角数字部分をすべて「0」に置き換えた文字列が入力されます。この場合は「00000000000000000000」となります。

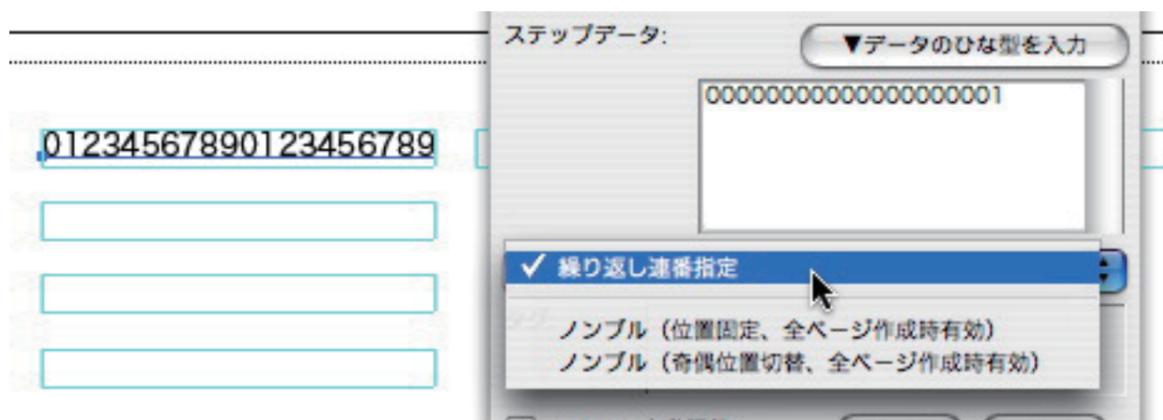
Illustrator のバージョンによってはオブジェクト選択時に「開始データ」とともに自動で入力されます。

3

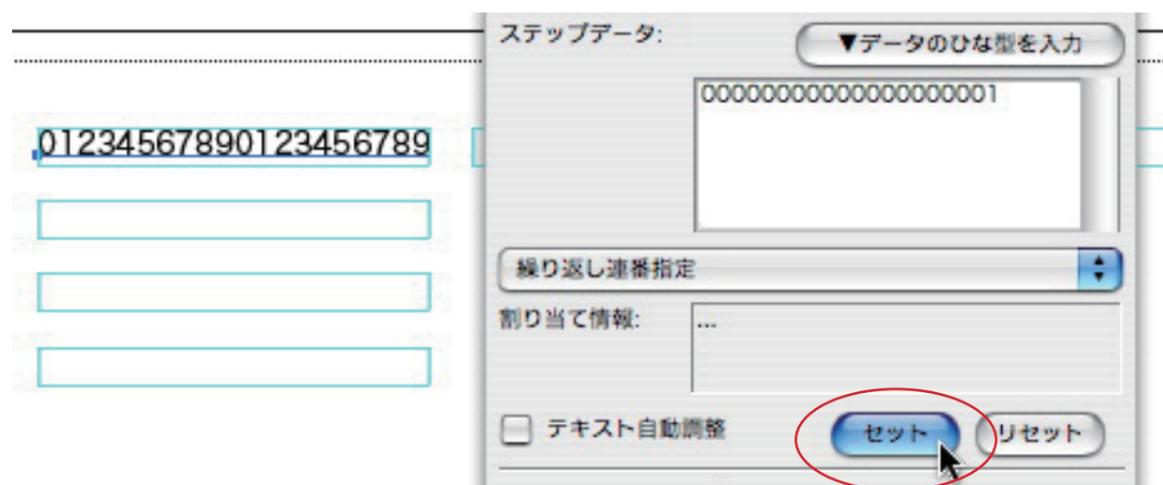
「ステップデータ」欄の末尾の数字を「1」に変え、「00000000000000000001」としてください。
<このセクション続く>

D

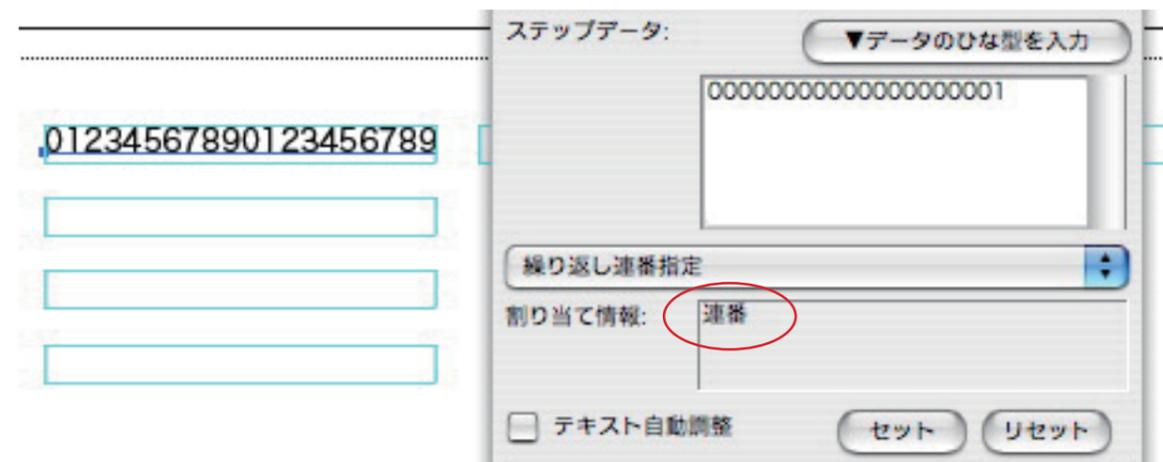
1



2



3



D

オブジェクトに役を割り当てる

1

「ステップデータ」欄の下のポップアップが「繰り返し連番指定」であることを確認し、...

2

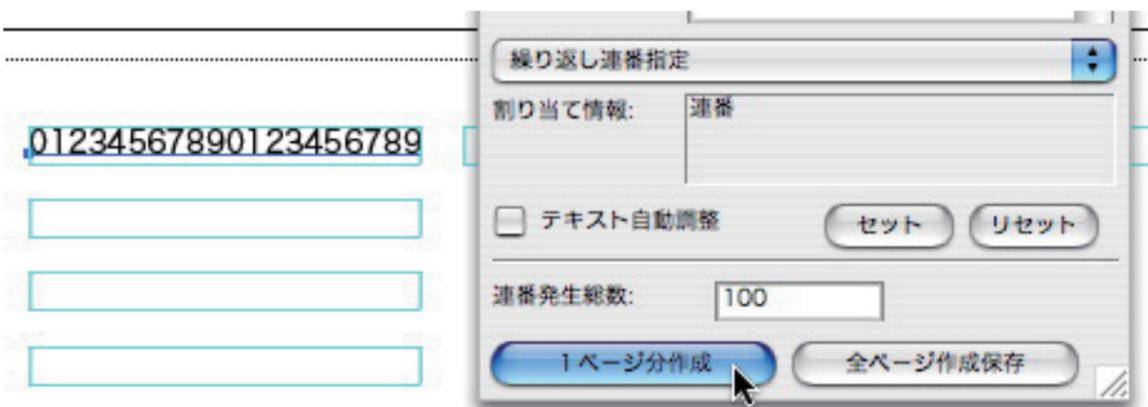
「セット」ボタンをクリックすると、...

3

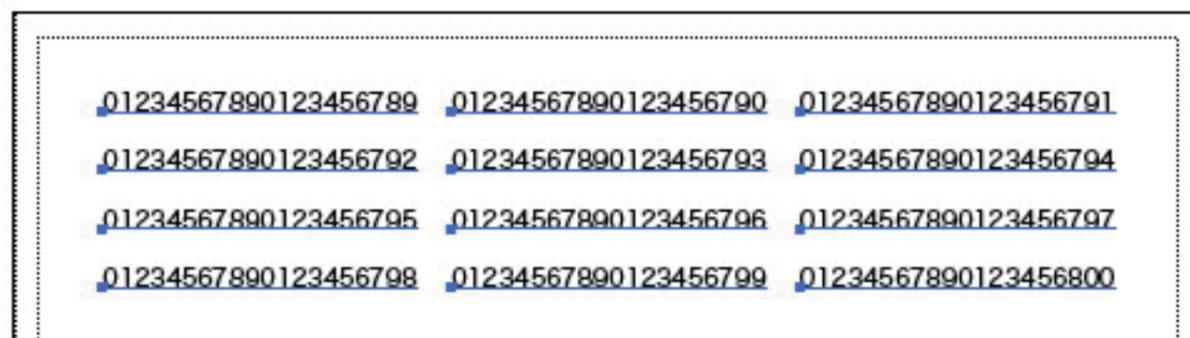
「割り当て情報」欄に「連番」と表示されます。
以上で主要な設定は済みました。
<このセクション続く>

E

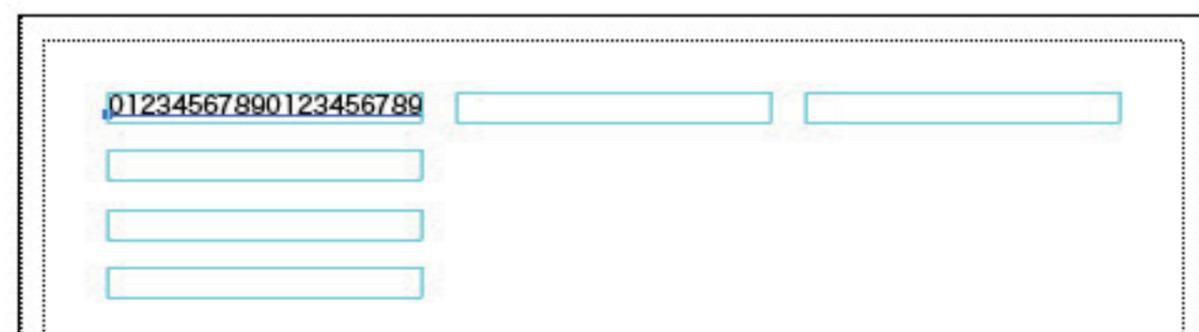
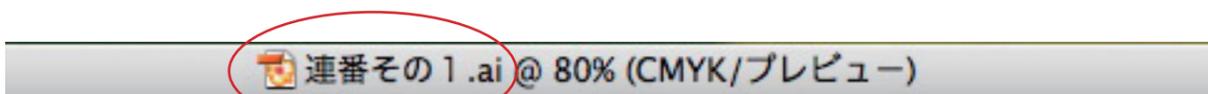
1



2



F



E

1 ページ分作成

1

「1 ページ分作成」ボタンをクリックすると、...

「連番発生総数:」は初期設定値では 100 になっていますが、ここでの必要最大数は横 4 × 縦 3 = 12 ですので、十分な数です。

2

書類上に元テキストをステップデータだけ順次加算したテキストが指定通りに配列されます。

エリア内文字などで「テキスト自動調整」を併用する方法については「テキスト自動調整」以降のセクションをお読みください。

F

全ページ作成保存

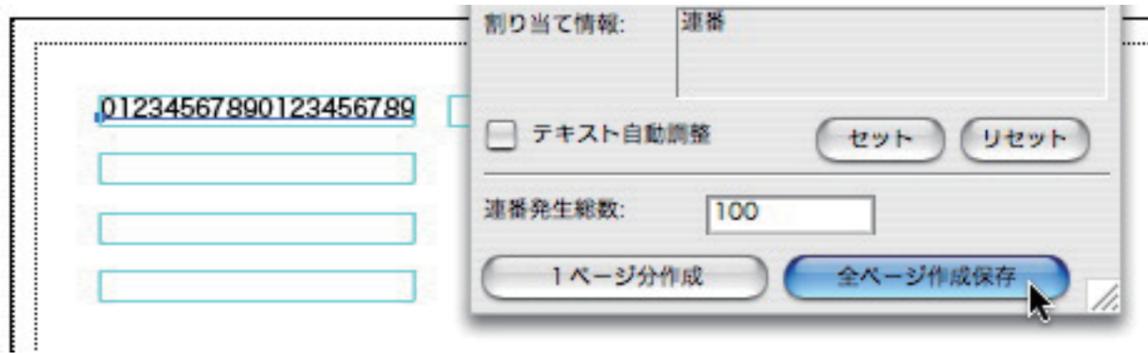
引き続き、全ページの出力を試します。

E の 2 の結果をアンドゥして E の 1 の状態に戻してから、現在の Illustrator 書類を「連番その 1.ai」という名称で保存してください。保存オプションは取り敢えずすべて既定値で結構です。

この書類の保存先に結果ファイルも出力されず。

<このセクション続く>

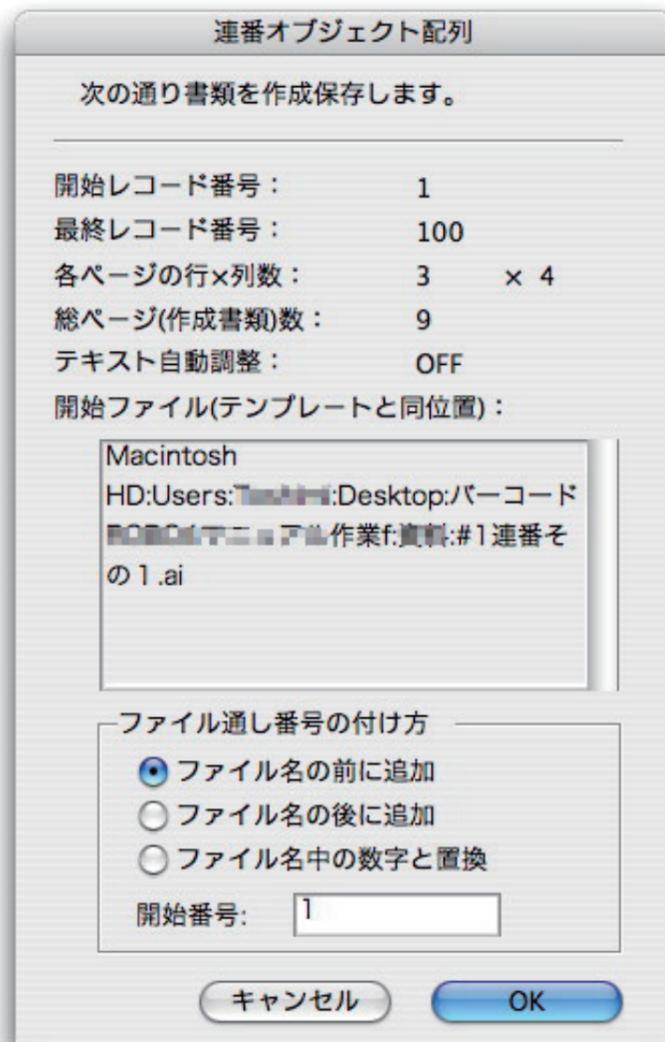
1



1

「連番発生総数」は初期設定値の100のままであることを確認して、「全ページ作成保存」ボタンをクリックすると、...

2



※図はCS5以前用ROBO4のダイアログです。CS6用以降では「ファイル通し番号の付け方」オプションが増えています。(「CS6/CC-CC2018用インストール方法.pdf」の「CS5以前用との違い」>「組版ROBO4・全ページ作成/取込処理に関して」のセクションを参照)

2

実行前に、作成情報と保存ファイル名に付加する通し番号の付け方に関するオプションを指定するダイアログが現れます。

ファイル通し番号の付け方は「ファイル名の前に追加」を選び、開始番号は「1」にしておいてOKボタンを押してください。

結果の9ファイルが、元ファイルの保存先と同じ場所に作成されていることを確認してください。ファイル名は「#01 連番その1.ai」～「#09 連番その1.ai」です。

ご注意:

出力するファイル名と同名となるファイルは必ず閉じておいてください。特にファイルの通し番号の付け方として「ファイル名中の数字と置換」を選択する場合には、ひな型となるファイル名と出力ファイル名との衝突にご注意ください。例えば開始番号が1の場合には、テンプレートのファイル名は「temp_0001.ai」ではなく「temp_0000.ai」としておく必要があります。もし開始番号を0にするならば「temp_9999.ai」などとしてファイル名の衝突を避けてください。

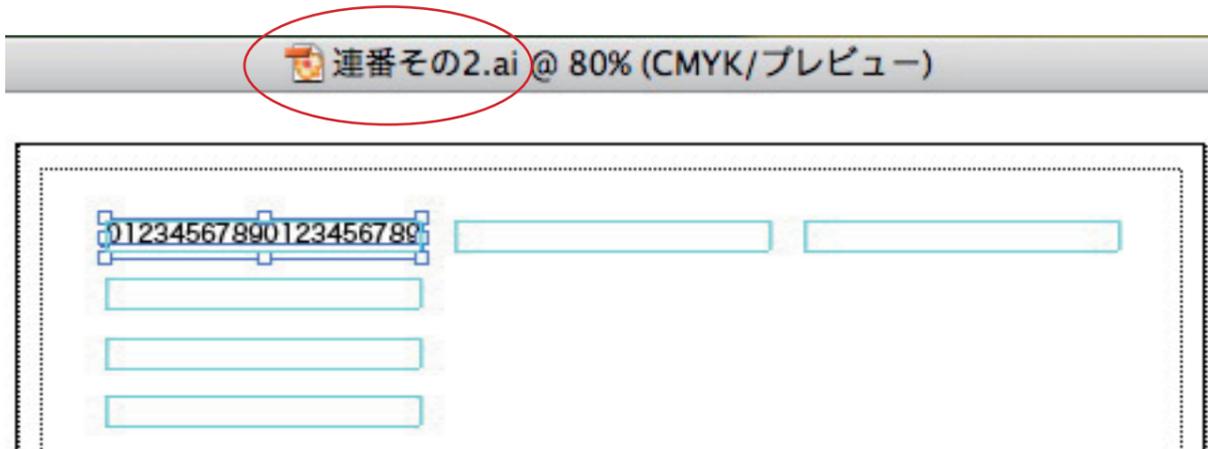
もしファイル名が衝突した場合には途中で処理が中断したり期待しない結果となることがあります。

なお、出力ファイル名中の前後に追加される通し番号の表記桁数は開始番号と総作成ファイル数に依存します。例えば開始番号が1で総作成ファイル数が714ならば#001-#714が追加されます。

ファイル通し番号の付け方を選び直すと「開始ファイル」情報欄のパスのファイル名もそれに伴って変化します。

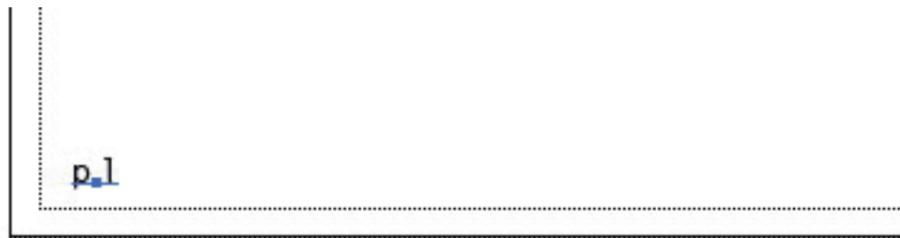
CS6以降用では、ひな型ファイル以外のファイルが開いているとアラートが出ます。

A

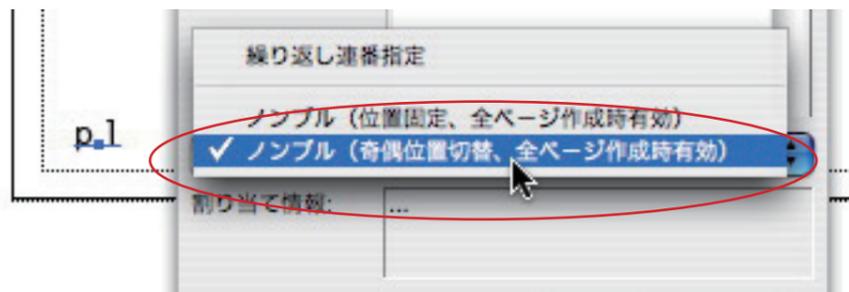


B

1



2



A

ひな型となる書類の準備

ここでは、基本操作のFでおこなった全ページ出力で、ページ番号を割り振ってみます。

基本操作で保存した「連番その1.ai」を開き「連番その2.ai」にして別名で保存してください。保存オプションはそのまま結構です。

ここでは基本操作での設定がすべて引き継がれているものとします。「連番その2.ai」書類の保存先に結果ファイルも出力されます。

B

オブジェクトに役を割り当てる

1

ページ印刷領域の左下付近に Illustrator の文字ツールを用いて「p.1」（数字部は半角である必要があります）を配置してください。中央揃えにしておきます。

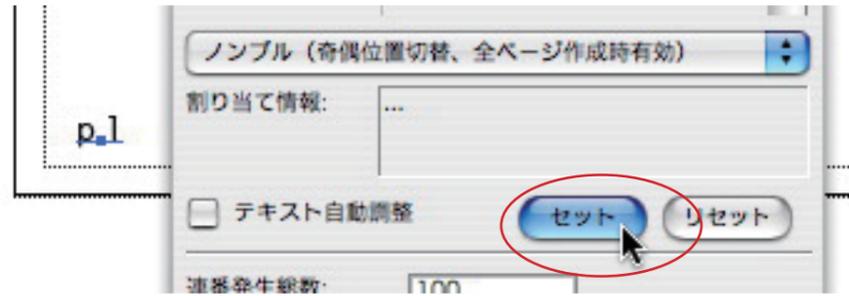
ページ番号のカウンタ部分だけは半角数字である必要があります。この数字が開始ページ番号になります。カウンタ部分の数字さえ確保してあればフォーマットは自由です。

2

このページ用テキストを選択状態のまま、割り当て情報の上にあるポップアップから「ノンブル（奇偶位置切替、...）」を選んでください。

奇数/偶数ページごとに位置を変えない場合には「ノンブル（位置固定、...）」を指定します。

3

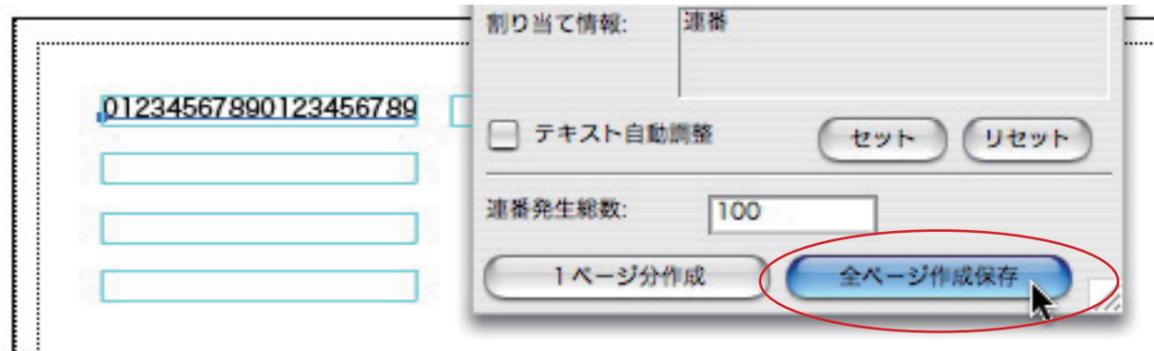


3

「セット」ボタンをクリックして「割り当て情報欄」に「連番」と入ることを確認したら、...

C

1



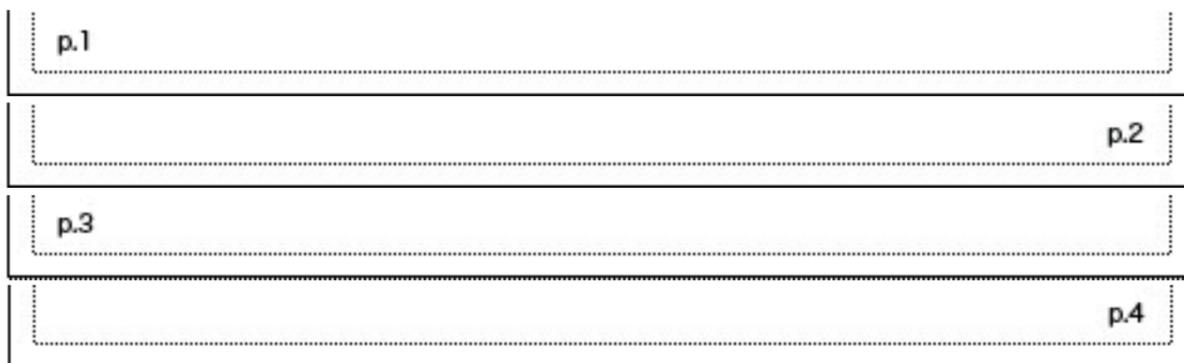
1

繰り返し配列のテンプレートとなるオブジェクトを選択してから、「全ページ作成保存」ボタンをクリックしてください。後は基本操作 F の 2 と同様です。

【注意1】ノンプル指定部は繰り返し連番指定部とグループ化しないでください。

【注意2】ノンプル指定部は選択する必要はありません。

2



2

結果の9ファイルが、元ファイルの保存先と同じ場所に作成されていることを確認してください。ファイル名は「#01 連番その2.ai」～「#09 連番その2.ai」です。

もし、右ページから開始したい場合には、元ファイルのページ用オブジェクトをページ印刷領域の右側付近に配置してください。

結果の出力ファイルのページ番号は奇数、偶数ページごとにそれぞれ左右に割り振られています。

エリア内文字などを自動調整する方法については「テキスト自動調整」以降のセクションをお読みください。

A

NSD-(123)-A	NSD-(125)-A	NSD-(127)-A
NSD-(129)-A	NSD-(131)-A	NSD-(133)-A
NSD-(135)-A	NSD-(137)-A	NSD-(139)-A
NSD-(141)-A	NSD-(143)-A	NSD-(145)-A

開始データ: NSD-(123)-A

ステップデータ: ▼データのひな
NSD-(002)-A

A

開始データ「NSD-(123)-A」、ステップデータ「NSD-(002)-A」の例。()内の数字部が2ずつ増加しています。

B

A10000-B20000000	A10001-B20000002
A10002-B20000004	A10003-B20000006
A10004-B20000008	A10005-B20000010
A10006-B20000012	A10007-B20000014
A10008-B20000016	A10009-B20000018
A10010-B20000020	A10011-B20000022
A10012-B20000024	A10013-B20000026
A10014-B20000028	A10015-B20000030
A10016-B20000032	A10017-B20000034

開始データ: A10000-B20000000

ステップデータ: ▼データのひな
A00001-B00000002

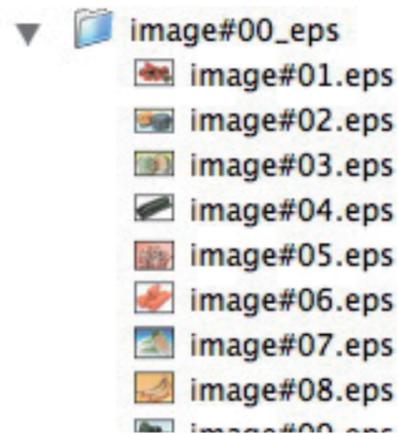
繰り返し連番指定

割り当て情報: 連番

B

開始データ「A10000-B20000000」、ステップデータ「A00001-B00000002」の例。ハイフンより前の数字部が1ずつ、ハイフンより後の数字部が2ずつ増加しています。

1



ここでは、画像ファイルを連番配置してみます。
不明な点は基本操作で確認してください。

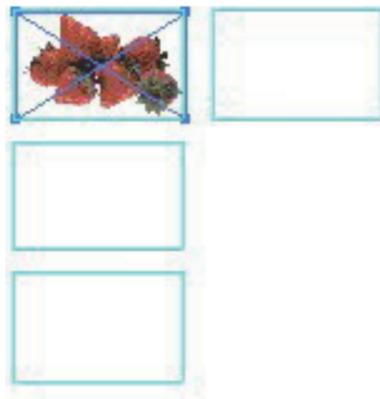
Illustrator 上で配置可能なすべての画像フォーマットに対応しています。

1

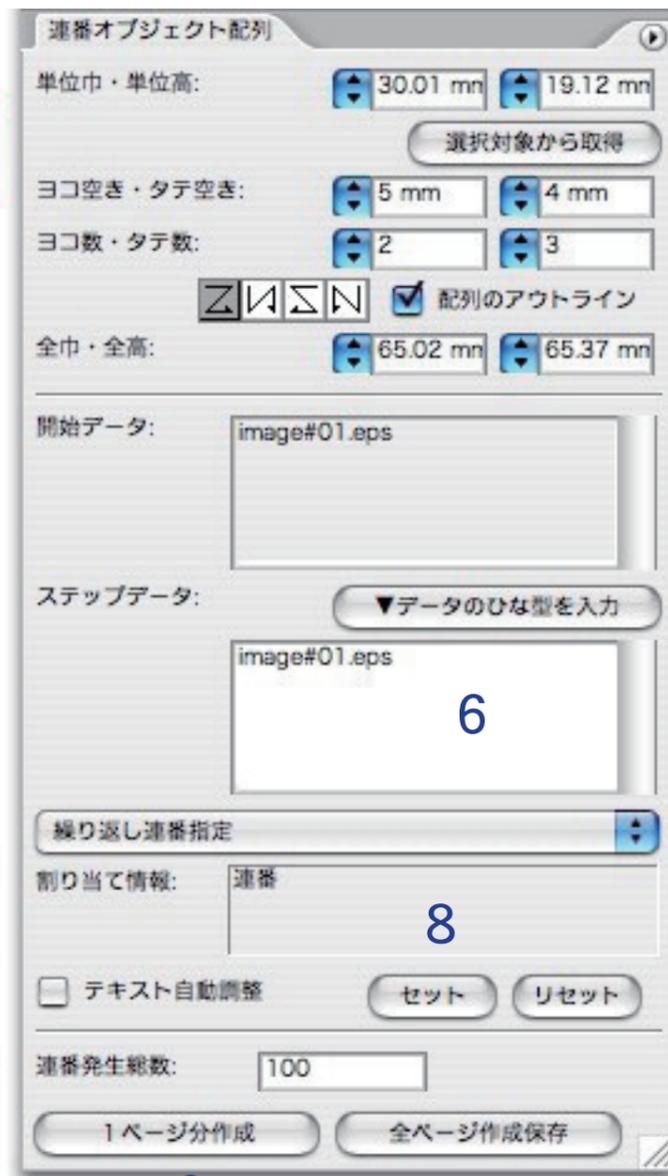
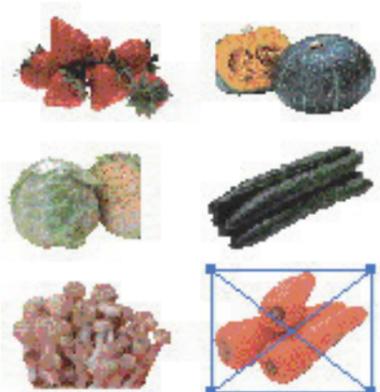
「ROBO4 チュートリアル」フォルダの「image#00_eps」フォルダ内に図のような画像ファイルがあります。各ファイル名が通し番号以外は共通であることを確認してください。

【注意】ファイル数が2桁以上に及ぶ場合には桁に満たない番号部は「0」で埋めて桁数を確保してください。(例：Hollowbody 003.gif)
番号部はファイル名のどの位置にあってもま、また番号だけのファイル名でも構いません。

2



10



9

2

1のフォルダから Illustrator の配置コマンドで「image#01.eps」をリンク配置して選択

この結果、パネルの「開始データ欄」に配置画像のファイル名「image#01.eps」が入ります。

3

「選択対象から取得」ボタンをクリック

4

「配列のアウトライン」をチェック入

ヨコ数・タテ数およびヨコ空き・タテ空き、配列順序は適宜決めておきます。

5

「▼データのひな型を入力」ボタンをクリック

この結果ステップデータ欄に「image#00.eps」が入ります。

6

「ステップデータ」を編集

ファイル名に付いているの通し番号の増分を1にするために「image#01.eps」とします。

7

「繰り返し連番指定」を選択

8

「セット」ボタンをクリック

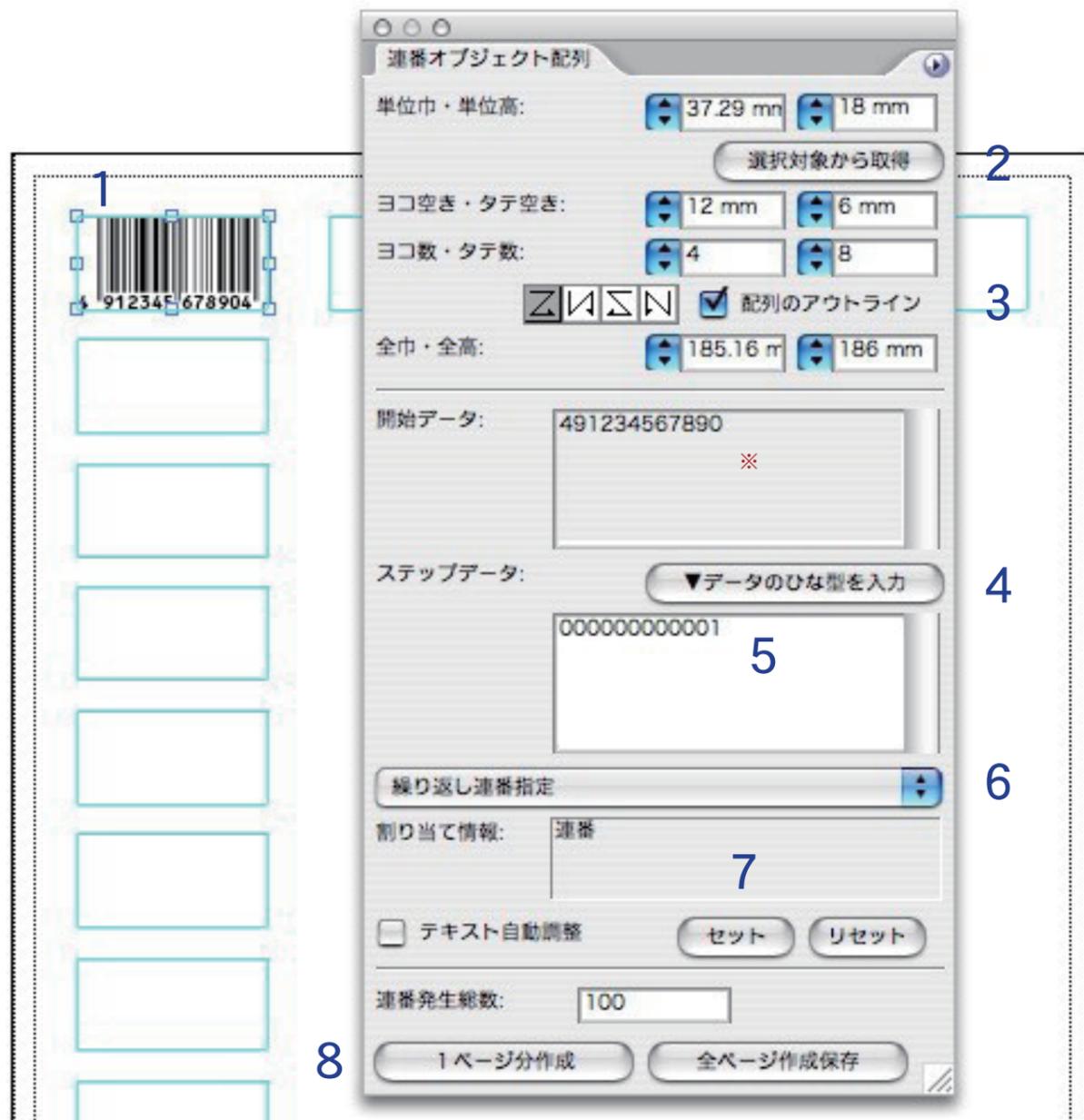
この結果、「割り当て情報」欄に「連番」と表示されます。

9

「連番発生数」を確認して、「1ページ分作成」ボタンをクリック

全ページ作成保存の場合は「連番発生数」を必要数に設定してください。

組版 ROBO4 > 連番オブジェクト配列 > 連番バーコード



【重要】 アドオンコードなどが付加した2つのパートからなるバーコードデータは半角「&」で連結して表示されます。

- ・ JAN13+5桁アドオンの例
491234567890&12345
- ・ ISBN+ 分類価格コードの例
4-77777-123&C2000 Y1234E

「ROBO4 リファレンス .pdf」の「組版 ROBO4 > 取り込みデータの特異キャラクタの表記規則」セクションもご覧ください。

ここでは、基本操作のまとめを兼ねてバーコードを連番作成してみます。不明な点は基本操作で確認してください。

【要バーコード ROBO4】 このセクションの試行にはバーコード ROBO4 が必要です。組版 ROBO4 単体では連番バーコードを生成できません。

- 1
バーコードを選択すると、開始データ欄にコードデータが入る。この場合はチェックデジットを除く12桁の JAN13 データ「491234567890」
発生バーコードは元バーコードのサイズや回転角に従います。
- 2
「選択対象から取得」ボタンをクリック
バーコードのフレームのサイズを取得するにはフレームだけを選択しておくといでしょう。
- 3
「配列のアウトライン」をチェック入
ヨコ数・タテ数およびヨコ空き・タテ空き、配列順序は適宜決めておきます。
- 4
「▼データのひな型を入力」ボタンをクリック
この結果ステップデータ欄に「000000000001」が入ります。
- 5
「ステップデータ」を編集
末尾から増分を1にするために「000000000001」とします。
- 6
「繰り返し連番指定」を選択
- 7
「セット」ボタンをクリック
この結果、「割り当て情報」欄に「連番」と表記されます。
- 8
「連番発生数 :」を確認して、「1ページ分作成」ボタンをクリック
<このセクション続く>

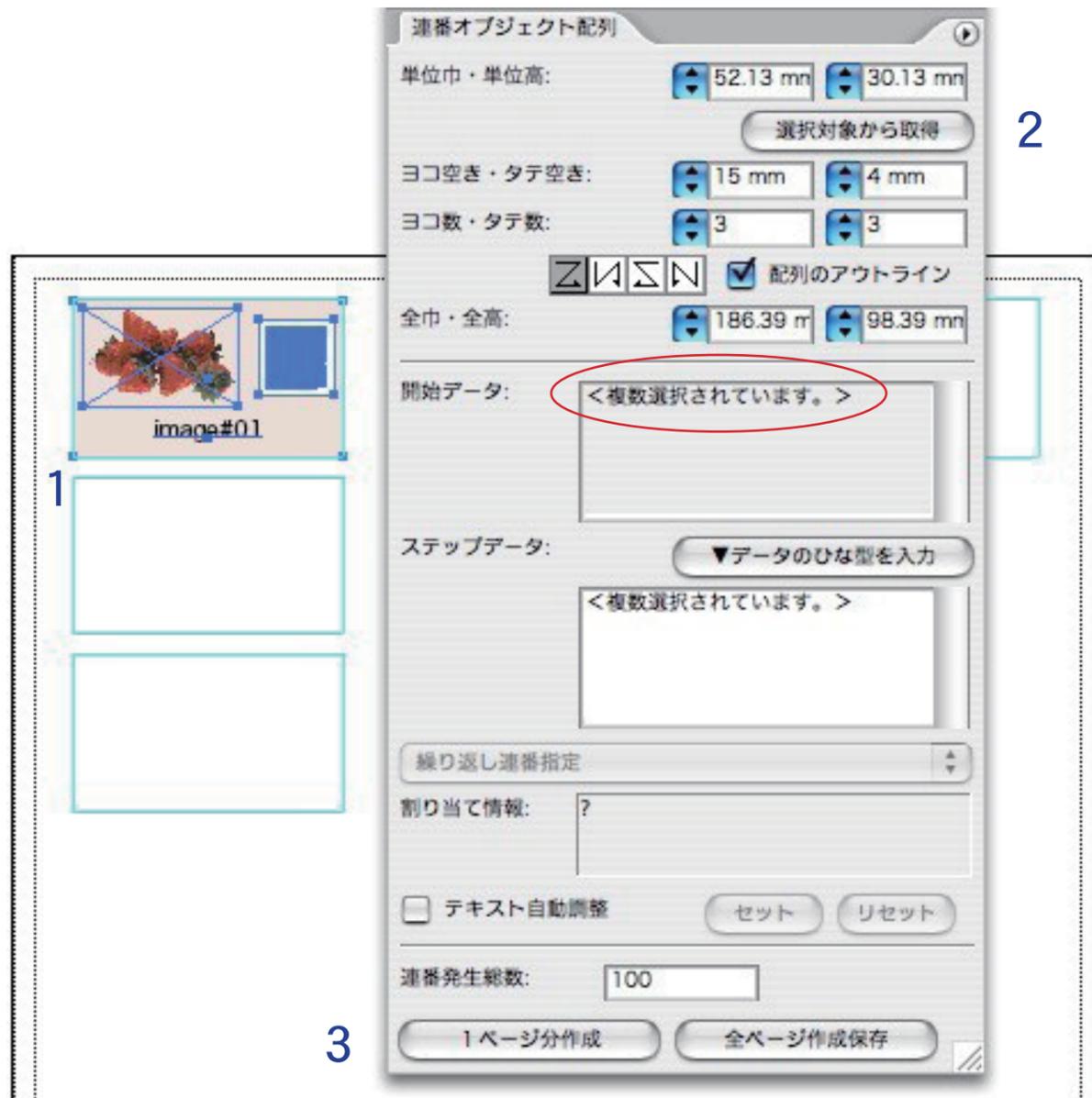


完了です。

全ページ作成保存の場合は「連番発生数 :」を必要数に設定してください。

【注意】 チェックデジット・オプション（バーコード種による）で「モジュラス 11」系を選んだ場合には計算方法の特質上、欠番が生ずることがあります。

【ヒント】 同一バーコードを複製整列したい場合は、4～7のステップを省略してください。



テキスト、バーコード、配置画像のそれぞれについて、一度にまとめて連番配列させることもできます。

【注意】 この例では一部バーコード ROBO4 で作成した QR コードを用いています。組版 ROBO4 単体パッケージでは、連番 QR コードは出力できません。

1 テキスト、バーコード、配置画像のそれぞれについて個別に連番割り当てしたものなどをまとめて選択

この結果、開始データ欄とステップデータ欄にはく複数選択されています。>と表示されます。割り当てられていないものやパスなどはそのまま複製配列されます。

【注意】 連番オブジェクト配列の場合は、複数オブジェクトに同時割り当てはできません。

2 「選択対象から取得」ボタンをクリックして配列のアウトラインを確認

3 「連番発生数 :」を確認して、「1 ページ分作成」ボタンまたは「全ページ作成保存」ボタンをクリックすれば、...

全ページ作成保存の場合は「連番発生数 :」を必要数に設定してください。

4 完了です。

全ページ作成保存時にページ番号も割り振る場合は、「連番オブジェクト配列 > ページ番号も割り振る」のレッスンをご覧ください。

見出し -1-

◇	A	B	C	D	
1	果物類	栃木産	女蜂いちご	1パック	48
2	果物類	フィリピン産	バナナ	1カット	15
3	果物類	和歌山産	有田みかん	1パック	39
4	果物類	山形産	アンデスメロン	1玉	49
5	果物類	青森産	ふじりんご	1個	12
6	野菜類	メキシコ産	えびす南瓜	1/2切	14
7	野菜類	長野産	キャベツ	1玉	19
8	野菜類	茨城産	きゅうり	5本	10
9	野菜類	群馬産	シメジ	1パック	98
10	野菜類	千葉産	にんじん	2本	19
11	野菜類	茨城産	白菜	1株	29
12	野菜類	高知産	ピーマン	1ネット	15
13	肉・魚類	アメリカ産	牛肩ロース	100g	12
14	肉・魚類	アメリカ産	牛肩ロース切り	400g入1パック	39

↓

果物類 -1-

栃木産 1パック 480円
 フィリピン産 1カット 150円
 和歌山産 1パック 398円
 山形産
 青森産

野菜類 -2-

メキシコ産 1/2切 148円
 長野産 1玉 198円
 茨城産 5本 100円
 群馬産 1パック 98円
 千葉産 2本 198円
 茨城産 1株 298円

「レコード順次取り込み配列」では、Illustrator 書類上のテキストやバーコード ROBO4 で作成されたバーコード・シンボル、さらには画像をも取り込み口として、データベースファイルから読み込んだデータもとに繰り返し内容を入れ替え配列することができます。また、複数ファイル（ページ）を連続出力させることもできます。その際には見出しを指定したり、それによる強制改ページをおこなわせたり、ページ番号を割り振ることもできます。

なお、割り当てテキストがエリア内文字やパス上文字であれば、流し込み処理と並行して「テキスト自動調整」をおこなうことも可能です。詳細は「テキスト自動調整」のセクションをご覧ください。

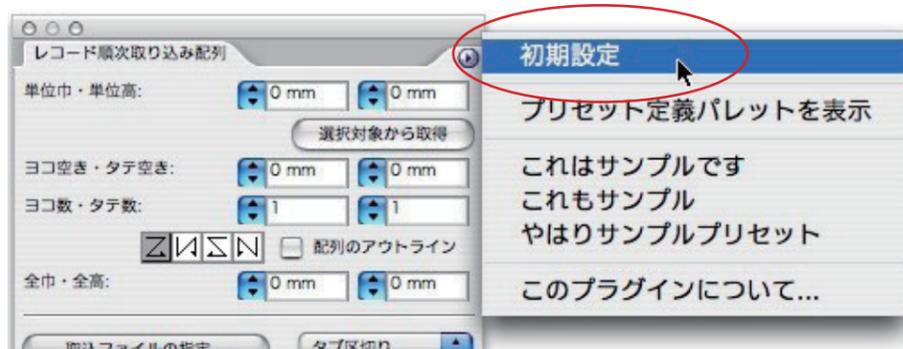
【注意】 図のバーコード部の出力にはバーコード ROBO4 が必要です。

A



B

1



2



3



A

取り込み口の準備

まず、Illustrator の新規ファイルを作成し、図のような取り込み口となるテキストオブジェクトを作成してください。

ファイル名を「順次.ai」とし保存してください。

このテキストの内容および書体や色などの属性、位置はどのようなものでも構いませんが、基本操作としての説明の都合上、図のようにしておいてください。

B

データベースファイルの指定

1

「レコード順次取り込み配列」パネルを開き、パネル右上にあるポップアップ・メニューから「初期設定」を選んでください。

このポップアップ・メニューにはユーザ定義のプリセットを登録できます。

プリセットとは現在のパネル設定値に名前をつけて保存し、適宜呼び出して再利用が簡単にできるようにするものです。バーコード ROBO4 ではこのプリセットをメニュー化したり、他のユーザが作成したプリセットをインポートしたり、逆に他へエクスポートしたりできます。また、旧バーコード ROBO3 のプリセットをインポートすることも可能です。詳しくは「プリセット・メニュー」の章をご覧ください。

2

「取込ファイルの指定 ...」ボタンをクリックして、「ROBO4 チュートリアル」フォルダの「data.txt」ファイルを選択してください。

「タブ区切り」ポップアップにもご注意ください。data.txt ファイルはタブ改行区切りのテキストファイルです。このファイル形式の詳細については「組版 ROBO4 > データベース・ファイルについて」をご覧ください。

3

パネルのリストに data.txt ファイルの 1 レコード目の各フィールドが表示されます。

リストの各エントリ先頭についている番号 : はフィールド位置を示すもので、データ内容ではありません。

<このセクション続く>

9

産地
品名
数量
価格

開始レコード番号: 1

1: 果物類
2: 栃木産
3: 女蜂いちご
4: 1パック
5: 480円

繰り返しフィールド指定

割り当て情報: フィールド番号: 4

テキスト自動調整

産地
品名
数量
価格

開始レコード番号: 1

1: 果物類
2: 栃木産
3: 女蜂いちご
4: 1パック
5: 480円

繰り返しフィールド指定

割り当て情報: フィールド番号: 5

テキスト自動調整

9

同様に「数量」は4フィールド目に、「価格」は5フィールド目に割り当ててください。
ここで一度書類を保存してください。

D

1

産地
品名
数量
価格

テキスト自動調整

2

栃木産
女蜂いちご
1パック
480円

開始レコード番号: 2

1: 果物類
2: フィリピン産
3: パナナ
4: 1カット
5: 150円

繰り返しフィールド指定

割り当て情報: ?

テキスト自動調整

D

1レコードずつ取り込んでみる

1レコードずつ取り込んで割り当てを確認してみましょう。

1

Illustrator 書類上の4テキストをすべて選択し、「1レコード取込」ボタンをクリックすると、...

2

1レコード目の1~4フィールド目がそれぞれ書類上の4テキストに取り込まれます。

もう一度「1レコード取込」ボタンをクリックすると第2レコード目が読み込まれます。数回試してください。

この結果リストは次の第2レコード目が表示され、「開始レコード番号:」も「2」となります。

E

1



E

1 ページ分取込

では3行3列分を一気に取り込んでみましょう。

1

パネルのレコード表示ボタンでレコードを1番目に戻してください。

書類上のテキストにどのレコードを取り込んでテキストに割り当てたフィールド番号は変わりません。

Illustrator 書類上のテキストはそのままです。

2

では3行3列分を一気に取り込んでみましょう。Illustrator 書類上の4テキストを選択し、...

3

「ヨコ数・タテ数:」欄の両方に「3」を入れ、...

4

「配列のアウトライン」をチェックすると、書類上にガイドラインが現れますから、...

5

それを目安に「単位巾・単位高:」および「ヨコ空き・タテ空き:」を設定してください。

パネルの設定値の表記単位はIllustratorの環境設定によります。

6

「1ページ分取込」ボタンをクリックすれば、...
<このセクション続く>

2

メキシコ産
えびす南瓜
1/2切
148円

6



栃木産 女神いちご 1パック 480円	フィリピン産 バナナ 1カット 150円	和歌山産 有田みかん 1パック 398円
山形産 アンデスメロン 1玉 498円	青森産 ふじりんご 1個 128円	メキシコ産 えびす南瓜 1/2切 148円
長野産 キャベツ 1玉 198円	茨城産 きゅうり 5本 100円	群馬産 シメジ 1パック 98円

完了です。
 結果と各レコードのフィールドの内容を比べて確認してください。

エリア内文字などを自動調整する方法については「テキスト自動調整」以降のセクションをお読みください。

F

1

開始レコード番号: 1

1: 果物類
 2: 栃木産
 3: 女神いちご
 4: 1パック
 5: 480円

繰り返しフィールド指定

割り当て情報: ?

テキスト自動調整

セット リセット

1レコード取込

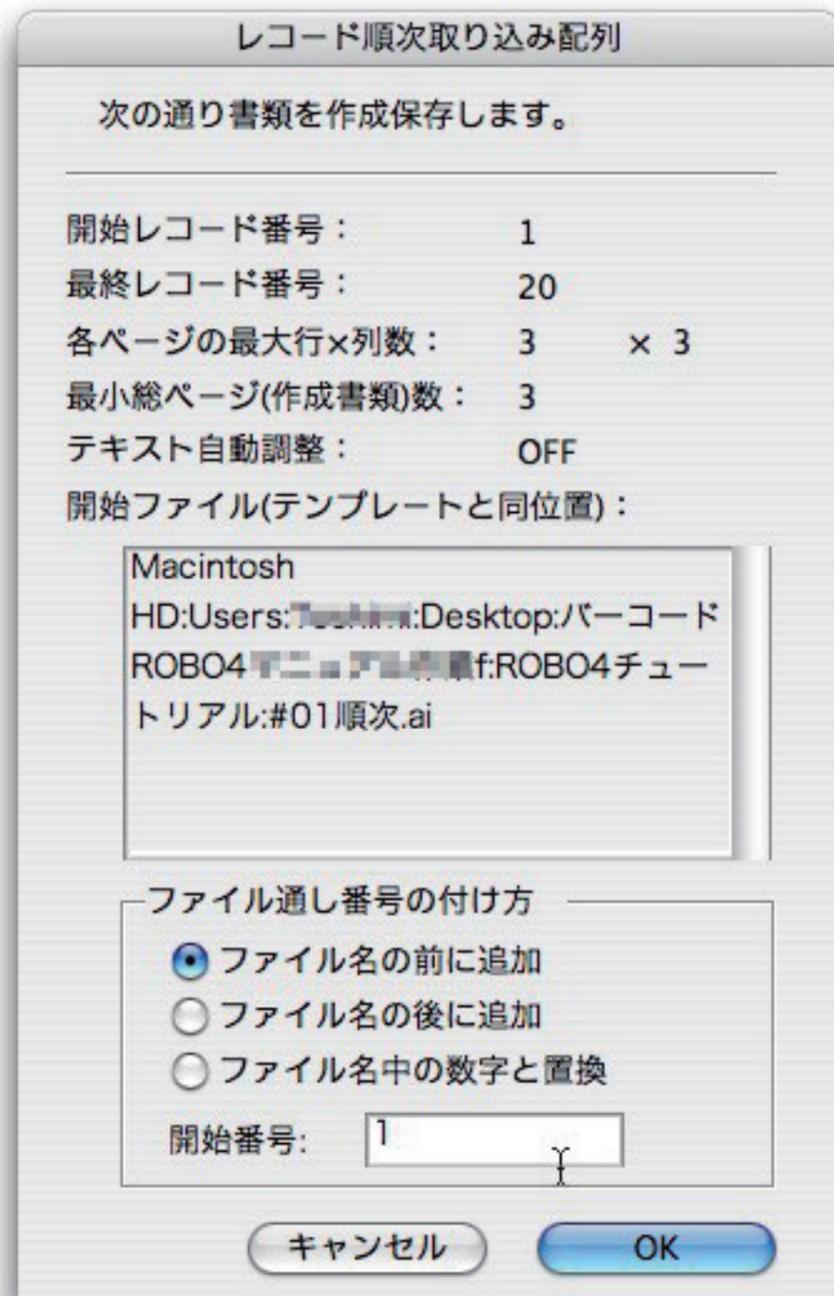
1ページ分取込 全ページ取込保存

F

全ページ分取込保存

1

「開始レコード番号:」を「1」に戻して、「全ページ取込保存」ボタンをクリックすると、...
 <このセクション続く>



※図は CS5 以前用 ROBO4 のダイアログです。CS6 用以降では「ファイル通し番号の付け方」オプションが増えています。（「CS6/CC-CC2018用インストール方法.pdf」の「CS5以前用との違い」＞「組版 ROBO4・全ページ作成/取込処理に関して」のセクションを参照）

実行前に、作成情報とファイル名に付加する通し番号の付け方に関するオプションを指定するダイアログが現れます。

ファイル通し番号の付け方は「ファイル名の前に追加」を選び、開始番号は「1」にしておいて OK ボタンを押してください。

結果の 3 ファイルが、元ファイルの保存先と同じ場所に作成されていることを確認してください。ファイル名は「#01 順次 .ai」～「#03 順次 .ai」です。

ご注意：

出力するファイル名と同名となるファイルは必ず閉じておいてください。特にファイルの通し番号の付け方として「ファイル名中の数字と置換」を選択する場合には、ひな型となるファイル名と出力ファイル名との衝突にご注意ください。例えば開始番号が 1 の場合には、テンプレートのファイル名は「temp_0001.ai」ではなく「temp_0000.ai」としておく必要があります。もし開始番号を 0 にするならば「temp_9999.ai」などとしてファイル名の衝突を避けてください。

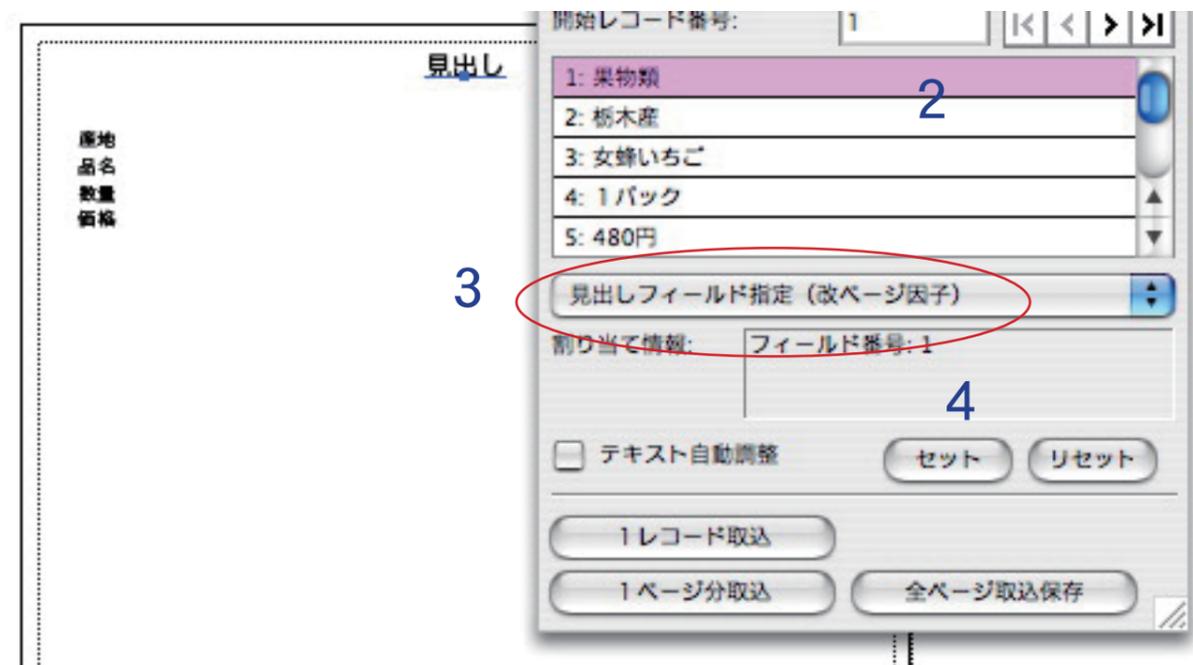
もしファイル名が衝突した場合には途中で処理が中断したり期待しない結果となることがあります。

なお、出力ファイル名中の前後に追加される通し番号の表記桁数は開始番号と総作成ファイル数に依存します。例えば開始番号が 1 で総作成ファイル数が 714 ならば #001-#714 が追加されます。

ファイル通し番号の付け方を選び直すと「開始ファイル:」情報欄のパスのファイル名もそれに伴って変化します。

CS6 以降用では、ひな型ファイル以外のファイルが開いているとアラートが出ます。

A



ここでは見出しフィールドを指定することにより、ページごとの指定行列数に満たなくても見出しフィールドの内容に変化があれば途中で強制改ページを試みます。またページ番号も割り振って試みます。

A 見出し (改ページ因子) を割り当てる

1
前セクションEで保存しておいたIllustrator書類「順次.ai」を開き、Illustratorの文字ツールでページの上段中央に「見出し」の内容でテキストを作成し、選択状態にしておいてください。

見出しに割り当てるテキストの内容はどのようなものでも構いません。

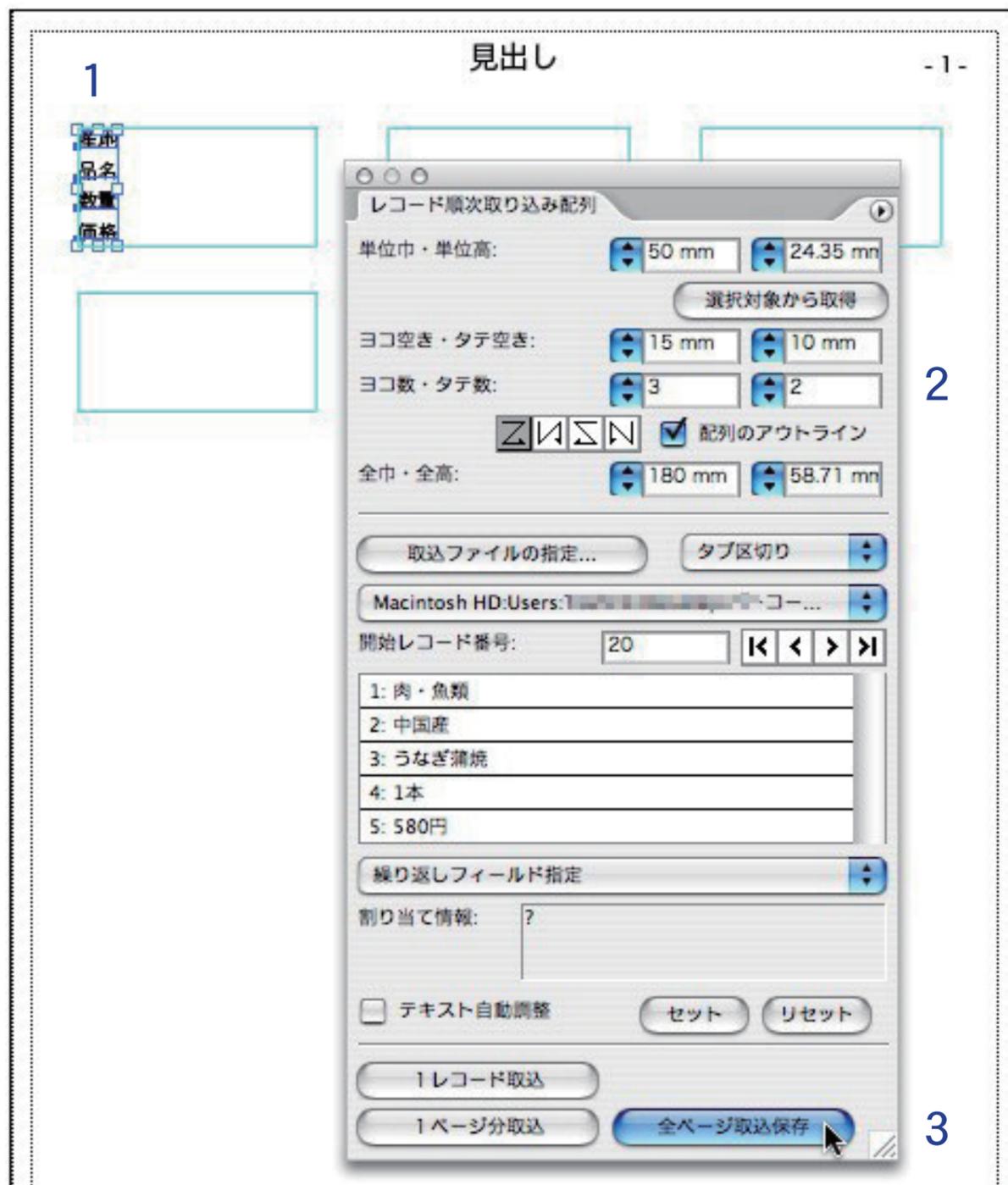
取り込みデータとして前セクションと同じdata.txtを用いています。「タブ区切り」ポップアップにもご注意ください。data.txtファイルはタブ改行区切りのテキストファイルです。このファイル形式の詳細については「組版 ROBO4 > データベース・ファイルについて」をご覧ください。

2
パネルのリストからフィールド1を選び、...

3
リストの下のポップアップから「見出しフィールド指定 (改ページ因子)」を選び、...

4
「セット」ボタンをクリックしてください。
「割り当て情報:」欄に「フィールド番号: 1」と表示されます。

「セット」ボタンをクリックする代わりにリストのエントリそのものをダブルクリックしても割り当てができます。



1

基本操作でおこなったのと同じ要領で、「繰り返しフィールド指定」をした4テキストを選択して、...

【注意1】見出しフィールド指定部やノンブル指定部は繰り返しフィールド指定部とグループ化しないでください。

【注意2】見出しフィールド指定部やノンブル指定部は選択する必要はありません。

2

ここではページ当たり最大横3×縦2行の取り込みとし、...

3

「全ページ取込保存」ボタンをクリックすると、結果のファイルは元ファイル「順次 .ai」と同じフォルダ内に出力されています。ファイル名は「#01 順次 .ai」～「#05 順次 .ai」です。
 <このセクション続く>

前回出力したファイルと同名の場合は上書きしますが、実行前に古いファイルは削除しておくことをお勧めします。

エリア内文字などで「テキスト自動調整」を併用する方法については「テキスト自動調整」以降のセクションをお読みください。

果物類 - 1 -

栃木産 女峰いちご 1パック 480円	フィリピン産 バナナ 1カット 150円	和歌山産 有田みかん 1パック 398円
山形産 アンデスメロン 1玉 498円	青森産 ふじりんご 1個 128円	

野菜類 - 2 -

メキシコ産 えびす南瓜 1/2切 148円	長野産 キャベツ 1玉 198円	茨城産 きゅうり 5本 100円
群馬産 シメジ 1パック 98円	千葉県産 にんじん 2本 198円	茨城産 白菜 1株 298円

野菜類 - 3 -

高知産 ピーマン 1ネット 150円		
-----------------------------	--	--

肉・魚類 - 4 -

アメリカ産 牛肩ロース 100g 128円	アメリカ産 牛肩ロース切り落とし 400g入1パック 398円	アメリカ産 豚肉ロース 100g 100円
北海道産十勝牛 牛肩ロースうすぎり 100g 350円	鹿児島産 健康豚もも切り落とし 100g 108円	国産 うなぎ蒲焼 1本 1,000円

肉・魚類 - 5 -

熊本産 うなぎ蒲焼 1本 780円	中国産 うなぎ蒲焼 1本 580円	
----------------------------	----------------------------	--

出力結果とデータベース内容との照合

結果ファイルの内容です。

ここで data.txt ファイルの内容を Excel などの表計算ソフトで開いた状態で示します。A 列が見出しフィールドです。「果物類」が5レコードですので、3×2を満たす前に改ページ、続いて「野菜類」が6+1レコードですので、2ページ目を満たし3ページ目に1レコードで改ページしています。さらに「肉・魚類」が6+2レコードですので、4ページ目を満たし5ページ目は2レコードで終了となっています。

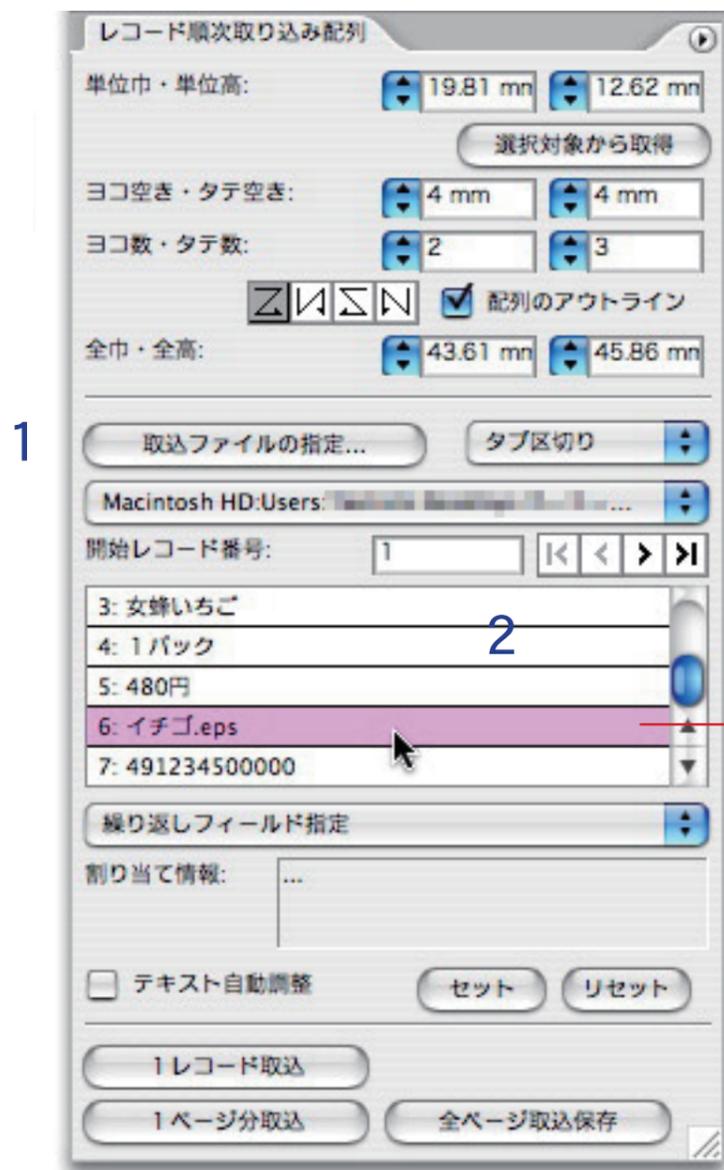
また、奇数/偶数ページごとのページ番号位置もご確認ください。

data.txt ファイルはタブ改行区切りのテキストファイルです。このファイル形式の詳細については「組版 ROBO4 > データベース・ファイルについて」をご覧ください。

【重要】 Illustrator 書類上のページ指定で割り当てたテキストを左側に置けば左右の順序が逆になります。

◇	A	B	C	D	E	F
1	果物類	栃木産	女峰いちご	1パック	480円	イチゴ.eps
2	果物類	フィリピン産	バナナ	1カット	150円	バナナ.eps
3	果物類	和歌山産	有田みかん	1パック	398円	ミカン.eps
4	果物類	山形産	アンデスメロン	1玉	498円	メロン.eps
5	果物類	青森産	ふじりんご	1個	128円	リンゴ.eps
6	野菜類	メキシコ産	えびす南瓜	1/2切	148円	カボチャ.eps
7	野菜類	長野産	キャベツ	1玉	198円	キャベツ.eps
8	野菜類	茨城産	きゅうり	5本	100円	キュウリ.eps
9	野菜類	群馬産	シメジ	1パック	98円	シメジ.eps
10	野菜類	千葉県産	にんじん	2本	198円	ニンジン.eps
11	野菜類	茨城産	白菜	1株	298円	ハクサイ.eps
12	野菜類	高知産	ピーマン	1ネット	150円	ピーマン.eps
13	肉・魚類	アメリカ産	牛肩ロース	100g	128円	
14	肉・魚類	アメリカ産	牛肩ロース切り	400g入1パック	398円	
15	肉・魚類	アメリカ産	豚肉ロース	100g	100円	
16	肉・魚類	北海道産十勝牛	牛肩ロースうす	100g	350円	
17	肉・魚類	鹿児島産	健康豚もも切り	100g	108円	
18	肉・魚類	国産	うなぎ蒲焼	1本	1,000円	
19	肉・魚類	熊本産	うなぎ蒲焼	1本	780円	
20	肉・魚類	中国産	うなぎ蒲焼	1本	580円	
21						
22						

A

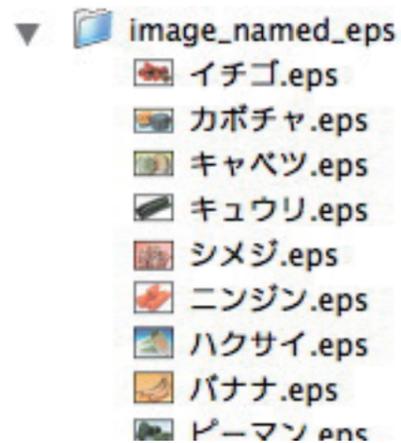


1

2

3

4



ここでは、データベースのデータを元に画像ファイルを取り込み配置してみます。不明な点は基本操作で確認してください。

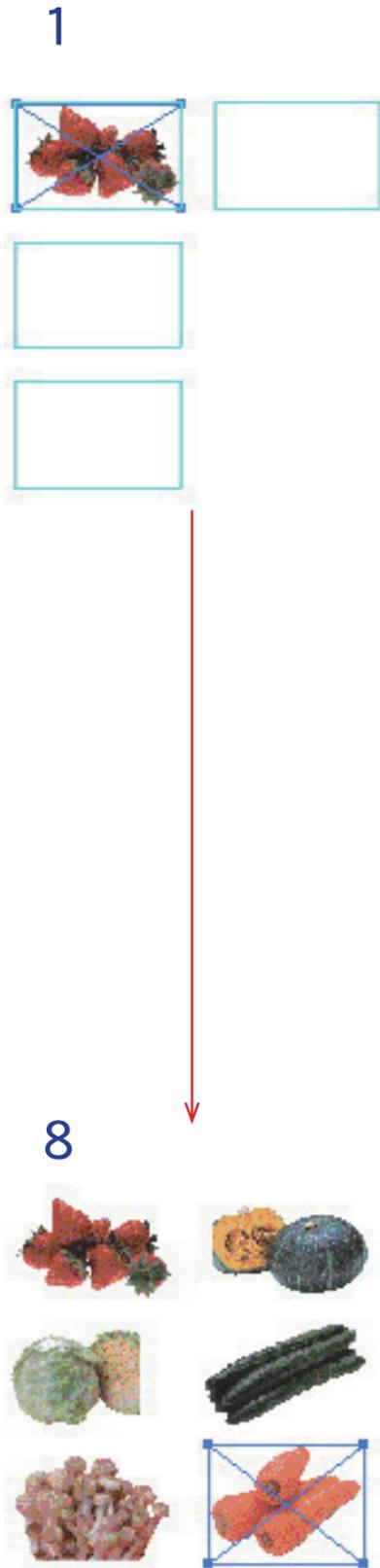
Illustrator 上で配置可能なすべての画像フォーマットに対応しています。

A データベース内容と画像ファイルの関係

画像配置を実際におこなう前にデータベース内容と画像ファイルの関係を確認しておきます。

- 1
「取得ファイルの指定 ...」ボタンをクリックして、「ROBO4 チュートリアル」フォルダの「data.txt」ファイルを選択すれば、...
一度でも data.txt ファイルが読み込まれていれば、「取得ファイルの指定 ...」ボタンの直下にあるポップアップメニューに登録済みですので、これで指定することもできます。
- 2
リストに data.txt の内容が表示されますが、...
「タブ区切り」ポップアップにもご注意ください。data.txt ファイルはタブ改行区切りのテキストファイルです。このファイル形式の詳細については「組版 ROBO4 > データベース・ファイルについて」をご覧ください。
- 3
各レコードのフィールド 6 にある内容はこれから取り込む配置画像のファイル名になっています。
- 4
「ROBO4 チュートリアル」フォルダにある「image_named_eps」フォルダ内の様子です。

B



レコード順次取り込み配列

単位巾・単位高: 19.81 mm 12.62 mm
 選択対象から取得

ヨコ空き・タテ空き: 4 mm 4 mm
 ヨコ数・タテ数: 2 3
 配列のアウトライン

全巾・全高: 43.61 mm 45.86 mm

取込ファイルの指定... タブ区切り

Macintosh HD:Users: [ユーザー名] ...

開始レコード番号: 1

3: 女蜂いちご
4: 1 バック
5: 480円
6: イチゴ.eps
7: 49123450000

繰り返しフィールド指定

割り当て情報: ...

テキスト自動調整 セット リセット

1レコード取込 1ページ分取込 全ページ取込保存

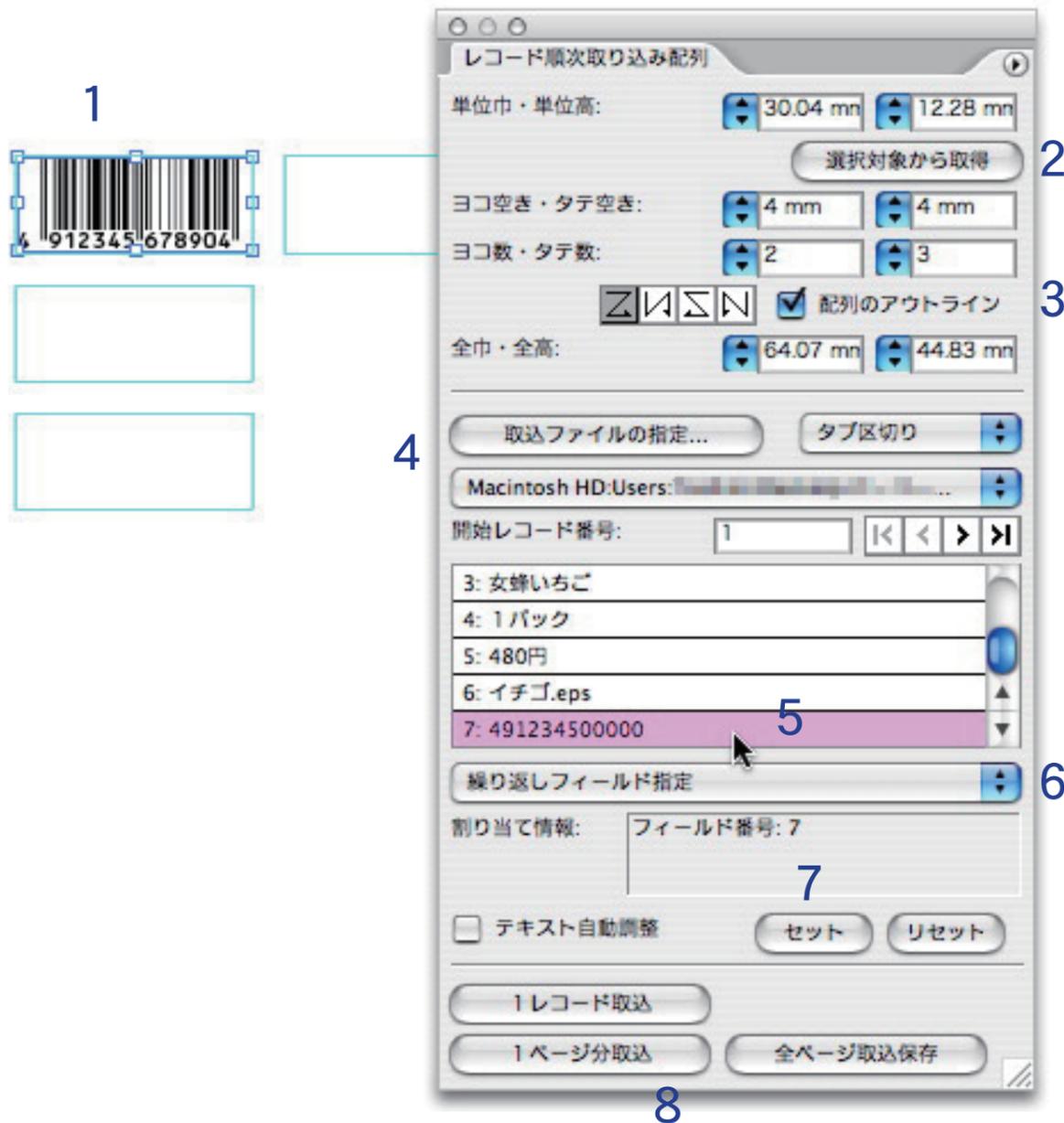
B 取り込み配置

では、実際に取り込み配置してみましょう。

- 1
 Aのステップ4のフォルダ「image_named_eps」からIllustratorの配置コマンドで「イチゴ.eps」ファイルをリンク配置して選択
取り込み画像はこのときの画像の中心位置と拡大縮小率に合わせて配置されます。
- 2
 「選択対象から取得」ボタンをクリック
- 3
 「配列のアウトライン」をチェックし、ヨコ数・タテ数およびヨコ空き・タテ空き、配列順序は適宜決めておきます。
「配列のアウトライン」をチェックすると、ガイドラインが現れます。
- 4
 フィールド6の「イチゴ.eps」を選び、...
- 5
 「繰り返し連番指定」を選択
- 6
 「セット」ボタンをクリック（またはリストからフィールド6をダブルクリック）
この結果、「割り当て情報」欄に「フィールド番号:6」と表示されます。
- 7
 「1ページ分取込」ボタンをクリック
- 8
 取り込み配置が完了します。
 結果と各レコードのフィールド6の内容とを比べて確認してください。
画像ファイルを取り込み配置する方法には、この他にテキストオブジェクトで位置とサイズを指定する方法があります。詳細については、「組版 ROBO4 > テキスト指定による画像配置」セクションをお読みください。

ここでは、データベースのデータを元にバーコードを作成配列してみます。不明な点は基本操作で確認してください。

【要バーコード ROBO4】 このセクションの試行にはバーコード ROBO4 が必要です。組版 ROBO4 単体製品ではバーコードを作成できません。



1 JAN13 シンボルを作成し、選択状態にしておきます。取り込みデータにより作成されるバーコードはこの元バーコードのサイズや回転角に従います。

2 「選択対象から取得」ボタンをクリック

3 「配列のアウトライン」をチェックし、ヨコ数・タテ数およびヨコ空き・タテ空き、配列順序は適宜決めておきます。「配列のアウトライン」をチェックすると、ガイドラインが現れます。

4 「取込ファイルの指定 ...」ボタンをクリックして、「ROBO4 チュートリアル」フォルダの「data.txt」ファイルを読み込む。一度でも data.txt ファイルが読み込まれていれば、「取込ファイルの指定 ...」ボタンの直下にあるポップアップメニューに登録済みですので、これで指定することもできます。

5 フィールド7の「49123450000」を選び、...

6 「繰り返しフィールド指定」を選択

7 「セット」ボタンをクリック（またはリストからフィールド6をダブルクリック）この結果、「割り当て情報」欄に「フィールド番号: 7」と表示されます。

8 「1ページ分取込」ボタンをクリック
<このセクション続く>



取り込み配置が完了します。

結果と各レコードのフィールド7の内容とを比べて確認してください。

【注意】 チェックデジット・オプション（バーコード種による）で「モジュラス 11」系を選んだ場合には計算方法の特質上、欠番が生ずることがあります。

【重要】 アドオンコードなどが付加した2つのパートからなるバーコードデータは半角「&」で連結しておいてください。

・ JAN13+5 桁アドオンの例

491234567890&12345

・ ISBN+ 分類価格コードの例

4-77777-123&C2000 Y1234E

「ROBO4 リファレンス .pdf」の「組版 ROBO4 > 取り込みデータの特特殊キャラクタの表記規則」セクションもご覧ください。

組版 ROBO4 > レコード順次取り込み配列 > 複合

レコード順次取り込み配列

単位巾・単位高: 44.24 mm 44.24 mm
 選択対象から取得

ヨコ空き・タテ空き: 6 mm 5 mm
 ヨコ数・タテ数: 2 3
 配列のアウトライン

全巾・全高: 94.48 mm 142.73 mm

取込ファイルの指定... タブ区切り

Macintosh HD:Users: [ユーザー名] [フォルダ名]...

開始レコード番号: 7

2: 長野産
 3: キャベツ
 4: 1玉
 5: 198円
 6: キャベツ.eps

繰り返しフィールド指定

割り当て情報: ?

テキスト自動調整 セット リセット

1レ: [不明]
 1ペ: [不明]

女蜂いちご
 パナナ
 有田みかん
 アンデスメロン

テキスト、バーコード、配置画像のそれぞれについて、一度にまとめて取り込み配列させることもできます。

【注意】 この例では一部バーコード ROBO4 で作成した JAN13 コードを用いています。組版 ROBO4 単体パッケージでは、JAN13 コードは出力できません。

組版 ROBO4 > レコードちらし取り込み > 概要

個々のオブジェクトに対する割り当てはこのブロックのみ

The collage consists of five distinct product cards:

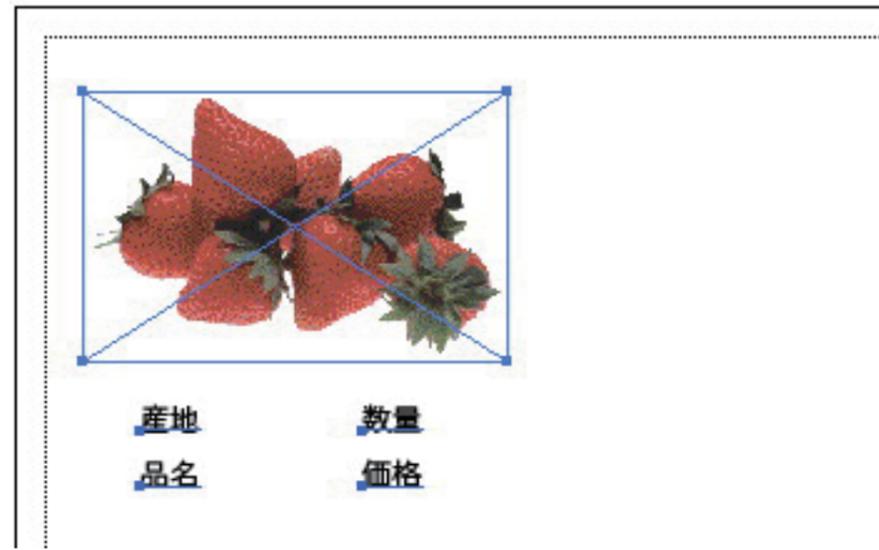
- Card 1 (Top Left):** 栃木産 女峰いちご (Tochigi, Onna-tsumi Strawberry), 1パック 150円 (1 pack, 150 yen).
- Card 2 (Top Right):** 栃木産 女峰いちご (Tochigi, Onna-tsumi Strawberry), 1パック 150円 (1 pack, 150 yen).
- Card 3 (Middle Left):** 栃木産 女峰いちご (Tochigi, Onna-tsumi Strawberry), 1パック 480円 (1 pack, 480 yen); 青森産 ふじりんご (Aomori, Fuji Ringo), 1個 1200円 (1 piece, 1200 yen).
- Card 4 (Middle Right):** フィリピン産 バナナ (Philippines, Banana), 1カット 150円 (1 cut, 150 yen); 有田みかん 和歌山産 (Arita, Wakayama), 1パック 398円 (1 pack, 398 yen); 山形産 1玉 498円 (Yamagata, 1 piece, 498 yen).
- Card 5 (Bottom):** メキシコ産 えびす南瓜 (Mexico, Ebi-su Pumpkin), 1/2切 148円 (1/2 cut, 148 yen); 茨城産 キヤベツ (Ibaraki, Cabbage), 1玉 198円 (1 piece, 198 yen); 茨城産 きゅうり 白菜 (Ibaraki, Cucumber, Baimai), 5本 100円 (5 pieces, 100 yen); 高知産 ビーマン (Kochi, Biman), 1ネット 150円 (1 net, 150 yen); 茨城産 白菜 (Ibaraki, Baimai), 1株 298円 (1 plant, 298 yen).

「レコードちらし取り込み」では、Illustrator 書類上のテキストやバーコード ROBO4 で作成されたバーコード・シンボル、さらには画像をも取り込み口として、データベース・ファイルから読み込んだデータもとに任意に内容を入れ替えることができます。

「レコードちらし取り込み」では、図のように1ブロック分ついて個々のオブジェクト割り当てをするだけです。あとはそれを複製してデータベース・ファイルのレコード番号を切り替えてブロック内容を瞬時に入れ替えることができます。操作が非常にシンプルであるにもかかわらずチラシやカタログなどの作成を強力にサポートします。

なお、割り当てテキストがエリア内文字やパス上文字であれば、流し込み処理と並行して「テキスト自動調整」をおこなうことも可能です。詳細は「テキスト自動調整」のセクションをご覧ください。

A



A

取り込み口の準備

まず、Illustrator の新規ファイルを作成し、図のような取り込み口となるテキストオブジェクトを作成し、さらに「ROBO4 チュートリアル」>「image_named_eps」フォルダにある「イチゴ.eps」ファイルをリンク配置してください。

ファイル名を「一括.ai」とし保存してください。

取り込み画像はこのときの画像の中心位置と拡大縮小率に合わせて配置されます。

取り込み画像ファイルについては、Illustrator 上で配置可能なすべての画像フォーマットに対応しています。

画像ファイルを取り込み配置する方法には、この他にテキストオブジェクトで位置とサイズを指定する方法や画像フォルダを特定する方法があります。詳細については、「組版 ROBO4 > テキスト指定による画像配置」セクションをお読みください。

B



B

データベースファイルの指定

「取込ファイルの指定 ...」 ボタンをクリックして「ROBO4 チュートリアル」フォルダにある「data.txt」ファイルを開いてください。

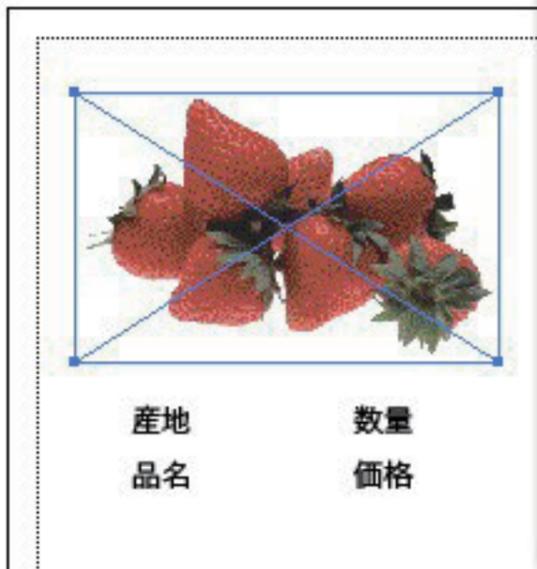
<このセクション続く>

「タブ区切り」ポップアップにもご注意ください。data.txt ファイルはタブ改行区切りのテキストファイルです。このファイル形式の詳細については「組版 ROBO4 > データベース・ファイルについて」をご覧ください。

C



4



C

ブロックの各オブジェクトに役を割り当てる

1

書類上のテキスト「産地」を選択状態にして、...

2

パネルのレコード番号：1のフィールド2を選択して、...

3

「セット」ボタンをクリックします。
この結果として「割り当て情報」欄に「フィールド番号：1-2」と表示されます。

「セット」ボタンをクリックする代わりに2で選んだエントリをダブルクリックしても同じです。

4

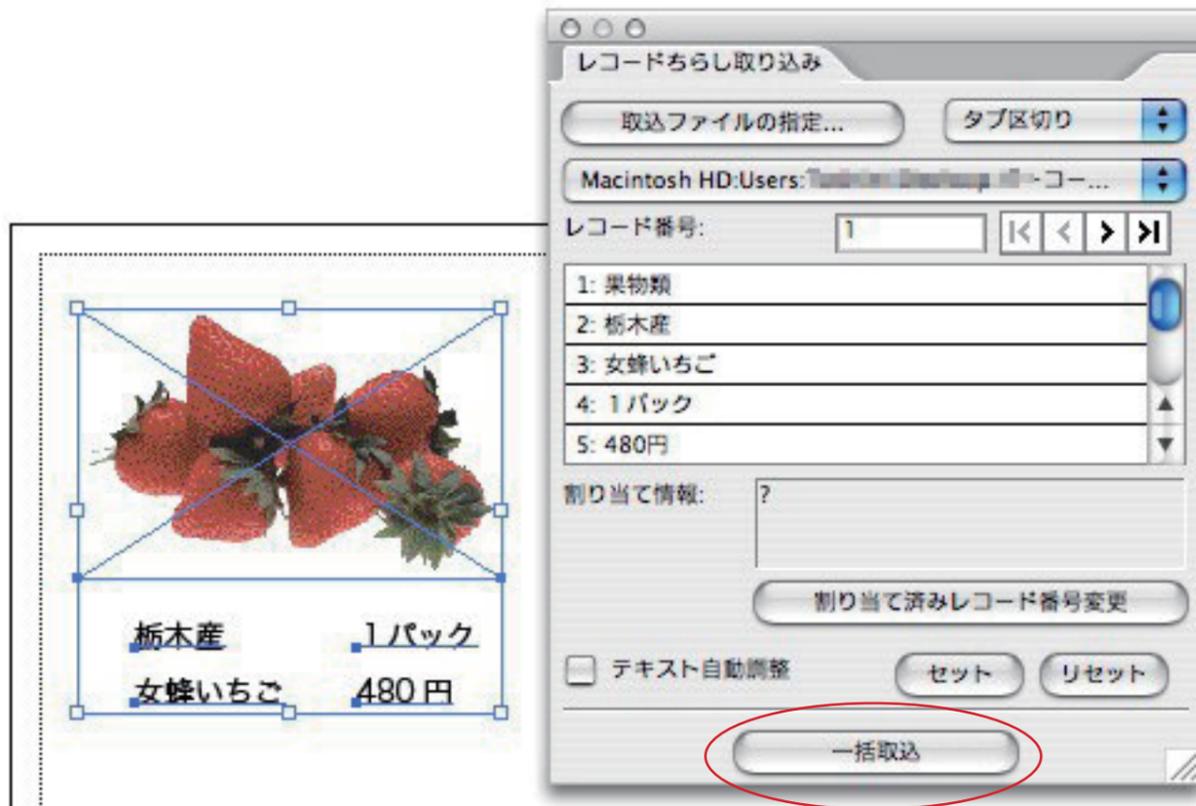
同様に「品名」はレコード番号：1のフィールド3に、「数量」はフィールド4に、「価格」はフィールド5に割り当ててゆき、最後にリンク配置した画像を選択してフィールド6に割り当てます。

【重要】 フィールド6の内容はどのレコードのものも配置画像と同じフォルダに実在する画像ファイル名になっています。

以上で、割り当てが完了しました。

<このセクション続く>

5



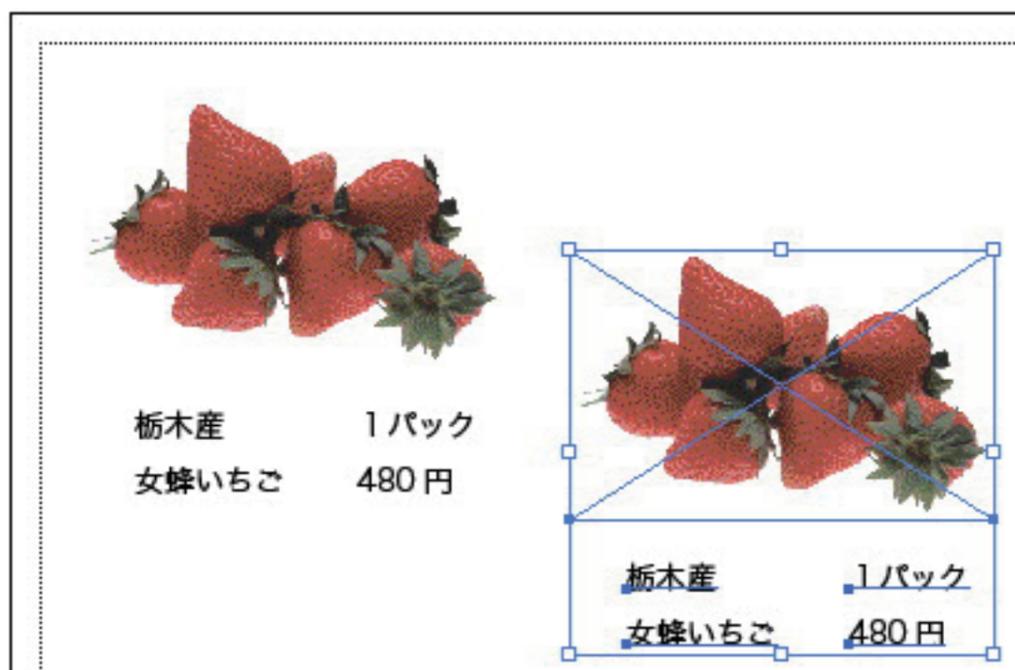
5

書類上の5つのオブジェクトすべてを選択してグループ化しておきます。これを割り当てブロックと呼ぶことにします。

「一括取込」ボタンをクリックすると、レコード番号1のデータが書類上のオブジェクトに取り込まれます。(画像は元と同じなので変化しません)

このグループ化は必須ではありませんが、以後の作業を円滑にするためのものです。

D

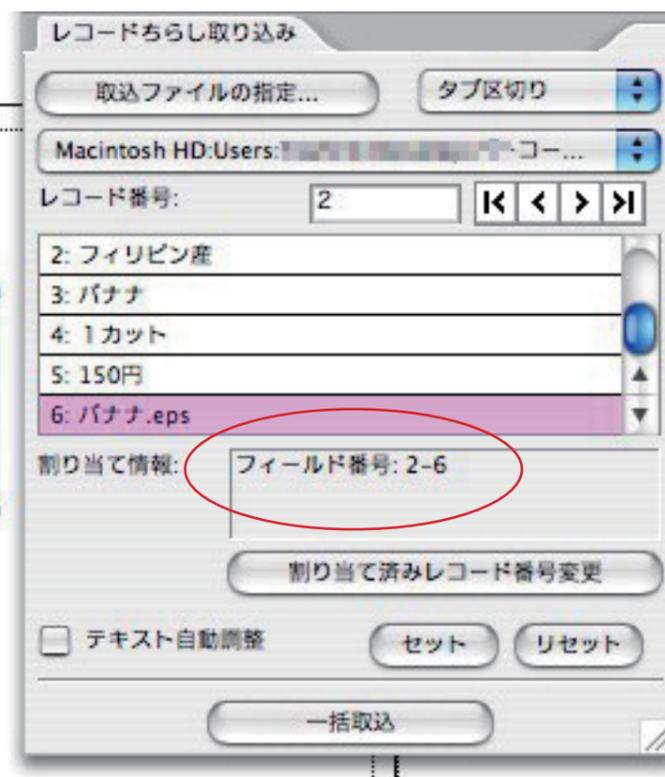
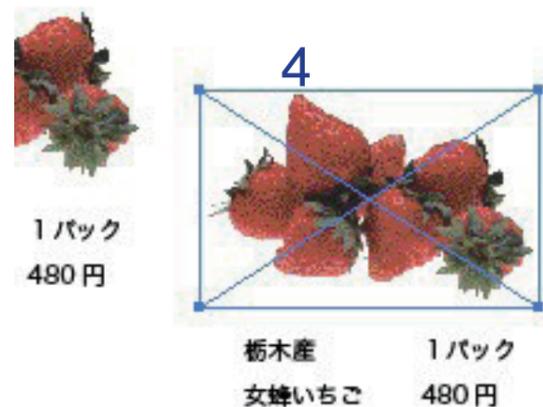
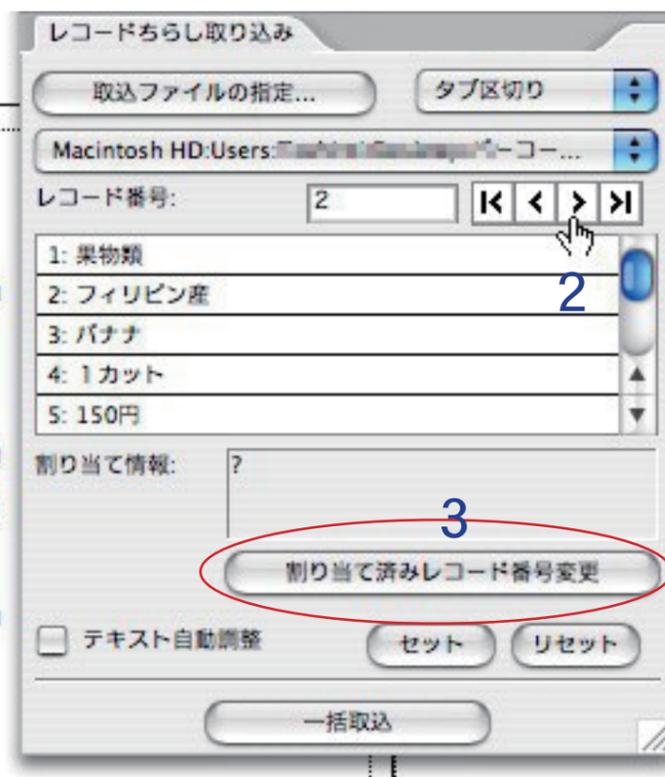
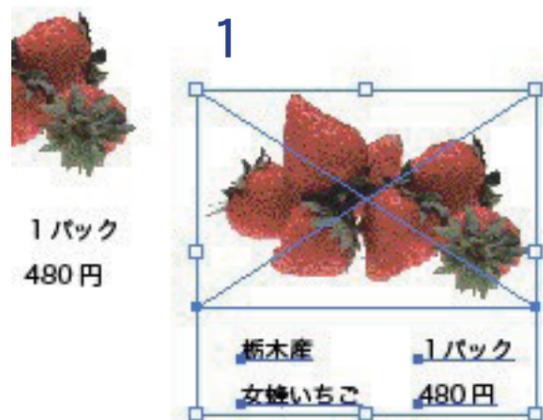


D ブロック単位の複製

割り当てブロックを書類上の適当な位置に複製してください。

<このセッション続く>

E



E

ブロック単位でのレコード番号の付け替え

1
複製した割り当てブロックを選択したまま、...

2
「レコード番号:」を「2」に進めて、...

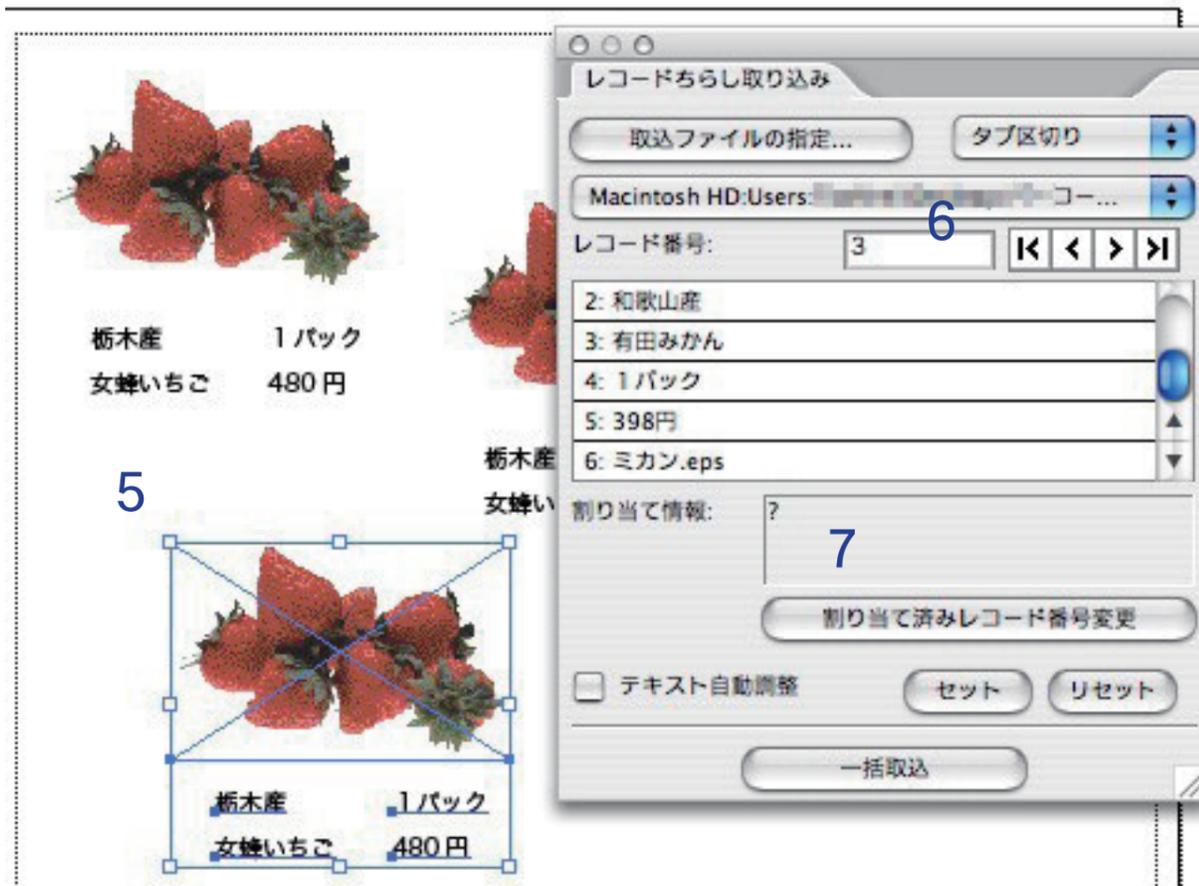
3
「割り当て済みレコード番号変更」ボタンをク

リックしてください。

4
ちなみに、Illustrator のダイレクト選択ツール（白

矢印アイコン）で画像のみを選択してみてください。「割り当て情報」欄に「フィールド番号: 2-6」と表示されます。この割り当てブロックの4つのテキストもレコード番号だけが2に替わっているはず。

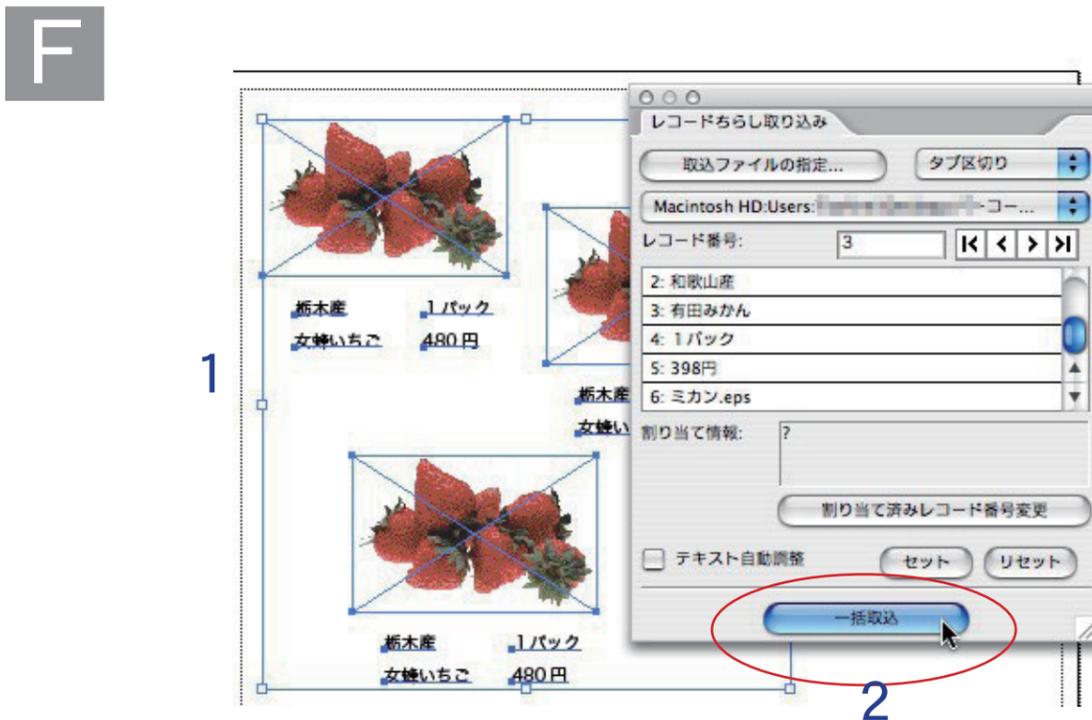
<このセッション続く>



5
もうひとつ割り当てブロックを複製しブロックごと選択して、...

6
「レコード番号:」を「3」に進めて、...

7
「割り当て済みレコード番号変更」ボタンをクリックしてください。



F 一括取り込みの実行

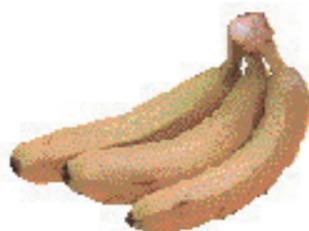
1
書類上の3つの割り当てブロックとも選択し、実際には入れ替えたいブロックだけを選択してください。
で、...

2
「一括取込」ボタンをクリックすると、...
<このセッション続く>

3



栃木産 1パック
女蜂いちご 480円



フィリピン産 1カット
バナナ 150円



和歌山産 1パック
有田みかん 398円

3

3ブロックともに割り当て通り該当レコードが取り込まれ内容が変更されます。

画像ファイルを取り込み配置する方法には、この他にテキストオブジェクトで位置とサイズを指定する方法があります。詳細については、「組版 ROBO4 > テキスト指定による画像配置」セクションをお読みください。

バーコードデータを取り込みシンボル化する方法については、「レコード順次取り込み配列 > バーコード」セクションをお読みください。(要バーコード ROBO4)

エリア内文字などを自動調整する方法については「テキスト自動調整」以降のセクションをお読みください。

4



山形産 1玉
アンデスメロン



青森産 1個
ふじりんご 128円



和歌山産 1パック
有田みかん 398円

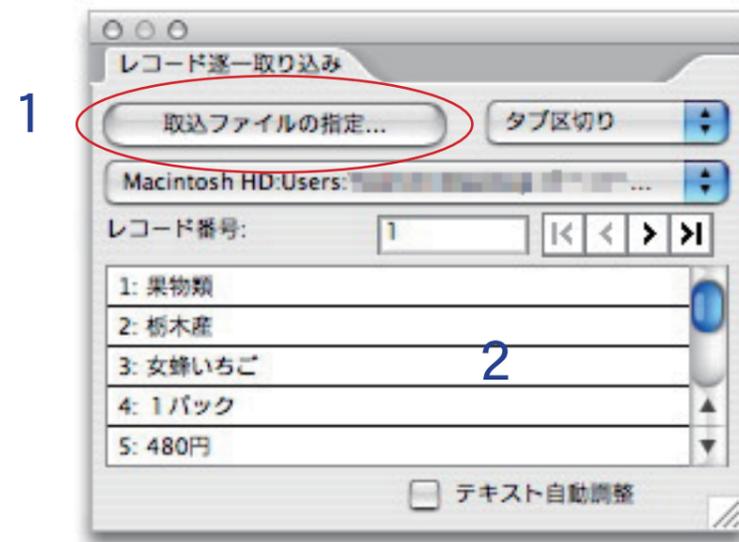
4

さらに文字属性を変更した上で割り当てレコードを切り替えて実行した例です。

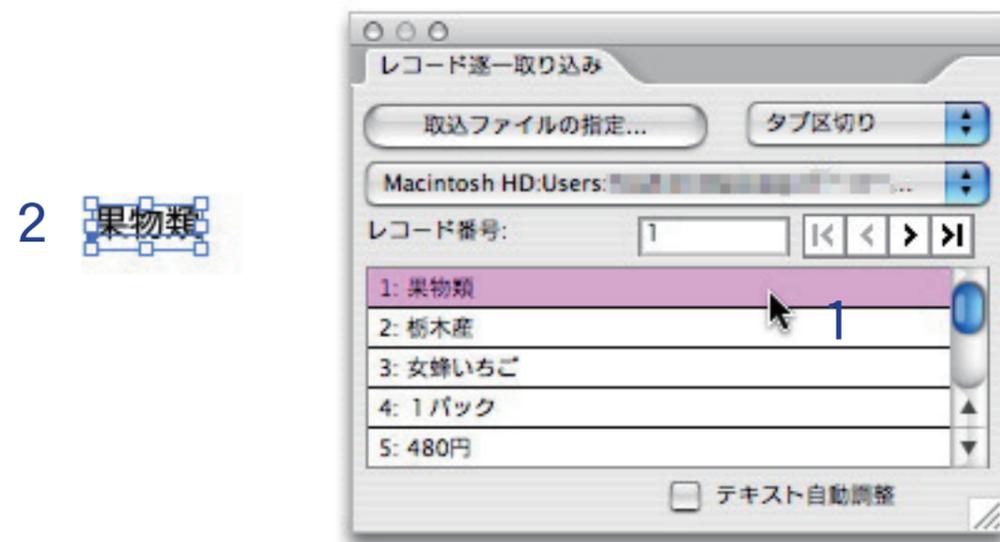
このように「レコード一括取込」では、割り当てブロック単位を選択し「割り当て済みレコード番号変更」ボタンをクリックするだけでそのブロックのフィールド割り当てはそのままにしてレコード番号だけを付け替えることができるわけです。

テキストの属性や色を変えたり複製をしても割り当て情報は残ります。

A



B



A

データベースファイルの指定

1

「レコード逐一取り込み」パネルを開き、「取込ファイルの指定...」ボタンをクリックして「ROBO4チュートリアル」フォルダにある「data.txt」ファイルを選ぶと、...

2

パネルのリストに「data.txt」の内容が表示されます。

「タブ区切り」ポップアップにもご注意ください。data.txt ファイルはタブ改行区切りのテキストファイルです。このファイル形式の詳細については「組版 ROBO4 > データベース・ファイルについて」をご覧ください。

B

データベース内容を即座にテキスト化

1

書類上のどのテキストも選択しない状態で、リストの任意のエントリ（ここではフィールド1）をダブルクリックすると、...

2

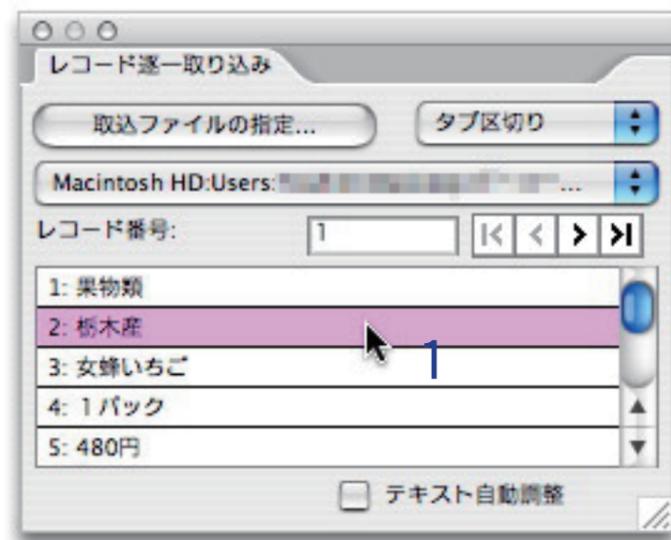
書類上にそのフィールド内容のテキストが作成されます。

<このセクション続く>

C

2

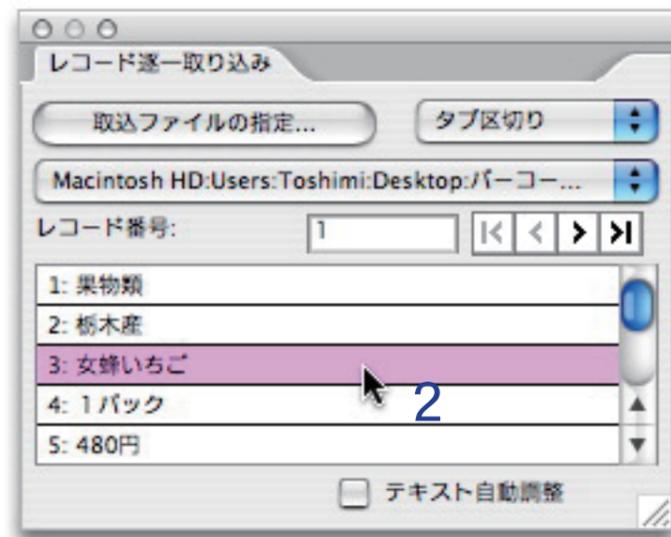
栃木産



D

1

栃木産



3

栃木産女蜂いちご

C

書類上のテキストをデータベース内容に置換

1

書類上のテキストを選択状態のまま、今度は別のエントリ（ここではフィールド 2:）をダブルクリックすると、...

2

書類上の選択テキストの内容がフィールド 2: の内容に置き換わります。

割り当てテキストがエリア内文字やパス上文字であれば、流し込み処理と並行して「テキスト自動調整」をおこなうことも可能です。詳細は「テキスト自動調整」のセクションをご覧ください。

D

書類上のテキストにデータベース内容を挿入

1

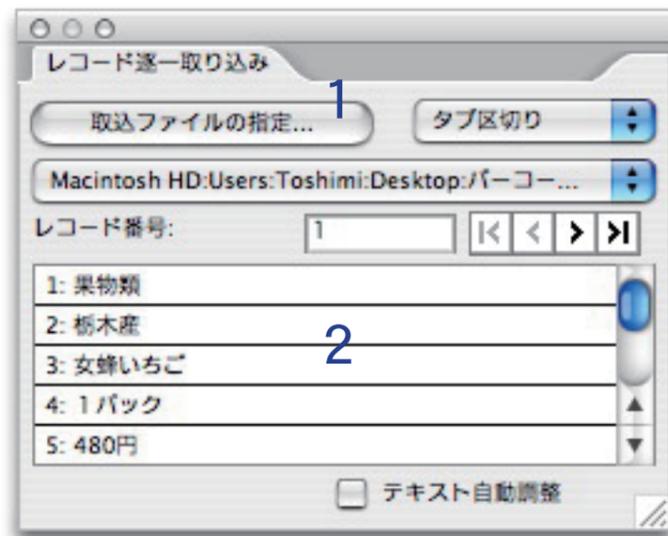
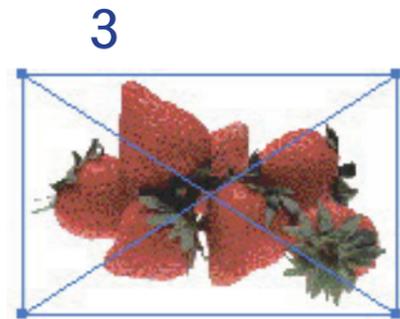
B で作成したテキストを Illustrator の文字ツールでクリックしてカーソルを末尾に置いた状態で、...

2

リストのフィールド 3 をダブルクリックすると、...

3

カーソル位置にフィールド 3 の内容が挿入されます。



ここでは、データベース内容で指定されたファイル名の画像ファイルを取り込み配置してみます。

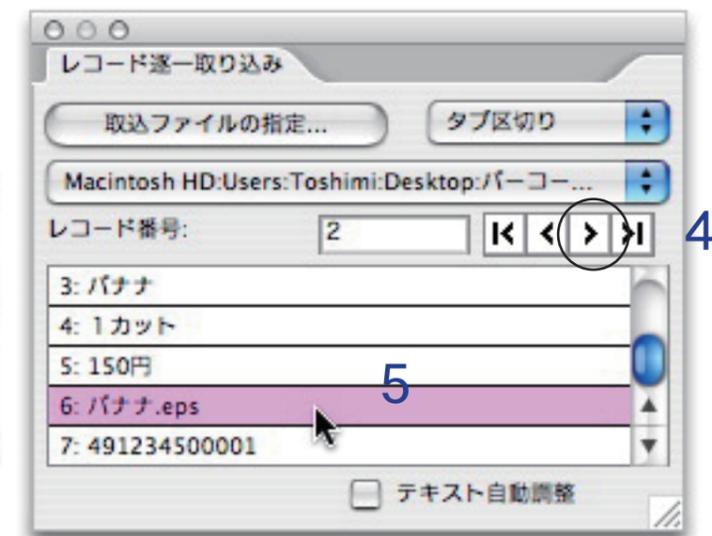
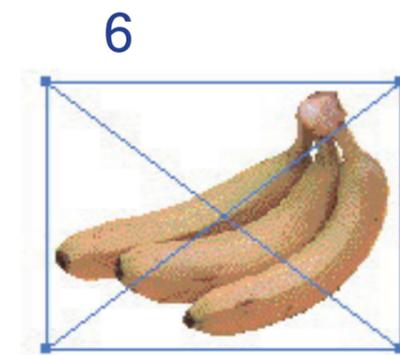
1
「取込ファイルの指定 ...」 ボタンをクリックして「ROBO4 チュートリアル」フォルダにある「data.txt」ファイルを選ぶと、...

2
パネルのリストに「data.txt」の内容が表示されます。

「タブ区切り」ポップアップにもご注意ください。data.txt ファイルはタブ改行区切りのテキストファイルです。このファイル形式の詳細については「組版 ROBO4 > データベース・ファイルについて」をご覧ください。

3
書類上に「ROBO4 チュートリアル」 > 「image_named_eps」フォルダにある「イチゴ.eps」ファイルをリンク配置し、選択状態にして、...

取り込み画像はこのときの画像の中心位置と拡大縮小率に合わせて配置されます。



4
レコード番号を 2 に進めて、...

5
フィールド 6 の「バナナ .eps」をダブルクリックすれば、...

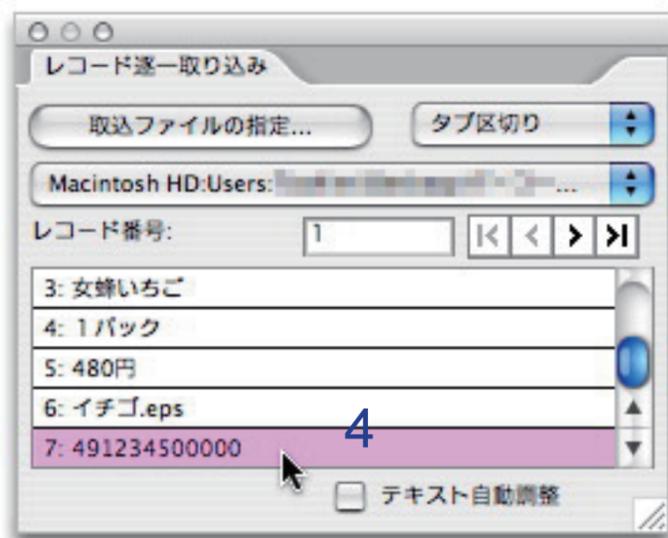
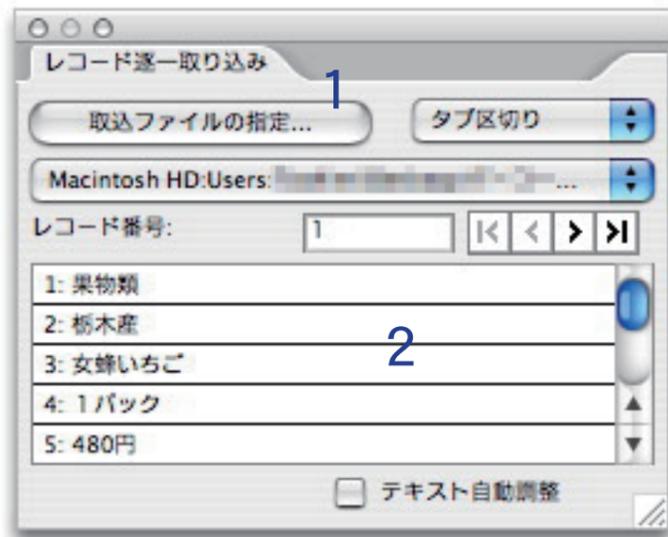
6
「イチゴ .eps」画像は「バナナ .eps」画像に置き換わります。

フィールド 6 の内容はどのレコードのものも「ROBO4 チュートリアル」 > 「image_named_eps」フォルダにある画像ファイル名になっています。

ここでのポイントは、フィールド内容の「バナナ .eps」は「イチゴ .eps」と同一フォルダ内の画像ファイルの名称であるところです。

画像ファイルを取り込み配置する方法には、この他にテキストオブジェクトで位置とサイズを指定する方法があります。詳細については、「組版 ROBO4 > テキスト指定による画像配置」セクションをお読みください。

<このセクション続く>



【重要】 アドオンコードなどが付加した2つのパートからなるバーコードデータは半角「&」で連結しておいてください。

- ・ JAN13+5 桁アドオンの例
491234567890&12345
- ・ ISBN+ 分類価格コードの例
4-77777-123&C2000 Y1234E

「ROBO4 リファレンス .pdf」の「組版 ROBO4 > 取り込みデータの特異キャラクタの表記規則」セクションもご覧ください。

ここでは、データベース内容のデータを元にバーコードを作成してみます。

【要バーコード ROBO4】 このセクションの試行にはバーコード ROBO4 が必要です。組版 ROBO4 単体製品ではバーコードを作成できません。

1
「取込ファイルの指定 ...」 ボタンをクリックして「ROBO4 チュートリアル」フォルダにある「data.txt」ファイルを選ぶと、...

2
パネルのリストに「data.txt」の内容が表示されます。

「タブ区切り」ポップアップにもご注意ください。data.txt ファイルはタブ改行区切りのテキストファイルです。このファイル形式の詳細については「組版 ROBO4 > データベース・ファイルについて」をご覧ください。

3
書類上にバーコード ROBO4 で作成した JAN13 シンボルを選択状態にして、...

取り込みデータにより作成されるバーコードはこの元バーコードのサイズや回転角に従います。

4
フィールド7の「491234500000」をダブルクリックすれば、...

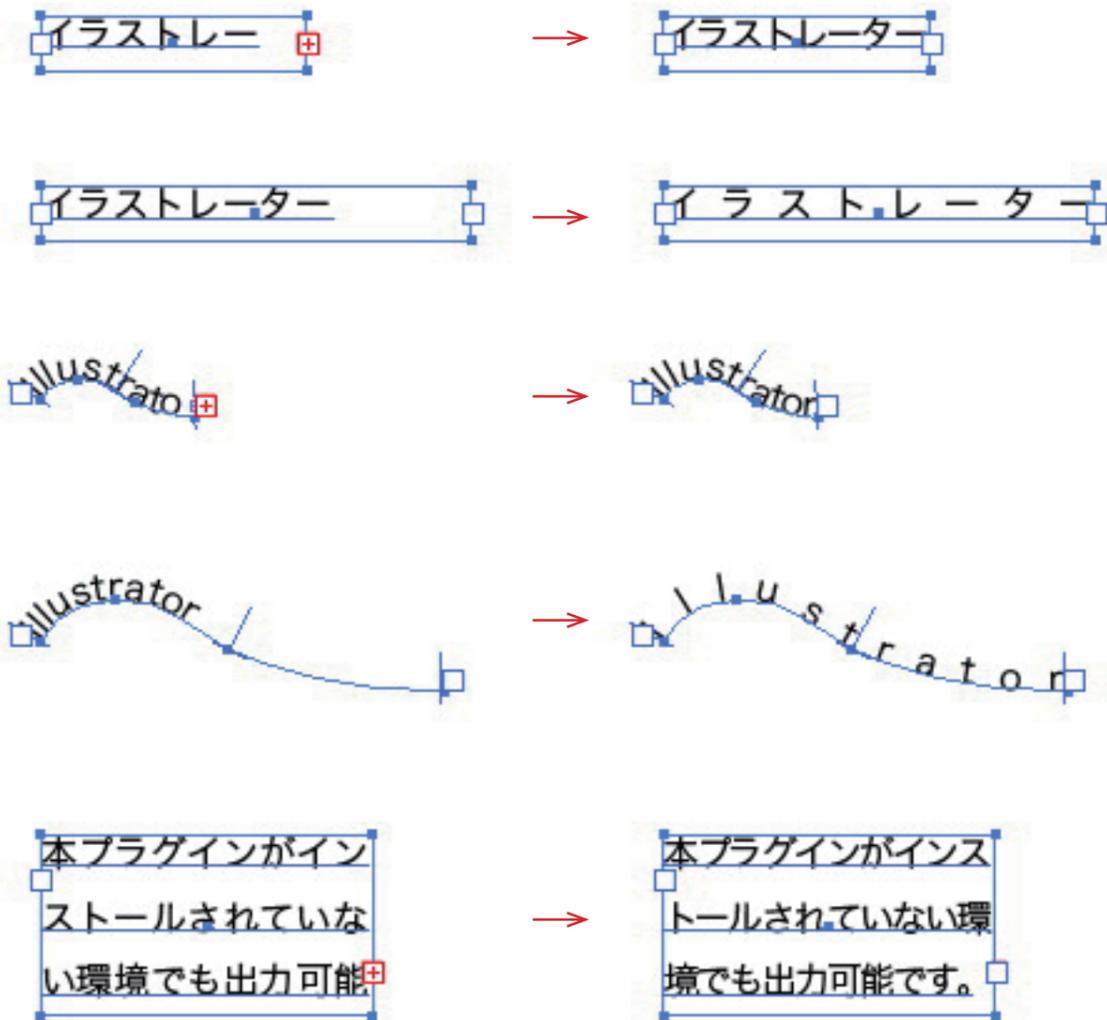
5
書類上のバーコードはフィールド7のデータのもので置き換えられます。

【注意】 チェックデジット・オプション（バーコード種による）で「モジュラス 11」系を選んだ場合には計算方法の特質上、欠番が生ずることがあります。

「テキスト自動調整」を用いれば、Illustrator のエリア内文字とパス上文字のトラッキング値、水平方向比率または垂直方向比率、サイズを自動調整して領域内に納まるようにすることができます。

「テキスト自動調整」パネルは、単体で使うこともできますが、他の組版 ROBO4 パネルによる処理時に併用することもできます。

図は、いずれも左列が調整前、右列が各調整後のサンプルです。ここでは、トラッキングのみによっていますが、行方向比率や列方向比率を加味させることもできます。

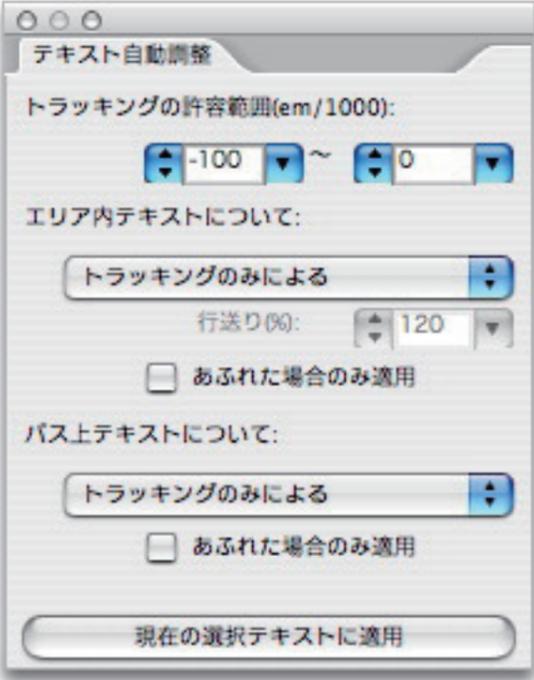


左列が調整前、右列がトラッキングのみによる調整後のサンプル

A

- 1 
- 2 

B

- 1 
- 2
- 3
- 4
- 5 

A

オーバースローしたエリア内文字

- 1
Illustrator の新規書類を開き、Illustrator の文字ツールで長方形エリア内に「テキスト自動調整」という内容のテキストを作成してください。
【注意】 テキスト自動調整の対象となるテキストはエリア内文字またはパス上文字です。単なるポイント文字は対象外です。

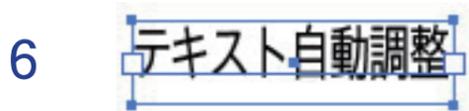
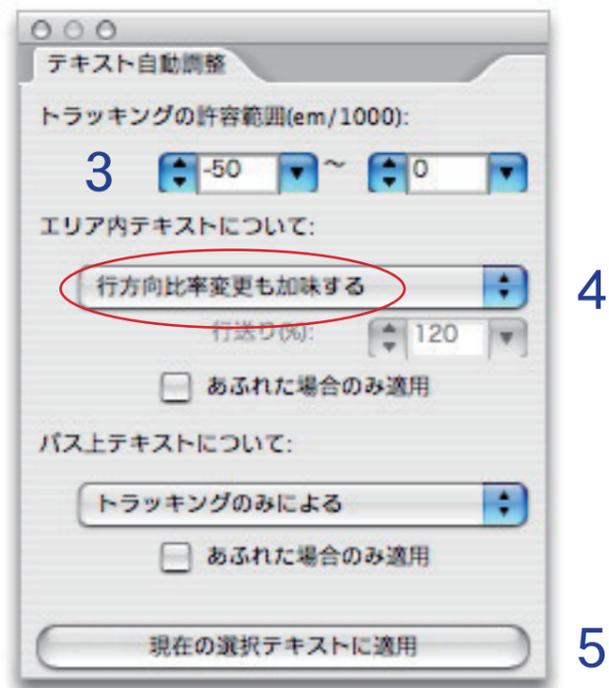
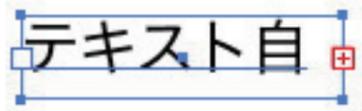
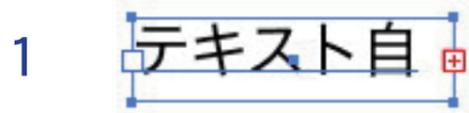
 対象外

- 2
エリアの幅を縮めて、末尾の「整」の文字が見えなくなるようにしてください。 エリア右端に赤色の [+] マークが現れます。

B

トラッキングのみによる自動調整

- 1
「組版 ROBO4」 > 「テキスト自動調整」パネルを開き、...
 - 2
「トラッキングの許容範囲 (em/1000):」の値を「-100」 ~ 「0」とし、...
 - 3
「エリア内テキストについて:」は「トラッキングのみによる」を選び、...
 - 4
書類上のテキストが選択されていることを確認して、「現在の選択テキストに適用」ボタンをクリックしてください。
 - 5
選択中のエリア内テキストのトラッキング値が最小値を -100 としてエリア内に収まるように調整されます。
実際のトラッキング値は Illustrator の文字パネルで確認できます。
- <このセクション続く>



トラッキングに行方向比率を加味した自動調整

ここではトラッキング調整だけでは字間が詰まり過ぎる場合を想定しトラッキングの最小値を使い切ったら行方向比率を加味させます。

1

さらにエリアの幅を縮めると緩いトラッキングでは納め切れません。そこで「トラッキングの許容範囲 (em/1000):」の最小値を「-500」として実行すると、...

2

エリア内には収まりますが、字間が詰まり過ぎてしまいますから、...

3

「トラッキングの許容範囲 (em/1000):」の最小値を「-50」として、...

4

「エリア内テキストについて:」は「行方向比率変更も加味する」を選び、...

5

「現在の選択テキストに適用」ボタンをクリックすると、...

6

トラッキングの最小値 -50 を使い切ってエリア内に納めきれないときには行方向比率によって調整されます。

実際のトラッキング値と水平比率値は Illustrator の文字パネルで確認できます。

A



1

2

ここでは「レコード順次取り込み」パネルから「テキスト自動調整」パネルを呼び出し、テキスト取り込み実行時に自動調整もおこなってみましょう。

【注意】ここでは「組版 ROBO4 > レコード順次取り込み配列 > 基本操作」のレッスンを終えているものとしています。

A テキスト自動調整を併用する準備

1
 例えば「レコード順次取り込み配列」パネルの「テキスト自動調整」をチェックすると、...
 「テキスト自動調整」チェックボックスは「テキスト自動調整」パネル以外のすべての組版 ROBO4 パネルにあります。

2
 横に隣接して「テキスト自動調整」パネルが表示されます。
 「テキスト自動調整」パネルが離れていても「テキスト自動調整」チェックボックスをチェックし直すと隣接して表示されます。

B



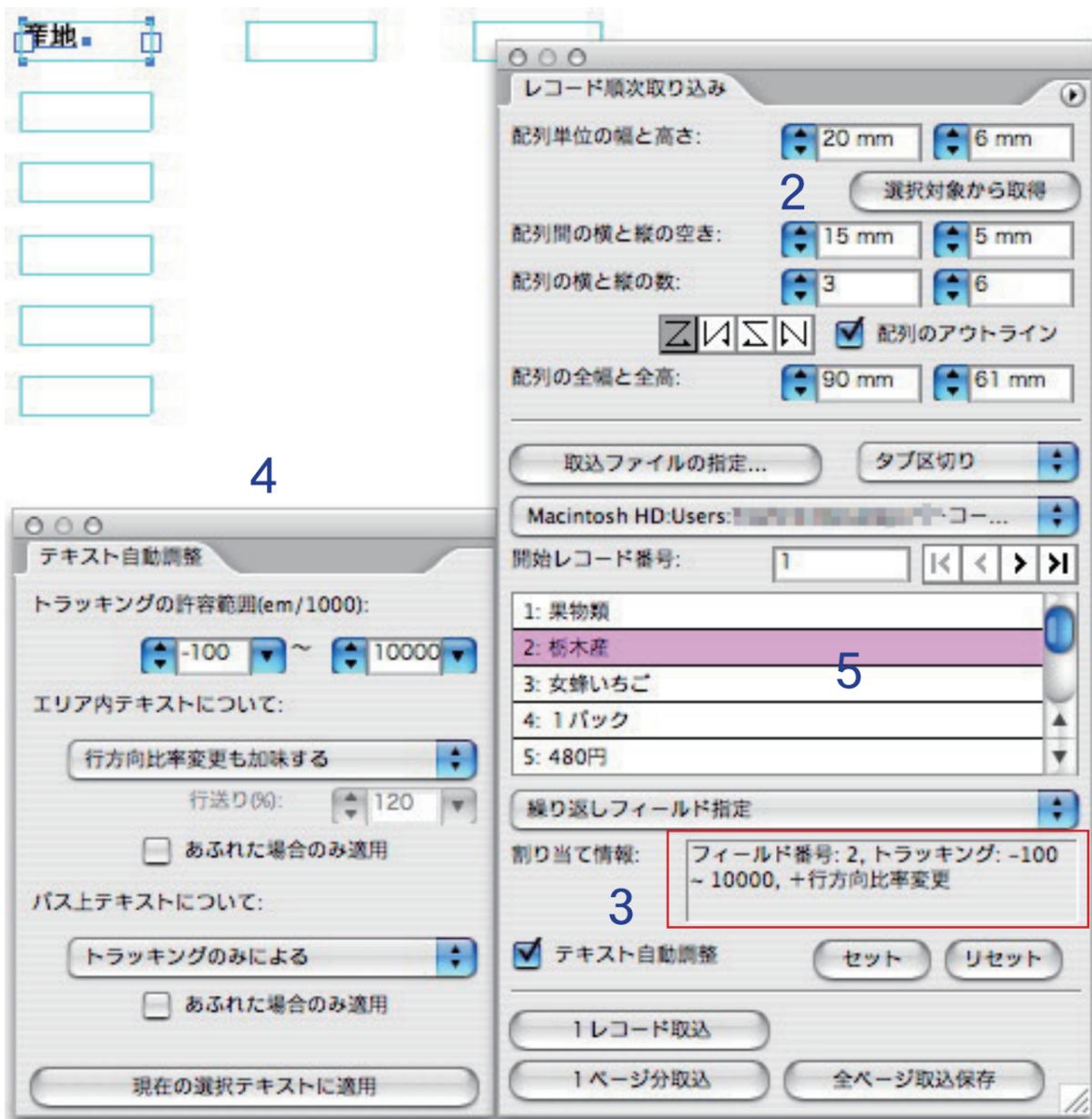
B テキストオブジェクトの準備

Illustrator の新規書類を開き、Illustrator の長方形ツールで幅 20mm、高さ 6mm の長方形パスを描き、その高さに合ったサイズの文字で「産地」という内容のテキスト・オブジェクトに変換してください。

<このセクション続く>

C

1



6

C

取り込みのための割り当て

1

テキスト「産地」を選択し、...

2

「レコード順次取り込み配列」パネルの「選択対象から取得」ボタンをクリックして、配列の単位サイズを自動入力し、横3×縦6の配列とし、取込ファイルは「ROBO4 チュートリアル」フォルダにある「data.txt」を使います。

「タブ区切り」ポップアップにもご注意ください。data.txt ファイルはタブ改行区切りのテキストファイルです。

3

「テキスト自動調整」をチェックすると「テキスト自動調整」パネルが現れますので、...

4

「トラックの許容範囲 (em/1000):」を「-100」～「10000」、「エリア内テキストについて:」を「行方向比率変更も加味する」を選びます。

5

「レコード順次取り込み配列」パネルの「セット」ボタンをクリック（またはリストからフィールド2をダブルクリック）してください。

この結果、「割り当て情報:」欄に「フィールド番号: 2, トラック: -100 ~ 10000, +行方向比率変更」と表示されます。

6

「1ページ分取込」ボタンをクリックすると、...
<このセクション続く>

栃 木 産	フィリピン産	和 歌 山 産
山 形 産	青 森 産	メキシコ産
長 野 産	茨 城 産	群 馬 産
千 葉 産	茨 城 産	高 知 産
アメリカ産	アメリカ産	アメリカ産
北海道産十勝牛	鹿児島産	国 産

完了です。

Illustrator の文字属性や段落属性なども併用できます。

配列されたテキストはそれぞれレコードの取り込み時に自動調整されています。

A

第7番目のレコード

第3番目のフィールド

	A	B	C	D	E	F
1	果物類	栃木産	女蜂いちご	1パック	480円	イチゴ.eps
2	果物類	フィリピン産	バナナ	1カット	150円	バナナ.eps
3	果物類	和歌山産	有田みかん	1パック	398円	ミカン.eps
4	果物類	山形産	アンデスメロン	1玉	498円	メロン.eps
5	果物類	青森産	ふじりんご	1個	128円	リンゴ.eps
6	野菜類	メキシコ産	えびす南瓜	1/2切	148円	カボチャ.eps
7	野菜類	長野産	キャベツ	1玉	198円	キャベツ.eps
8	野菜類	茨城産	きゅうり	5本	100円	キュウリ.eps
9	野菜類	群馬産	シメジ	1パック	98円	シメジ.eps
10	野菜類	千葉産	にんじん	2本	198円	ニンジン.eps
11	野菜類	茨城産	白菜	1株	298円	ハクサイ.eps
12	野菜類	高知産	ピーマン	1ネット	150円	ピーマン.eps
13	肉・魚類	アメリカ産	牛肩ロース	100g	128円	
14	肉・魚類	アメリカ産	牛肩ロース切り	400g入1パック	398円	
15	肉・魚類	アメリカ産	豚肉ロース	100g	100円	
16	肉・魚類	北海道産十勝牛	牛肩ロースうす	100g	350円	
17	肉・魚類	鹿児島産	健康豚もも切り	100g	108円	
18	肉・魚類	国産	うなぎ蒲焼	1本	1,000円	
19	肉・魚類	熊本産	うなぎ蒲焼	1本	780円	
20	肉・魚類	中国産	うなぎ蒲焼	1本	580円	
21						

組版 ROBO4 で利用可能なデータベースのファイル形式は「タブ区切り」または「コンマ区切り」(CSV)と Shift-JIS または UTF-8 (CS6 以降用) フォーマットのテキストファイルです。

改行コードについては、CR、CR+LF または LF のどれでも構いません。

これらのファイル形式はファイルメーカー Pro のようなデータベースソフトや Microsoft Excel などの表計算ソフトが一般に備えている書き出し/保存形式です。一方でテキスト形式でもありますので、一般のテキストエディタ (編集ソフト) で編集することもできます。

データベース・ファイルの使い方については各パネルごとのレッスンをご覧ください。

【注意1】 単一のダブルクォーツ (") は外されます。ダブルクォーツ自体を取り込む場合には重ねて入力してください。また、「コンマ区切り」(CSV) 形式においてコンマ自体を取り込む場合にはダブルクォーツで囲ったフィールド内に置いてください。

【注意2】 Excel でのセル内改行は、「タブ区切り」または「コンマ区切り」(CSV) 形式で書き出すとすべて実改行になります。セル内改行部分を取り込み時に反映させたい場合は、「<CR>」という表記に書き換えまたは置き換えたファイルを作成した上でご利用ください。

以上については「ROBO4 リファレンス .pdf」の「組版 ROBO4 > 取り込みデータの特長・特殊キャラクタの表記規則」セクションもご覧ください。

A 表計算ソフトで開いた様子

「ROBO4 チュートリアル」フォルダにある「data.txt」ファイルを Excel で開いたときの様子です。図の横行が各レコードを、縦列が各フィールドを表していて、例えば第7番目のレコードの第3番目のフィールドが「キャベツ」となっています。
 <このセクション続く>

【参考】 データベースの単位はレコードです。レコードとはひとつの独立した関連データの集まりです。例えば、一枚の名刺はひとつのレコードと呼ぶことができます。社員名刺なら、会社名、所属、氏名、所在地、電話番号などのデータが印刷されています。データベース用語では、これらの互いに関連する情報のひとつひとつをそれぞれフィールドと呼びます。社員名刺のレコードには、会社名フィールド、所属フィールド、氏名フィールド、所在地フィールド、電話番号フィールドなどがあります。

B

```
果物類<タブ>栃木産<タブ>女蜂いちご<タブ> 1パック<タブ>480円<タブ>イチゴ.eps<タブ>491234500000
果物類<タブ>フィリピン産<タブ>バナナ<タブ> 1カット<タブ>150円<タブ>バナナ.eps<タブ>491234500001
果物類<タブ>和歌山産<タブ>有田みかん<タブ> 1パック<タブ>398円<タブ>ミカン.eps<タブ>491234500002
果物類<タブ>山形産<タブ>アンデスメロン<タブ> 1玉<タブ>498円<タブ>メロン.eps<タブ>491234500003
果物類<タブ>青森産<タブ>ふじりんご<タブ> 1個<タブ>128円<タブ>リンゴ.eps<タブ>491234500004
野菜類<タブ>メキシコ産<タブ>えびす南瓜<タブ>1/2切<タブ>148円<タブ>カボチャ.eps<タブ>491234500005
野菜類<タブ>長野産<タブ>キャベツ<タブ> 1玉<タブ>198円<タブ>キャベツ.eps<タブ>491234500006
野菜類<タブ>茨城産<タブ>きゅうり<タブ> 5本<タブ>100円<タブ>キュウリ.eps<タブ>491234500007
野菜類<タブ>群馬産<タブ>シメジ<タブ> 1パック<タブ>98円<タブ>シメジ.eps<タブ>491234500008
野菜類<タブ>千葉産<タブ>にんじん<タブ> 2本<タブ>198円<タブ>ニンジン.eps<タブ>491234500009
野菜類<タブ>茨城産<タブ>白菜<タブ> 1株<タブ>298円<タブ>ハクサイ.eps<タブ>491234500010
...
```

B

テキスト編集ソフトで開いた様子

同ファイルを一般のテキストエディタで開いたときのイメージです。各レコードは改行で区切られ、ここではタブの位置は<タブ>で示してあります。コンマ区切り (CSV) ファイルならタブの代わりに半角の「,」が入ります。

もし改行が続けば改行と改行の間は空レコードを意味し、タブが連続すればタブとタブの間は空フィールドを意味します。

C

取り扱い可能なデータベース要素の最大値

取り扱えるデータベースのレコード数やフィールド数およびその容量の最大値は以下の通りで、実用上問題ないサイズです。

最大レコード数 : 2,147,483,647

最大フィールド数 : 32,767 (*1)

最大フィールドサイズ : 32,768 文字 (*2)

(*1) 1レコード当たりの値

(*2) 半角換算 (Illustrator の 1 テキスト当たりの最大容量)

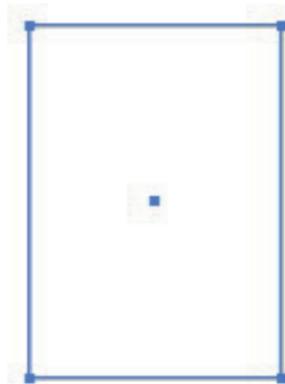
各取り込みパネルによるレッスンでは、書類上でリンク配置した画像を、それと同一フォルダにある画像ファイルで置き換える方法を説明しました。

ここではそれ以外の取り込み方法として、テキストオブジェクトで位置とサイズを指定する方法を説明します。

取り込み画像ファイルについては、Illustrator 上で配置可能なすべての画像フォーマットに対応しています。ただし、Illustrator 自体がリンク配置対応している画像フォーマットは、Illustrator のバージョンによって異なる場合があります。

A

1



2



A

取り込み口となるテキストの記述方法と配置の実行

1

Illustrator の長方形ツールで取り込みサイズに合った長方形を描いて、...

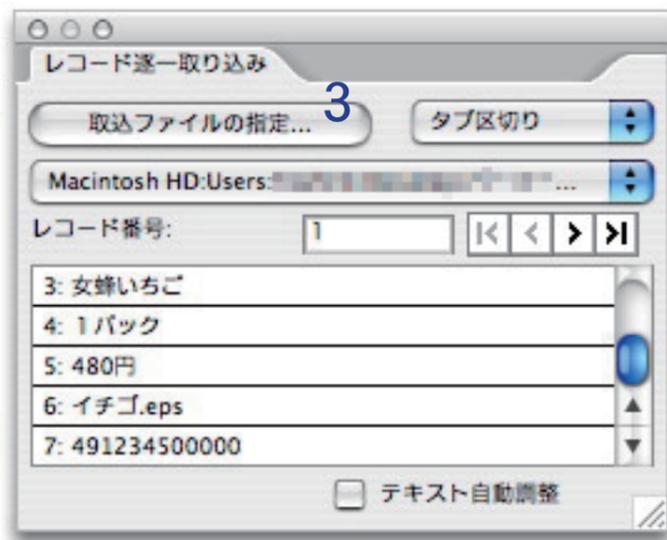
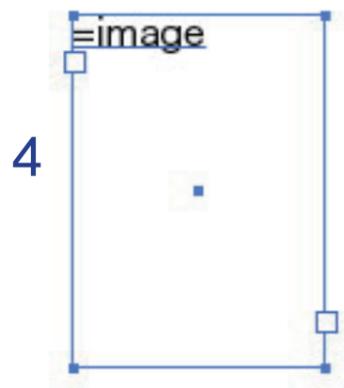
2

その枠線上を Illustrator の文字ツールでクリックして「=image」と入力します。すべて半角で（大文字混在可）改行など他の文字を含めないでください。

この結果長方形はエリア内文字オブジェクトに変化しますが、最初から文字ツールで長方形エリアを作って入力しても構いません。

「=imge」の代わりに「= 図」（= は半角）も使用できます。

<このセクション続く>



※このレッスンでは簡潔のために「レコード逐一取り込み」を使っていますが、他の取り込みパネルでも利用できます。

3

「レコード逐一取り込み」パネルの「取込ファイルの指定 ...」ボタンをクリックして「ROBO4 チュートリアル」フォルダの「image_named_eps」にある「data2.txt」ファイルを選ぶと、リストにその内容が表示されますので、...

【重要】 データベースファイルと異なるフォルダにある画像ファイルを取り込みたい場合は、フィールド内容にそのファイル位置を示すパス名を記述しておく必要があります。

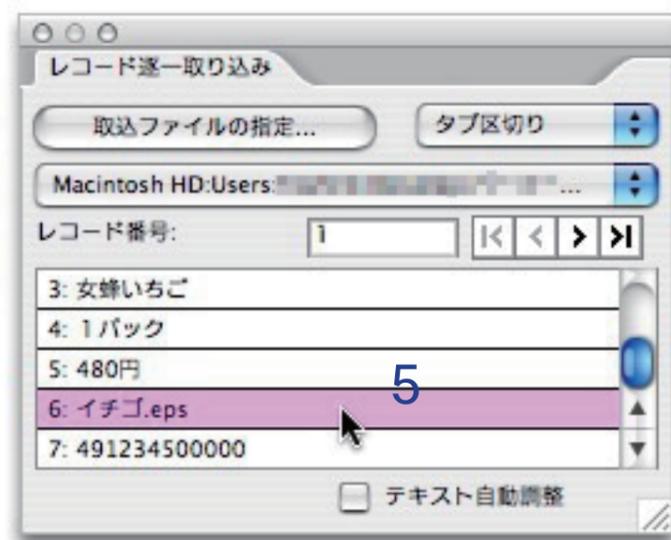
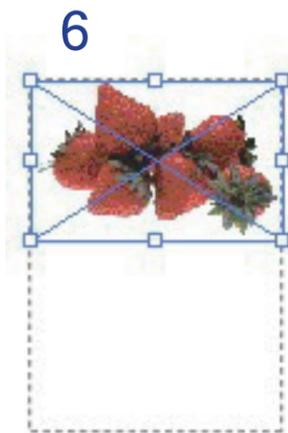
・CS6以降用では
 相対パスでの指定も可能です。例えばデータベースファイルを含むフォルダと並列している Images フォルダに画像ファイルがあるなら、
 〈Mac OS X の例〉
 ../Images/apple.png
 〈Windows の例〉
 ..¥Images¥apple.png
 詳しくは「CS6/CC-CC2018 用インストール方法.pdf」書類の「CS5 以前用との違い」>「組版 ROBO4・取り込み画像のパス指定に関して」のページをお読みください。

・CS5 以前用では
 絶対パス名で記述します。
 〈Mac OS X の例〉
 Macintosh HD:Users:[User Name]: 書類 : 画像 : パナナ .eps
 〈Windows Vista 以降の例〉
 c:¥Users¥[User Name]¥Documents¥ 画像 ¥ メロン .eps
 〈Windows XP 以前の例〉
 c:¥Documents and Settings¥[User Name]¥My Documents¥ 画像 ¥ メロン .eps

4

先ほど用意した取り込み口となるテキストオブジェクトを選択して、...

<このセクション続く>



5

リストのフィールド6の「イチゴ.eps」をダブルクリックしてください。

他の取り込みパネルにおいては、この操作がフィールド割り当てに当たります。

6

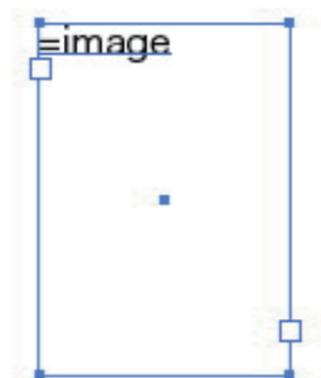
エリア内テキストが画像ファイル「イチゴ.eps」と置き換えられます。

図中の点線枠は元のテキストオブジェクトの位置を示すもので実際はありません。(以下同)

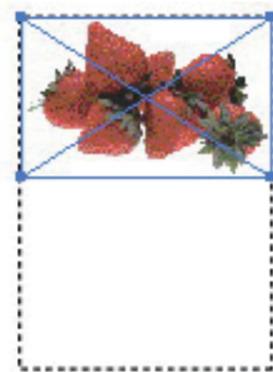
ここでのポイントは、フィールド内容の「イチゴ.eps」は「data2.txt」と同一フォルダ内の画像ファイルの名称であるところです。

B

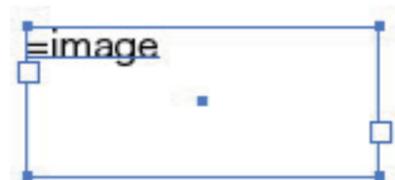
1



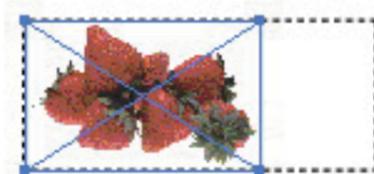
縦辺が長くて左揃え



2



横辺が長くて左揃え



B

エリア内テキストの形状および文字揃えごとの配置状態

エリア内テキストを取り込み口とする場合には、エリア枠の形状や文字揃えの違いで画像のスケールや位置が異なって配置されます。

1

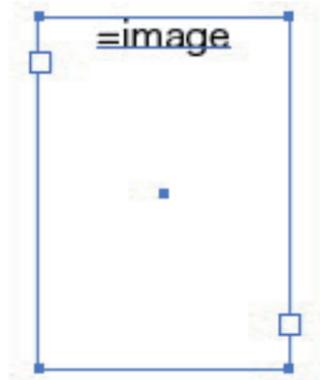
テキストオブジェクトの縦辺が横辺より長くて左揃えの場合。

2

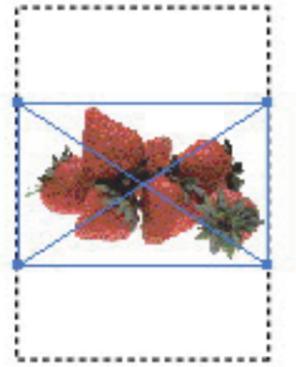
テキストオブジェクトの横辺が縦辺より長くて左揃えの場合。

<このセクション続く>

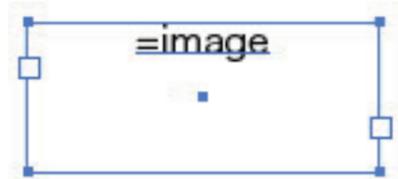
3



縦辺が長くて中央揃え



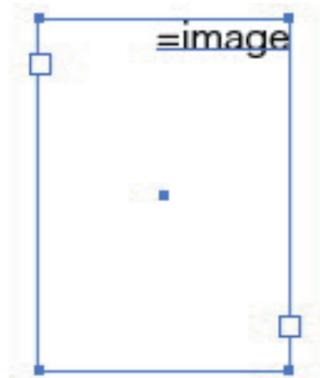
4



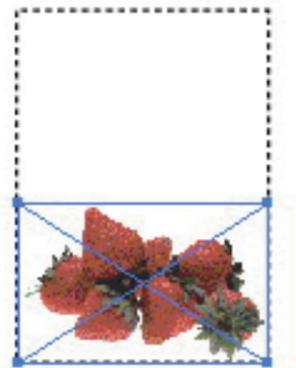
横辺が長くて中央揃え



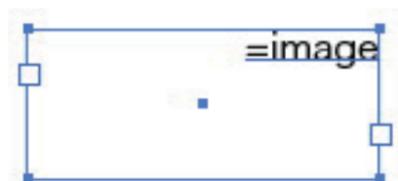
5



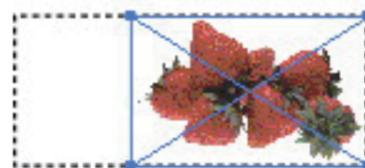
縦辺が長くて左揃え



6



横辺が長くて左揃え



3

テキストオブジェクトの縦辺が横辺より長くて中央揃えの場合。

4

テキストオブジェクトの横辺が縦辺より長くて中央揃えの場合。

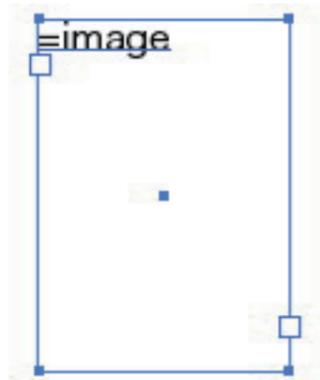
5

テキストオブジェクトの縦辺が横辺より長くて左揃えの場合。

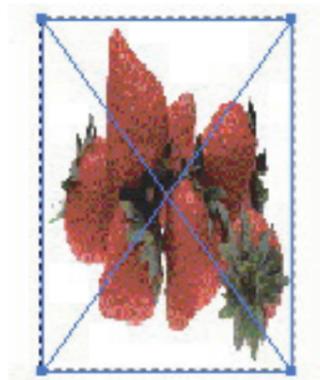
6

テキストオブジェクトの横辺が縦辺より長くて左揃えの場合。
<このセクション続く>

3



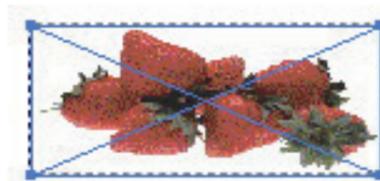
縦辺が長くて両端揃え



4



横辺が長くて両端揃え



3

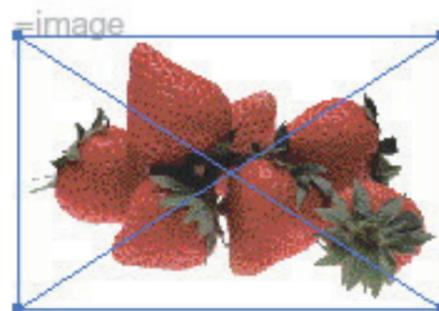
テキストオブジェクトの縦辺が横辺より長くて
両端揃えの場合。

4

テキストオブジェクトの横辺が縦辺より長くて
両端揃えの場合。

D

image



D

ポイントテキストによる等倍配置

ポイントテキストの場合は、そのポイント位置に
画像の左上を合わせて 100 % サイズで置き換えら
れます。

図のグレー文字は元のテキストオブジェクトの位置を示すも
ので実際はありません。

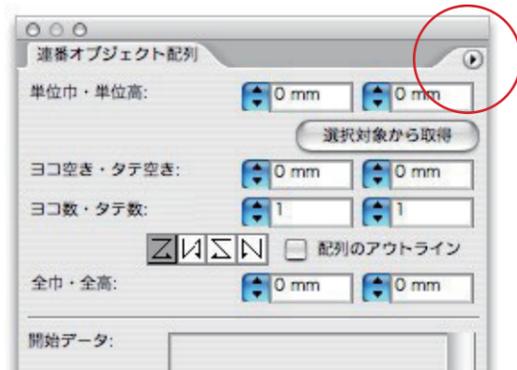
第3章

プリセット・メニュー

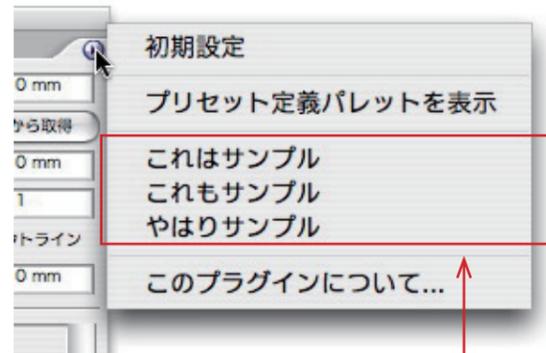
※バーコード ROBO4 / 組版 ROBO4 共通

▶ プリセット・メニュー > 概要

1

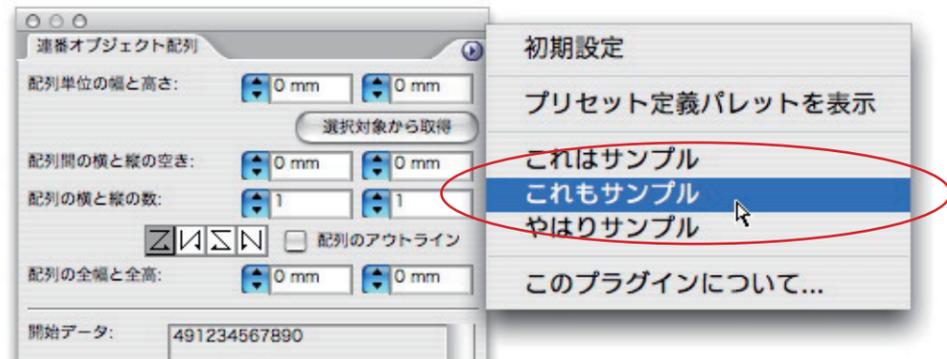


2

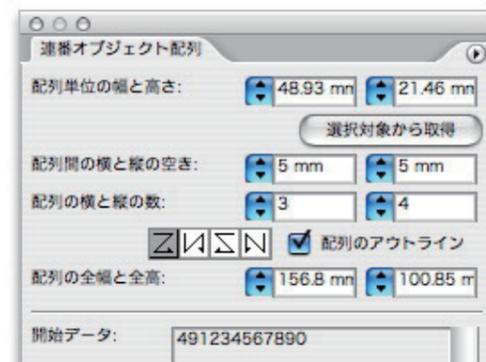


ユーザ定義メニュー

3



4



プリセットとは、現在のパネル設定値に名前をつけて保存し、適宜呼び出して再利用が簡単にできるようにするものです。バーコード ROBO4 / 組版 ROBO4 ではこのプリセットをメニュー化したり、他のユーザが作成したプリセットをインポートしたり、逆に他へエクスポートしたりできます。

旧バーコード ROBO3 / 組版 ROBO3 のプリセットをインポートすることも可能です。ただし Mac 版の場合は注意が必要です。詳しく「インポート」のセクションをご覧ください。

1

パネル右上のポップアップメニューをクリックすると、...

2

プリセット・メニューが現れます。「初期設定」、「プリセット定義パネルを表示」、「このプラグインについて...」はすべてのプリセット・メニューで共通です。

「初期設定」はパネルの設定値を規定値（デフォルト）に戻すものです。「プリセット定義パネルを表示」と「このプラグインについて...」に挟まれた部分は自由に定義できます。この部分をユーザ定義メニューと呼びます。

3

「初期設定」もしくはユーザ定義メニューのひとつを選ぶと、...

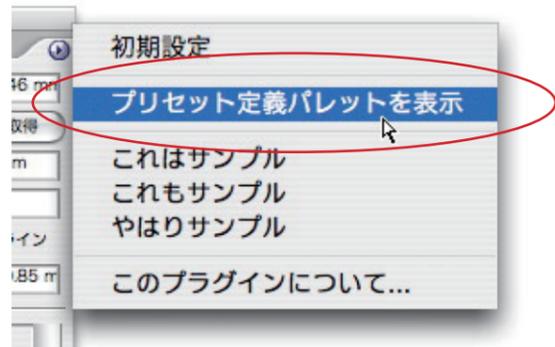
4

親パネルの設定値がそのプリセット内容で更新されます。

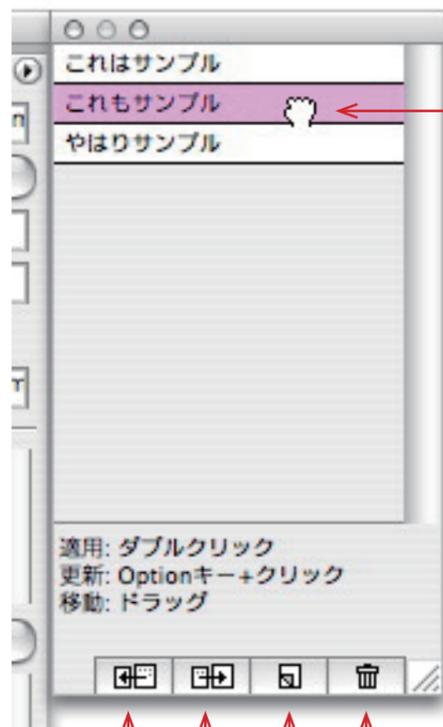
▶ プリセット・メニュー > 定義パネル

A

1



2



ドラッグで順序を移動 (*)

* Windows 版 CS6 以降用 ROBO4 では、「ドラッグによる行の入れ替え」チェックボックスをオンにしてください。

リサイズ・ボックス

エクスポート・ボタン

インポート・ボタン

新規登録ボタン

登録削除ボタン

A

表示と外観

1

プリセット定義パネルが表示されていない場合、親パネルの右上にあるポップアップメニューから「プリセット定義パネルを表示」をえらんでください。

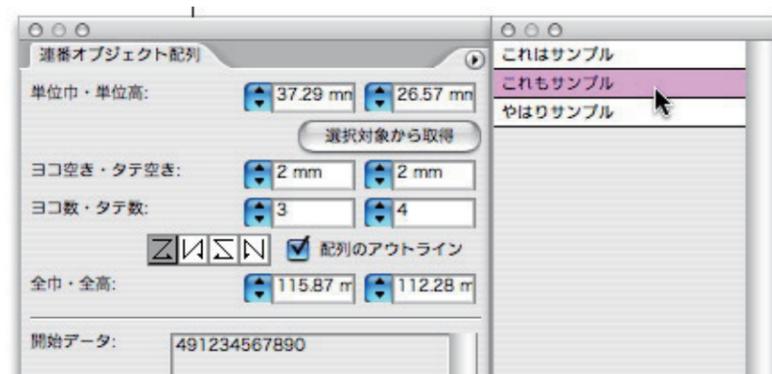
親パネル右上にポップアップメニューのあるものとないものがあります。

2

親パネルの隣りにプリセット定義パネルが表示されます。図のリストには既に3つのエントリが登録済みです。図1のメニュー内容と比べてください。

プリセット定義パネルを閉じるにはパネルのクローズボタンをクリックするか、親パネル右上のポップアップメニューから「プリセット定義パネルを隠す」を選んでください。なお、親パネルを閉じるとプリセット定義パネルも閉じられます。

B



ダブルクリック

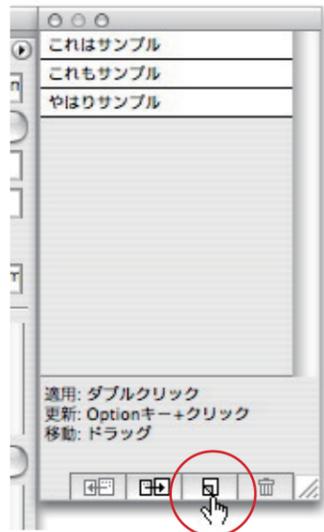
B

定義パネルからのプリセット取得

「プリセット定義パネル」のリスト・エントリのひとつをダブルクリックすれば、親パネルのプリセット・メニューからその項目を選んだのと同様にそのプリセット内容で親パネルの設定値が更新されます。

A

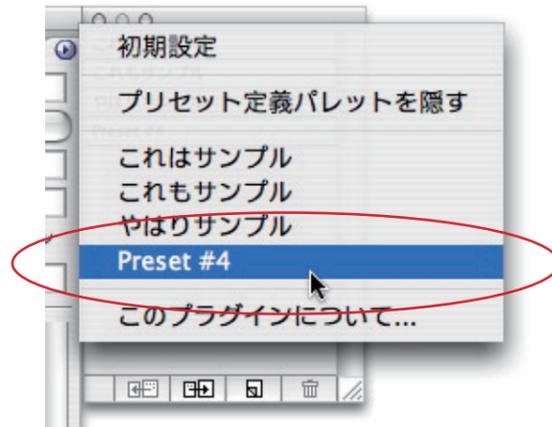
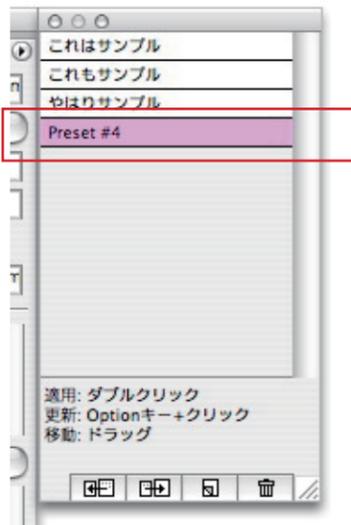
1



2



3



A

新規登録

1

プリセット定義パネルの下段にある新規登録ボタンをクリックすると、...

2

プリセット名の入力用ダイアログが現れますので、適当な名前を付けて OK ボタンを押してください。ここでは、「Preset #4」と名付けました。

CS6 以降用ではプリセット名にユニコード文字が使えます。

3

プリセット定義パネルのリストに新たなエントリが追加されています。これで現在の親パネルの設定内容が「Preset #4」という名前で登録されました。

プリセット定義パネルはパネル右下のリサイズボックスをドラッグすることで大きさを変えられます。

B



B

登録削除

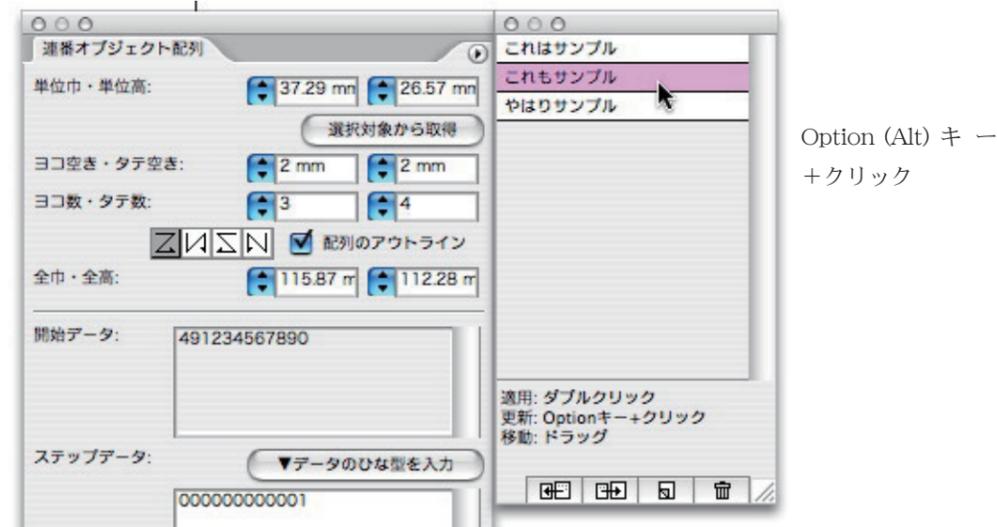
今度は、登録したプリセットを削除してみます。プリセット定義パネルのリストのうち今登録したエントリを選択してから「登録削除ボタン」をクリックしてください。確認のアラートが出ますが、OK ボタンを押してください。

リストのエントリは、Shift キー+クリックで連続複数選択、コマンドキー+クリック (Windows では Ctrl キー+クリック) で任意の複数選択ができて、それらを一度に削除することもできます。

このとき Windows 版 CS6 以降用 ROBO4 では、「ドラッグによる行の入れ替え」チェックボックスを外しておく必要があります。

▶ プリセット・メニュー > プリセット内容およびメニュー名の更新

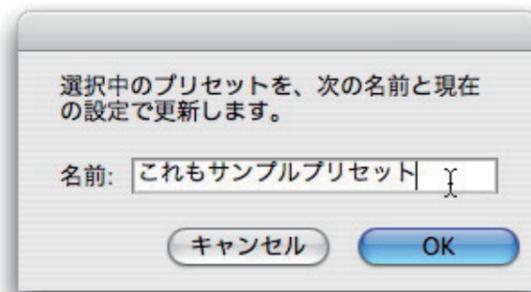
1



1

プリセット定義パネルのリストの変更するエントリを Option (Alt) キー + クリックしてください。

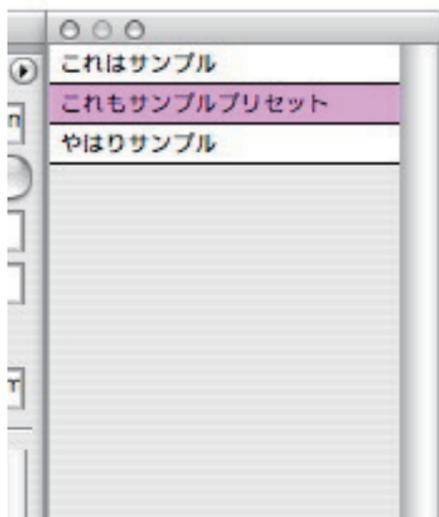
2



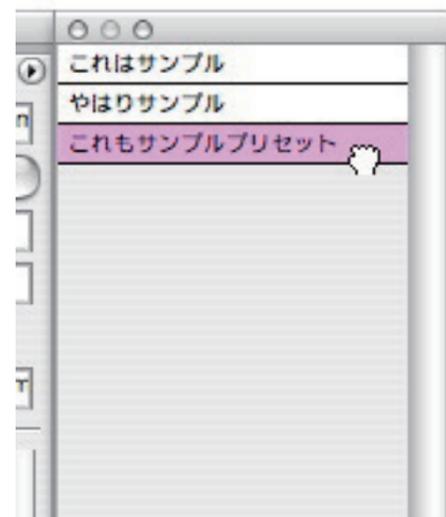
2

更新確認を兼ねて名前を入力するダイアログが現れますので、名前を付け替えるかそのままにして OK ボタンを押してください。

3



4



3

1 で選んだプリセットは、現在の親パネルの設定内容と入力名で更新されました。

メニュー名称だけ変更したい場合には、そのメニュー・エントリをダブルクリックして、いったん設定内容を親パネルに読み込んでおいてください。

4

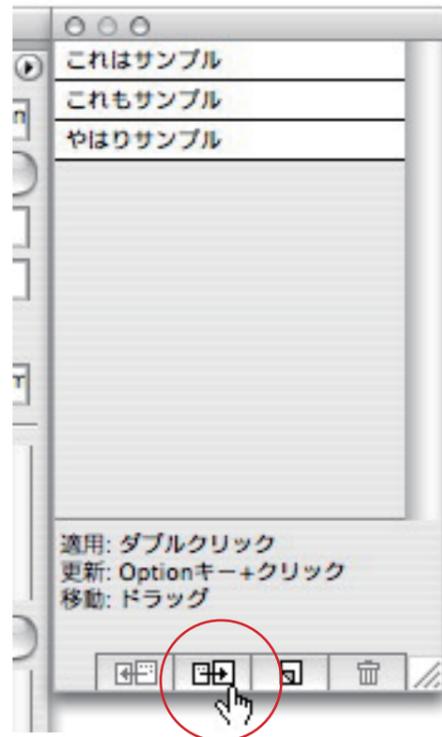
リストのエントリはドラッグ移動して順序を入れ替えることもできます。

【注意】 Windows 版 CS6 以降用 ROBO4 では、このドラッグ移動の前に「ドラッグによる行の入れ替え」チェックボックスをオンにしてモードを変える必要があります。

▶ プリセット・メニュー > インポート (ROBO4 ← ROBO3/4)

A

1



ここでいうインポートとは他の同種パネルの設定に関するプリセットからの読み込みのことを指します。

A インポート元フォルダの選択

1

他の Illustrator にインストールされている ROBO4 のプリセットをインポートしてみます。

プリセット定義パネルの下段にあるインポート・ボタンをクリックすると、...

ROBO4 どうしなら Mac/Windows 版間でもインポート可能です。

インポート元のフォルダに関する詳しい情報については、「ROBO4 リファレンス .pdf」の「プリセット > プリセット・メニュー > 保存ファイルについての詳細情報」セクションをご覧ください。

2

インポート元のプリセット・ファイルを含むフォルダを選択するダイアログが現れますので、...

【注意】 CS6 以降用 ROBO4 では CS5 以前用のプリセットからのインポートはできませんが、CS5 以前用 ROBO4 では CS6 以降用のプリセットファイルからのインポートはできません。

2



3

別のユーザ環境などにある「ROBO4 User Settings」フォルダまたは「ROBO4 User Settings 2012」(CS6 以降用) フォルダを選択してください。右に示すフォルダ内にあります。

- ◎ Mac 版 Illustrator 10 以降の場合：
ユーザごとの「書類 (Documents)」フォルダ内
- ◎ Mac 版 Illustrator 8/9 の場合：
Illustrator の「プラグイン」フォルダの「ROBO4_89」フォルダ内
- ◎ Windows Vista 以降の場合：
ユーザごとの「ドキュメント (Documents)」フォルダ内
- ◎ Windows XP 以前の場合：
ユーザごとの「マイ ドキュメント (My Documents)」フォルダ内

4

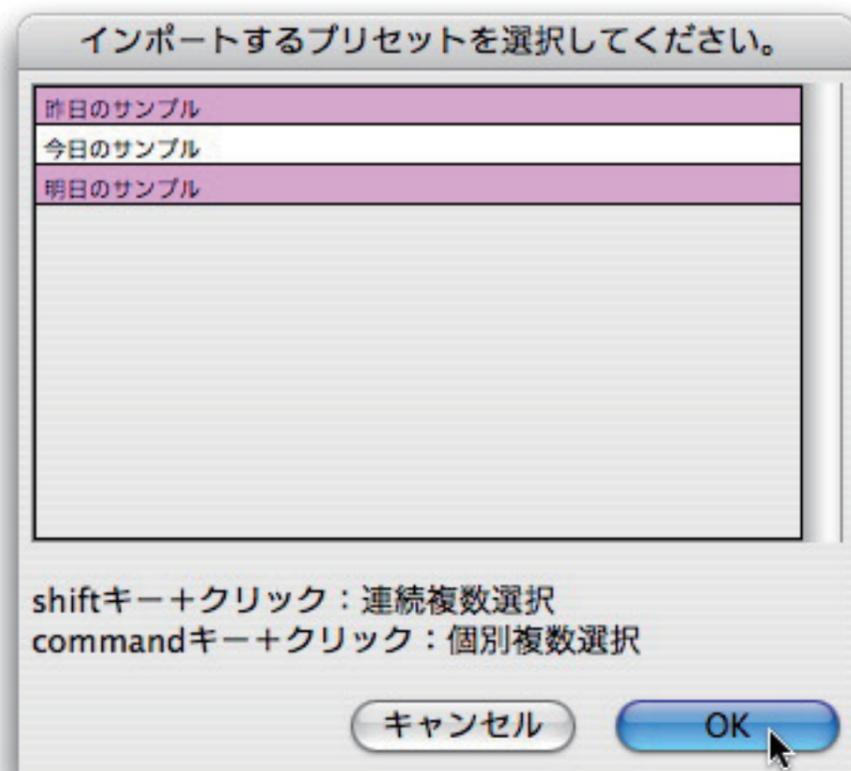
「選択」ボタンをクリックしてください。
<このセクション続く>

【参考】 プリセット・ファイルを直接複製利用することもできますが、注意が必要です。詳細については「ROBO4 リファレンス .pdf」の「プリセット > プリセット・メニュー > 保存ファイルについての詳細情報」セクションをご覧ください。

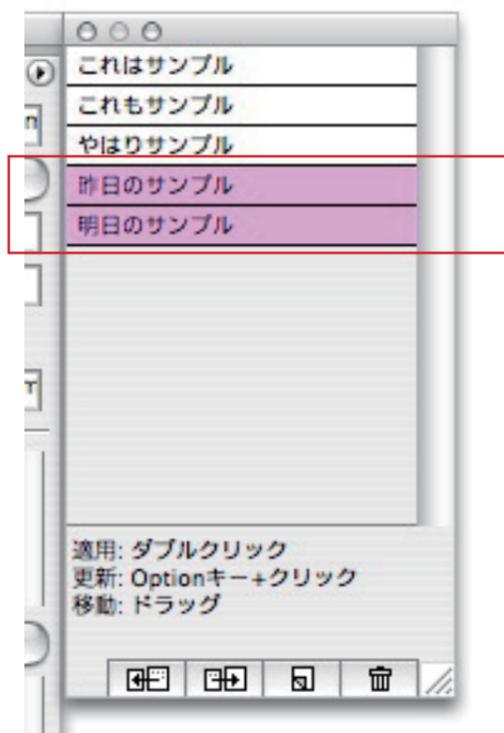
※図は Mac OS X 環境でのインポート例です。

B

1



2



B インポートするプリセットの選択

1

インポートするプリセットを選択するダイアログが現れますから、リストから希望のプリセットを選択して OK ボタンを押すと、...

リストのエントリは、Shift キー+クリックで連続複数選択、コマンドキー+クリック (Windows では Ctrl キー+クリック) で任意の複数選択ができて、それらを一度にインポートすることができます。

2

インポートが完了します。

【参考】 プリセット・ファイルを直接複製利用することもできますが、注意が必要です。詳細については「ROBO4 リファレンス.pdf」の「プリセット > プリセット・メニュー > 保存ファイルについての詳細情報」セクションをご覧ください。

C 旧 ROBO3 からのインポート

旧 ROBO3 からの ROBO4 へのインポートは、Mac 版間または Windows 版間に限ります。

旧 ROBO3 の「書籍 JAN,(13 桁)ISBN/分類価格コード」をご利用の方へ

ただし、Mac 版の旧 ROBO3 から ROBO4 へは

新 ROBO4 の「書籍 JAN, 日本図書コード」パネルでは ISBN コード 10 桁構成のプリセットと ISBN コード 13 桁構成のプリセットのどちらをもそれぞれ個別にインポートできます。どちらのプリセットをインポート対象にするかは、インポートボタンをクリックする前に本体パネル最上段のポップアップ「ISBN コード < 10 桁構成 > : / ISBN コード < 13 桁構成 > :」で指定しておいてください。

Illustrator 8/9 用の間

Illustrator 10 以降用の間

でないとインポートできません。

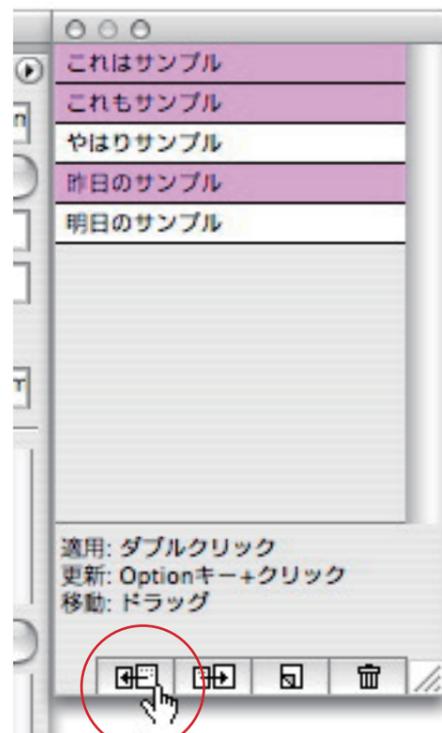
いったん ROBO4 環境へインポートすれば、Illustrator のバージョンおよび OS に関わらず自由にインポート可能になります。

【注意】 旧 ROBO3 のプリセット・ファイルを直接複製して利用することはできません。

▶ プリセット・メニュー > エクスポート (ROBO4 → ROBO4)

ここでいうエクスポートとは他の同種パネルの設定に関するプリセットへの書き込みのことを指します。

【注意1】 旧 ROBO3 へのエクスポートはできません。
【注意2】 ネットワーク環境においては、エクスポートされる側の共有設定および書き込みの許可がなされていることを確認してください。不明の場合はネットワーク管理者にお尋ねください。



1

2

1

他の Illustrator にインストールされているバージョン ROBO4 のプリセットへエクスポートしてみます。

プリセット定義パネルのリストからエクスポートするプリセットを選択して、...

【注意】 Windows 版 CS6 以降用 ROBO4 では、複数選択する際に「ドラッグによる行の入れ替え」チェックボックスを外す必要があります。

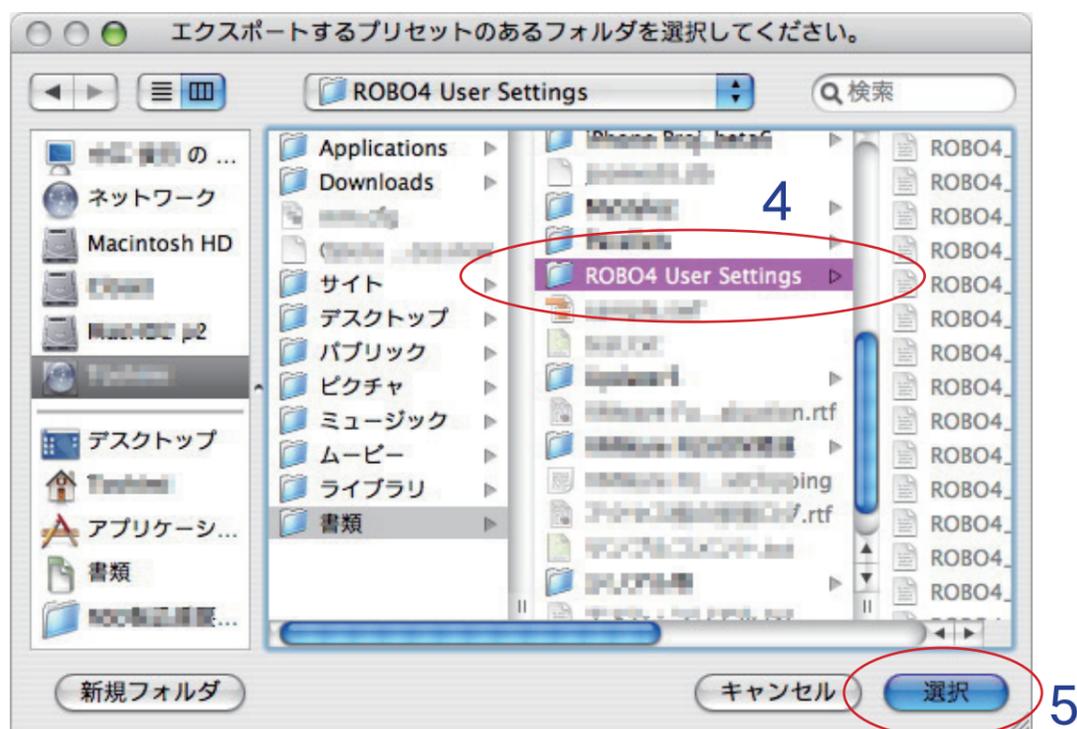
ROBO4 どうしなら Mac/Windows 版間でもエクスポート可能です。

エクスポート先のフォルダに関する詳しい情報については、「ROBO4 リファレンス .pdf」の「プリセット > プリセット・メニュー > 保存ファイルについての詳細情報」セクションをご覧ください。

2

プリセット定義パネルの下段にあるエクスポート・ボタンをクリックすると、...

<このセクション続く>



※図は Mac OS X 環境でのエクスポート例です。

エクスポート先のプリセット・ファイルを含むフォルダを選択するダイアログが現れますので、...

【注意】 CS6以降用 ROBO4 と CS5 以前用とではお互いのプリセットファイルへのエクスポートはできません。CS6以降用 ROBO4 では CS5 以前用のプリセットからのインポートはできません。

別のユーザ環境などにある「ROBO4 User Settings」フォルダまたは「ROBO4 User Settings 2012」（CS6以降用）フォルダを選択してください。右に示すフォルダ内にあります。

- ◎ Mac 版 Illustrator 10 以降の場合：
ユーザごとの「書類 (Documents)」フォルダ内
- ◎ Mac 版 Illustrator 8/9 の場合：
Illustrator の「プラグイン」フォルダの「ROBO4_89」フォルダ内
- ◎ Windows Vista 以降の場合：
ユーザごとの「ドキュメント (Documents)」フォルダ内
- ◎ Windows XP 以前の場合：
ユーザごとの「マイドキュメント (My Documents)」フォルダ内

「選択」ボタンをクリックしてください。エクスポートが完了します。

エクスポートされた側は該当パネルを開き直すことで更新が反映されます。

【参考】 プリセット・ファイルを直接複製利用することもできますが、注意が必要です。詳細については「ROBO4 リファレンス.pdf」の「プリセット > プリセット・メニュー > 保存ファイルについての詳細情報」セクションをご覧ください。